山嶽寮

甲南山岳会通信第５８号　　２００３年１０月

山　嶽　寮

甲南山岳会通信　５８号　　２００３年１０月

香月慶太さんを偲ぶ　鷲尾　顕 …… 1

随　想

思いつく侭に　佐野源一 …… 4

紀　行

2002年～2003年歩きから　雨宮宏光 …… 6
チベットの秘境　可可西里　雨宮宏光 …… 8
ニュージーランド山見遊山　越田和男 …… 12
ブラジル紀行　福田信三 …… 19
2002年地中海ヨット航海記　柏　敏明 …… 50

会員短信

総会・慰霊祭への出欠はがきから …… 60

追　悼

香月さんを偲ぶ会 …… 71
横山洋君を偲ぶ　鈴木　功 …… 84
洋君との想い出　井上　徹 …… 85
横山洋先輩とカレーライス　井上知三 …… 88
ホームページに寄せられたメッセージ …… 89

報　告

定時総会　山本真博 …… 94
会計報告　山本恵昭 …… 94
秋の集会 …… 95

ホームページから …… 96

会員の著作・翻訳のご紹介
平井吉夫会員「殺戮のタンゴ」他 …… 96
中井久夫会員「清陰星雨」他 …… 97
南里章二会員「全世界紀行」 …… 98

掲示板書き込みダイジェスト
山行とつどい …… 99
２００２年度　甲南高校山岳部　年間活動報告 …… 120

香月慶太さんを偲ぶ

鷲尾　顕　（旧文１５回）

2 月 10 日、見舞つたのが最後となる。病篤いなか酸素吸入を受けながらも、律儀に息苦しい最中、絞り出すような声、とぎれとぎれの「有難う」が耳に強く残る。

香月慶太さんの足跡を辿り、追悼のよすがとしたい。1910 年生れ。1922 年甲南小学校 5 年修了より旧制甲南高校に入学。（註１）1923 年校内同志を図つて、遠足部が発足し、1925 年山岳部に改稱、今年で 78 年が経つ。甲南高校在学中は、穂高、劔、南アルプス等を踏破。昭和初期、日本山岳界に輝しい記録を遂げた甲南山岳部の活躍の基礎作りに大きく貢献された。1930 年甲南高校を卒業、神戸商大（現 神戸大学）に進学。この年に山岳部ＯＢ会として、甲南山岳会が誕生。1933 年、神戸商大を卒業、三井物産に入社。商社マンでありながら海外勤務がなかつたのは、本人の意向によると述懐されていた。

山岳会誕生以来、会長として孫のような若い会員にも、山の仲間として気さくに接し、会員相互の親睦、後進の指導育成に尽力された。現役が各シーズンの山行に際しては、朝夕に無事を祈願された逸話がある。

1951 年、学制改革により旧制甲南高校は新制大学となり、山岳部は新制大学に引継がれた。甲南大学体育会の中で、旧制から新制へと連綿と続く運動部は数少い。新制卒諸兄の積極的協力の賜物である。甲南山岳会は香月さんの生きがいの場であり、深い愛着を持ち、折にふれ会報「山嶽寮」に「山嶽寮炉談」を寄稿。青春時代を回想し、山に登る事が豊かな人生の支えになることを説く文章家であつた。山岳会の行事には積極的に参加され、恒例の乗鞍鈴蘭集会は毎年楽しみにされていた。

1989 年、創立以来 59 年の長きに亘つた会長を退かれ、名誉会長となり、私がその跡を引き継いだ。名誉会長となられても山岳会への愛着は何等変ることなく、会合には積極的に参加され、現役部員の減少には心を痛めておられた。1952 年芦屋ロックガーデン、ブラック岩に設置した追悼レリーフに 1991 年、山岳部創立 60 周年記念事業として物故者慰霊の氏名銘板が作製され、レリーフに埋込む慰霊祭が物故者遺族を招いて 1992 年 5 月に行なわれたことは周知の通りである。この記念行事に香月さんは足

の衰えのため参加出来ず芦屋川駅北側広場にて、無念の想いで一行を見送られた。然し、追悼レリーフを訪れ、亡き友に会いたいとの強い思い入れを持たれ、1993年7月、村上與利一、大森雅宏両君と現役の献身的協力によりお多福山山麓芦屋カントリー倶楽部の近く迄車で行き、転倒防止のためアンザイレンしブラックへは約2時間程かゝつて到着。香月さんは暫し黙祷を捧げ、「かねて気がゝりになつていた心のしこりが取れた」と述べられた晴々しい表情が鮮やかに瞼に浮かぶ。

香月さんを語るには、甲南時代紋付き黒袴姿の応援団長としての活躍、旧制高校寮歌祭への参加、旧制甲南高校の歌曲集を抜くことは出来ない。応援団長については、自らが旧制甲南歌曲集の中で、浪速高校との野球定期戦の前日、食堂で檄を飛ばした模様が詳しく述べられている。（註2）旧制甲南高校歌曲集掲載の香月さん寄稿「あの頃」の一部を抜粋する。

『学校の西北隅の食堂で、昼食は全校生徒が全教員と共に給食を摂るがベルを押されると一斉に箸を持つ。そのベルの鳴る一瞬前を捉えて私は激を飛ばした。五百の健児の気魄を我がナインに託し、この戦いに勝利の栄冠を勝ち取らねばならない。数多くの応援を期待するや切』

と若き日の情熱をフィルムの齣を戻すが如く回想されている。旧制高校寮歌祭は1997年迄、毎年旧制高校卒業生が参加し東京、大阪で行われ、大阪の会場、中央公会堂には甲南の最長老として必ず参加、頭に甲南の校章のついた手拭を鉢巻きして、壇上に立ち、応援旗を振りかざし、指揮を取り、張りのある若々しい声を出して歌う姿が見られた。旧制甲南高校歌曲集は香月さんが編集発行人となり、芝川又彦君（旧文 16回卒）徳末省三君（旧理21回卒）小林章男君（旧理24回卒）の三人の共同編集により、旧制甲南時代の歌曲、校歌、応援歌、各部部歌を集録し、1967年刊行され、貴重な資料として昨年復刻版が再刊された。香月さんは歌曲集に『甲南時代の懐しい歌は無二の若返り剤であり、枯れることのない活力の源である。』と述べられている。青春の情熱溢れる香月さんによる歌曲集の巻頭言の一部を掲載する。

『六甲の麓、二楽荘下の学園、甲南高校
　そは我が母校、吾等が心の故郷である
星霜移り人去って学び舎にとどめる俤も
　今やはかなし
されど若き感激をこめて作られた
　青春の譜は永遠に消えることなし』

1995 年、阪神大震災に被災、夙川の自宅が倒壊したため、大阪十三に約 3 ヶ月仮住いされ不自由な生活を強いられ、自宅に戻つた後、脳梗塞に倒れ、其の間、夫人加寿子様が亡くなる不幸に見舞われた。３年前 2000 年 4 月、總会は牧野会長（当時）の配慮により住いに近い夙川公民館で催され、車椅子で参加され、車椅子から立ち上がつて挨拶されたことは会員諸兄の記憶に新たなことと思う。2001 年 4 月、甲子園の養護老人施設、シルバーコーストに入所、療養の日々を送られたが、体調を崩し 2003 年 1 月西宮、笹生病院に緊急入院され、2 月 26 日、92 才の生涯を終えられた。

告別式は涙雨降る 3 月 1 日、西宮楠会館で行われ、武田会長を始めとし、佐野源一さん、国府雄次郎さん、赤松二郎さんの他、多数参列し、柩に 75 周年記念号「山嶽寮」を納め、出棺に際し、山岳会参加者一同、「山の歌」黎明の御空を合唱し最後の別れを惜しんだ。

天寿を全うされた年令ではあつたとはいえ、私にとつての７０年来の先輩、香月さんを失つた悲しみは余りに大きく充分意を尽すことは出来ない。

甲南山岳会生みの親、香月慶太さんを偲び安らかな眠りを祈る。

（註 1）当時の学制では、小学 5 年修了の特進が認められていた。

（註 2）毎年 5 月頃、浪速高校（学制改革により大阪大学に吸収された）と野球の定期戦が宝塚球場で行われ、阪急岡本駅から応援団のため、宝塚への直行貸切電車が出た。

追記　總会・偲ぶ会のスピーチと一部重複しているのでご諒承下さい

（０３．６．１６記）

―随　想―

思いつく侭に

佐野源一　（旧１０）

ケタさんが亡くなつて寂しくなりました。

6月7日88才になり1年上の富山にいるイノキンさんが最年長で同期のボンチと私がその次になりました。

振りかえつてみますと私の学生時代は高所雪中キャンプの初期でテントやアンダーシートはどんな物を使つたら良いのか等試行錯誤の時代で、ヒマラヤへの夢を抱いた頃もありましたが、当時の社会情勢ではとても許されるものではありませんでした。

卒業後1年徴兵で満州国（現在の中国東北部）東寧に入営、其れ以来終戦迄5年5ケ月その間幹部候補生として、千葉県四街道の野戦砲兵学校で約 10 ケ月間教育を受け原隊に復帰しましたが、19 年 11 月ハルビン特務機関に転属、隷下の特別航空隊で航空気象を担当したのですが、この部隊は開拓義勇軍で落ちこぼれた少年達を集め、落下傘降下の教育をして有事の際敵の後方撹乱をやると言うのでした。

そして20年8月終戦。ソ連に捕虜となり、最後 10 ケ月間の特務機関勤務のせいでアンチソ連、反革命の罪で刑を受け 31 年 12 月帰国するまで11年4ヶ月、この間の栄養不足と重労働で身体を壊し、復員後9ケ月間療養して復職したのですが、以来思うような山行も出来ないので復職後5年位してから、少しは体力も回復しせめてスキーだけでもと始めたのですが、なにしろ20年以上経つているので浦島太郎、スキー術も変つていて苦労しましたが、停年後オーストリースキースクールに5年程通つて何とか戦前のスキーから脱却出来ました。

その後はダイモンとよく一緒に主として奥志賀で滑り、時にはニセコにも行つたりしましたが，彼が亡くなつてからは白馬の早稲田のヒユツテで後輩達と滑つたり、蓼

科に行つてワイフペースで滑つたりしていましたが､81 才の 4 月ツアーに 1 人で参加、ツエルマツトに行き、稜線を越えてイタリー側にも滑つて行きましたし氷河も滑りましたが眼前にユングフラウやマツターホーン等があるのに登る事が出来ず情け無い思いをしました。

其れ以後は神鍋のゆるいスロープで滑る等細々乍らスキーを続けていましたが、84 才になつて膀胱癌発病の為残念ながら止めざるを得なくなつてしまい現在に至つています。

現在老化現象の腰痛で 2 キロ位歩くと腰が痛んで来るので毎日の散歩もその程度にしています。

（写真は平成 9 年 4 月）

皆様からのご寄稿をお待ちしています。

最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加してなどジャンルを問いません。原稿は 縦書き 横書き 手書き ワープロ いずれでも結構です。ワープロ（パソコン）使用の方は、ファイルでお送りくださると編集がはかどります。フロッピーディスクのほかＥメールもご利用ください。

宛　先　山嶽寮編集担当　　654 - 0143　神戸市須磨区菅の台　5-3-12-505　大森雅宏

電話／ファクシミリ　078-791-9600　　Ｅメール　ｊｈ３ｒｘｈ＠ｆ７.ｄｉｏｎ.ｎｅ.ｊｐ

２００２年－２００３年歩きから

雨 宮 宏 光　（昭３３経）

２００２年

新穂高集会前後　焼岳と安峰山

新緑の素晴らしい、中尾平温泉での例年の集まりに上高地から焼岳まで歩き中尾峠を越え　て温泉に。宿泊の翌日　飛騨古川の安峰山に眺望は今ひとつ。

５月３１日―６月２日　雨宮　牧野　塩崎

位山と三方岩岳

はじめ計画の御前岳は森茂峠付近で林道通行不可で位山に変更。夜北飛騨河合村のユメ・ハウスでなまず料理を楽しむ。翌日白山スーパー道で途中駐車して約 50 分で頂上の三方岩岳に。あと親谷の湯という川原の露天温泉につかって、結構な滝をみつつ極楽気分。

７月２７日―２８日

雨宮　二谷　森本　塩崎　山本

鳳 凰 三 山

カンロクの発案で南アの前衛峰にいく。初日甘利山の韮崎市営のロッジは驚きの 1 泊￥630、散歩道の甘利山頂上は高山植物が楽しめる。

翌日青木鉱泉に車デポ、ドンドコ沢をいき鳳凰小屋まで６時間、かなりきつい登りカンロクは１人地蔵岳の賽の河原に行く。雨宮　塩崎　山本は小屋前でのんびり。

翌日小屋前から観音岳への取り付き道はかなりきつい登り。

稜線からの景色は最高。花崗岩と白砂のロック・ガーデンのような稜線をいき観音岳から薬師岳に、青木鉱泉への下りはシラビソと唐松、岳樺の樹林帯で景色見えぬが下降路としては安全。とにかく暑くてまいった。行動中水ばかりで食べ物口に入らぬ。下山して青木鉱泉で汗流し帰神。こんなに汗かいた山は初めてでいやになった。

８月５日―７日　雨宮　森本　塩崎　山本

蓼 科 山

新築なった山荘行きかねて、仙丈岳計画も天気今ひとつで蓼科山に行く。女神茶屋登山口に車デポ、出足熊笹の平坦道から結構な急登、途中ビューポイント２ケ所水場

なし。

約 3 時間弱で頂上。黒い岩石だらけの頂上からは絶景、少し曇り気味の方がスカイラインくっきり見えてこの景色は最高。竜源橋に下山。翌日、奥茶臼山と大西山と今後の山荘ベースの山へのアプローチを調べに走る。地蔵峠には先に豊丘村から登った鬼面山への登山口がありこの方が楽だろう。

９月２１日―２３日　雨宮　二谷　山本

母袋烏帽子岳と御前山

木曾駒王の集会前の登山は車の移動が問題で、結局付近うろつくハイキングになってしまう。初日三連休車渋滞は予測してたが、登山開始が 12 時 30 分となり、往復 3.5 時間の山でよかった。大和村の藤屋に泊まり翌日萩原町の御前山に、両山とも紅葉には早すぎた。

駒王の集まりは 32 人と盛会。

14 日夜　伊那松川町の清流苑で宴会後山荘泊まり 15 日帰宅　その間天気最高。

１０月１２日―１５日　雨宮　鳥居　二谷

２００３年

ニュージーランド

M. t クックと

グリーンストーンルート・バントラック

越田君からの誘いで即参加決定。

快適なロッジと氷河、寒冷雨林、高山の花、湖と変化多いコースで楽しめました

１月１７日―３０日

雨宮　米山　越田夫妻　平井吉夫　鵜木

甲南山岳部ホームページのご案内

インターネットで甲南山岳部のホームページをご覧になったことがありますか？

ホームページの「掲示板」は会員相互の連絡に重宝で、近況はじめ山行のことや飲み会のこと、部室にたむろしていた頃のように情報が耳に入ってきます。

「アルバム」では会員の山行の様子や街での姿が見て取れます。懐かしい写真も寄せられます。

アドレスは

http://homepage2.nifty.com/konan-alpin/

何やら長いし面倒な、と言う方は「甲南山岳部」「甲南大学山岳部」で検索して下さい。

よくわからないぁという方は、ご家族・お孫さんにお尋ねになるのも方法です。

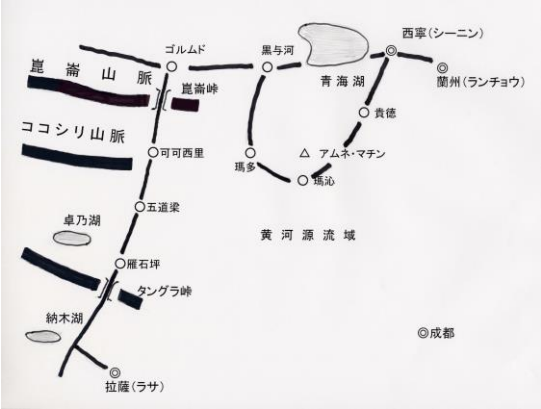
新しいコミュニケーションが広がるかもしれません。

２００３年 チベットの秘境　可可西里「ココシリ」

雨 宮 宏 光　（昭３３経）

はじめに

昔読んだプルジエワルスキーやＳ・ヘディンの探検記に書かれた崑崙山脈の南支脈の可可西里山脈はこの２人の探検家以後訪れた人がなく、１９９４年日中合同学術探検隊が調査した記録が唯一の資料であり、過去２回チベット横断 6,000 キロを行った次はラサから北上し・・縦断・・を試みるという単純な発想と秘境可可西里への憧憬つのり、出発前の現地旅行社とのやりとりでは、ココシリの卓之湖付近まで“道あります”に半分程度の期待をもっての出発となりました。



ＳＡＲＳ騒ぎのうちに関西空港から

４月２４日　関西空港―成都

関西空港はガラガラ、全員マスク着用と気持ち悪い。後で知ったがこの日のフライト以後、関西―成都便は廃便。又中国への渡航自粛でわれわれが最後の客だったらしい。

４月２５日　成都―ラサ

空港には今回のガイド 辺 次 と運転手、落 桑 が迎えにきてる。辺 次 は３４歳歌の上手なかなかのハンサムで１４歳まで僧呂だったという。行く前から念押ししてた車をチェック、4500ｃｃの豊田　砂漠王の名前とおり過去２回に比べかなり上等。ラサ周辺を１０年しか走ってないとガイドは自慢してた。又事前にやかましく請求してた酸素ボンベはいつものことながら、ビニール袋に酸素が詰まってる無いよりまし程度の代物でした。

４月２６日（曇り）　ラサ市内

４月２７日（曇り）　カンパ峠まで

高所順応をかねて、カンパ峠「4,600m」とヤムドク湖往復する

４月２８日（曇り）ラサ-納木湖―当雄

２３０キロ　所要８時間４０分

４月２９日（曇り 雪）当雄―雁石坪

３８０キロ　所要 9 時間 30 分

４月３０日（曇り 雪）雁石坪―五道梁

２７０キロ　所要 4 時間 10 分

ゴルムドからラサまで鉄道工事でトラック多い。五道梁の直前で北に可可西里山脈が見える。公路から離れて西にまったく平坦な湿地の高原はどこまでも走れそうだが、困ったことに道が工事ですべてレベルアップしており、まず車が下れそうに無い。

事前の情報で小道ありますといっていたガイドもかなり自信喪失の感じ。

招待所に入り、早速地元で情報集め。ガイドの話では車１台で行くのは自殺行為で２台準備して、ぬかるみに入ったら助け合っていくべしと、自然保護の連中に言われたとか。青海省から少数の砂金採りと塩採りが毎年やってくるが、どのように行ってるのかは不明等、バッド・ニュースという。

ラサ出発から感じていたが　彼等は危険な可可西里など本当は行く気なく、バッド・ニュースを伝える顔が気のせいか明るい。

５月１日（曇り）　五道梁―ゴルムド

２７０キロ　所要 4 時間 30 分

出発して３０分ほど公路の西側の川に立派な橋があり道は左に、この辺レベル差なく可可西里方向の高原に進めるが、到るところに水たまりがありかなりの湿地で今回の目的を完全にあきらめる。以後鉄道工事現場見学みたいな道ばかり、崑崙山脈をぶちぬいたトンネルが 3 ケ所、試運転の列車も走っておりびっくりする。ラサからゴルムド間１１６０キロの途中人の住む場所は５ケ所くらい、こんなところに鉄道引いていったい誰が乗るのか判らない。

５月２日(晴れ)　ゴルムド―黒馬河

７００キロ　所要　10 時間

積み込んだテントほか使うことなく日程があまり急遽行く先を変更、黄河源流記念碑とアムネ・マチンを見に行くこととし、その旨ガイドに話す。道は完全舗装で標高も低く居眠りドライブ、やがてココノール湖がみえ水面が青く光ってる。このあたり放牧のヤク、羊多くやっと景色に変化が出てくる。出発前に予約してた青海賓館に着けばＳＡＲＳ騒ぎでお客なくホテルは閉まっており、引き返し黒与河の招待所で泊まる。

５月３日　（曇り）　黒与河―温泉

３５０キロ　所要８時間

温泉とは名ばかり　確かに招待所の近くにたまり水みたいな温泉あったが体を拭く程度で入浴などできず入浴の淡い期待はパー。

５月４日　（曇り）　温泉―瑪多

３４０キロ　所要９時間

黄河源流記念碑をみにいったが、湖を二つ過ぎて走るもまったく見つからない。２時頃湯を沸かし湖のそばでラーメンを食べ

てると突然雹が降ってきて天気悪くあきらめて引きかえす。あとの調べではもうひとつ湖がありそれを過ぎた場所だったらしい。

５月５日(曇り・雪)　瑪多―瑪沁

２９０キロ　　所要８時間４０分

この道は悪路と聞いてたが、ほとんど舗装の道 4300m位の峠を３ケ所越えながら西側に見える？はずのアムネ・マチンは天気悪くまったく見えず期待ははずれ。

５月６日　(曇り)　瑪沁―貴徳

３４０キロ　　所要８時間

５月７日　(曇り)貴徳―西寧

１１０キロ

５月８日　西寧・飛行機・北京・成田

ＳＡＲＳに降参

新聞報道で出発前からいやな感じだったが、青蔵は大丈夫と考え計画実行した。参ったのは青海省に入ってから道中での消毒計４回と西寧での健康診断。これがないとホテル泊まれませんといわれ、病院でレントゲンほか血液検査してその証明書をもってホテルに。ホテル入り口で又熱測られやっと部屋に、テレビ見ると“宣戦　ＳＡＲＳ　主戦区　戦場”と恐ろしげなニュースばかり。加えて帰国の北京からのフライトがほとんど運航しておらず、５月８日閑散の北京空港着２階の国際線カウンターで幸運にもＪＡＬ成田便があり帰国しました。購入済みのＣＡ便のヤスチケットはパー。加えて成田から自宅まで新幹線といやになりました。更に会社は１０日間の出勤禁止とさんざんでした。

ス タ ッ フ

ガ　イ　ド

辺　次　Pempa Tsering　34 歳

元僧呂という陽気な男、時に演説が始まるのには閉口したがすごい美声で車の中でよく歌ってた。お経と絵を印刷したコピーを準備してきて食事にのたびに、店の人に渡してた。

ドライバー

落　桑　Lop　Sang　41 歳

熱心なラマ教信者で、招待所に着くとすぐ部屋の床でお祈りの小枝を燃やし、朝はラサから持参した水をわれわれの手のひらにかけてくれた。

困ったのは大変なモスラム嫌いで青海省は 50％くらいモスラムで道中の食事にチベット風が少なく、いつもまずそうに食べていた。運転におかしな癖？があり発進はサード・ギヤからで、スタートのときのろのろで参った。

食　　事

朝は日本から持参のパンとクラッカーとインスタントコーヒだけ。昼はうどんか炒飯

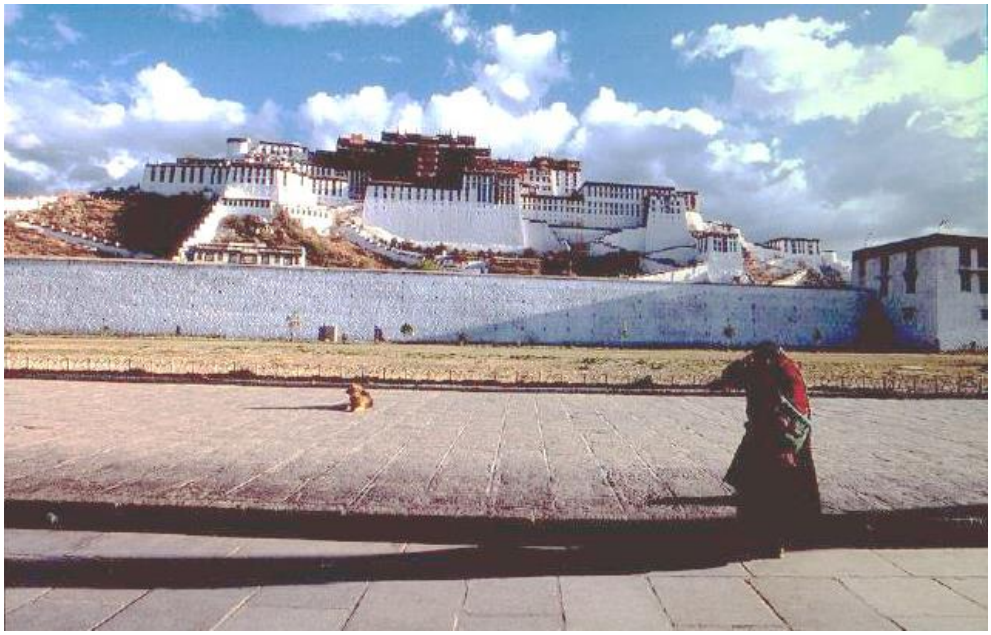
夜も現地食で３品程度でしたが、体調は順調でした。ガイドはヤクの干し肉を薦めてくれたが、歯が立たず、ドライバー愛用のツアンパも遠慮しました。

あ と が き

天候に恵まれず、又甘い予測が外れて可可西里に入れず、行き当たりばったりに走り回っただけ。過去２回のチベットに比べて道が格段によく、最高 5200ｍの標高以外青海省は 2800ｍから 4100ｍ位に泊まっていたので体は楽でした。

ＳＡＲＳ騒ぎさなかの出発はわれわれで最後であり帰国して聞いた話では日本からの遠征隊もすべて中止か延期で現地外人の姿みませんでした。

注　所要時間は途中食事・休憩・見学等を含んだ時間です。



― 紀 行 ―

ニュージーランド山見遊山

越 田 和 男　(昭３６理)

若い頃、ニュージーランド（以下ＮＺ）の山歩きなど夢のまた夢でした。１９５３年のエヴェレスト隊のエドマンド・ヒラリーやジョージ・ロウ、それに１９５５年のカンチ隊のノーマン・ハーディーらがＮＺの出身だということで、きっといい山があるんだろうと思ったのがＮＺの山を意識した最初で、マウント・クックやタズマン氷河の名前くらいが知識の片隅にインプットされていました。

１９６０年代になると、日本山岳会の佐藤テル女史の率いる女子登山隊がＮＺ遠征を果たし話題になったのですが、当時は海外渡航も容易ならず、まだ“登山隊”であり、“遠征”であり勿論高嶺の花でありました。

ずっと後になって、１９８１年、ＮＺ航空が週一便の東京－オークランド直行便を就航させた時にキャンペーンの一環で ＮＺ Alpine Seminar というのをやり、タダだというので帝国ホテルまでのこのこ出かけて行ったことがありました。そのとき配られた資料を後生大事にしまいこんであったのを今回の計画時に取り出してみたら、“マウント・クック・トレッキングとフィヨルドランド国立公園１０日間”というツアーの代金が５２万８千円とあった。安月給のサラリーマンにはやっぱり高嶺の花、１０日間の休暇などもとてもとてもの時代でした。

昨今の不況はともかくとして、時代は好転しました。リタイヤ後の年金生活者でも何とか行ける世の中となり、昨年退職の目処が何とか立った頃、米山悦朗先輩（バブさん）のひとこと、コッシンＮＺへ行かへんか､にパックリ｡行きましょ行きましょ、私プランたてますわ、と相成り、メンバーは都合の合った甲南山岳会の５名（米山、雨宮、平井、鵜木、越田）プラス私の家内の計６名で、今年の１月下旬の１４日間、念願の旅となった次第です。

マウント・クックの麓にて

やはり彼の国の最高峰(3,754m)には敬意表すべきとの単純な理由で、旅の始めは山麓の豪華ホテル（The Hermitage）に２泊して、なか１日を日帰りトレッキングとし

た。着いた日は雨で肝心の山見えず、しかも夜になると本降り。もっぱら観光客向けのこのホテルはほとんどの部屋から Mt.クックが正面に見えるはず。明日も雨なら悔しいな、の思いしきりだったが、翌朝運良く晴れた。部屋の窓から、Mt.クックから南に Mt.セフトン(3,157m)に至る氷雪と岩の峰々が大迫力で望まれた。

Mt.クック村のホテル前で

それにその朝、思いがけずこんなところで卒業以来４０数年ぶりに旧友で甲南時代二人ともワンダーフォーゲル部で活躍していた竹原伸爾夫妻とバッタリ。こんなところで卒業以来４０数年ぶりに旧友と再会出来るのも時代の好転の恩恵か。

トレッキングの行き先は、ホテルから標高差 600m位の尾根上にあるシアリー・ターンズ (Sealy Tarns: Tarn は池の意味)。２時間半の急登は結構きつかったが、八方尾根の八方池あるいは穂高の奥又白池のような感じの別天地で、Mt.クックからセフトンにかけての主稜線と氷河群をトイメンから間近に望め、凄みあり。ここまでの行程では物足りない元気おじさん、一行の最年長者のバブさんひとり、更に往復３時間ほどのところにあるミューラー・ハットまで足を伸ばすと、駆け上がって行ったあと、池の畔でホテルの用意してくれたランチを広げ一同大満悦だった。このランチ、渡された量の半分はホテルに残してきたのだが、それでも食いきれなかった。

Sealy Tarns にて

山々の景観は、標高では日本の山と大差ないものの、氷河があるのでヨーロッパ・アルプスに近い。花の種類は意外と少なく、この季節ラージ・マウンテン・デイジーの白い花のみ盛りだった。観光用の写真でよく見たルピナスも少々残っていたが、今やこの花は外来種として駆除の対象とか。過去１００年やそこらでこの国の生態系をすっかり変えてしまった反省からだろうが、白人の持ち込んだ羊を初めとする四つ足は

どないすんねんと聞いてみたいところですね。

丸１日天気は上々だった。この後、フッカー谷の入り口を覗いたりしてホテルに戻り、テラスでビールを頂くと、充実した旅の滑り出しをつくづく実感した。

グリーンストーン・トラックと
ルートバーン・トラックの山旅

旅のハイライトに選んだのは５泊６日の上記トラックの連チャン。合わせてグランド・トラバースと呼ばれている。定番のミルフォード･トラックを選ばなかったのは、谷間の森林浴がほとんどで、山の景観を楽しめるのは　マッキノン峠を越える日１日だけというのを敬遠したためで、その日天気悪ければ山を見ずじまいになるなんてのは避けたかったから。これ正解だったかも。

ＮＺでの小屋泊まりのトレッキング方法には、食料、寝具持参の Free Walk と三食賄いガイド付で小屋も専用の快適なのが使える Guided Walk があるが、定年退職組の山見遊山の我々一行は迷わずガイド付を選んだ。出発の朝クインズタウンからのバスに乗り込んだ今回のツアー客一行は我々日本人６名、豪人７名、ＮＺ人３名の１６名に屈強な若者３人（ジェレミ、ニック、マイク）がガイドとして就くという贅沢豪華版。日本語をしゃべれるマイクの参加は、日本からの添乗員なしの我々のための特別アレンジだったかどうか、聞きそびれた。因みに、このツアー代金、現地申し込みの場合お一人様 1,425ＮＺドル、邦貨約１０万円也。

初日は生憎の雨模様。トレッキング出発地点のグレノーキーでその日の巨大な弁当を渡され、ゴアテックスのジャケットにリュックカバーの雨支度、先行き暗いが鮮やかな虹に見送られての出発となった。この日はひたすら、広々としたグリーンストーンの谷をスチール・クリーク小屋まで林間や草原や河畔を 18Ｋｍの雨中行軍。ランチタイムは、ルートから少し離れたところにシェルターがあり、先行したガイドが暖かい飲み物を用意して待っていてくれる。

リーダー格のジェレミが何やら注意事項を早口でまくしたてた。彼らの英語は実際判り難い。しゃべり終わった後、我々に向かって「お分りか？」ときた。勿論「No！早すぎて分からん！」すかさず、ＮＺ人の 13 歳の坊やが「イヤー、早すぎる！」とクレーム、大笑いとなった。

夕方、ずぶ濡れで辿り着いたスチール・クリーク小屋は、今回泊まった小屋の中では一番古いものだったが、一応温水シャワー、乾燥室完備。ゆったりベッド、リビングには石炭ストーブと、至れり尽くせり。アルバイト風の娘さんがひとり泊まりこんで管理していた。ガイドの 3 人は直ぐにエ

プロンがけ、担いで来た食材で夕食の準備。その間我々はビール。ビールとワインは別勘定でガイドが手帳に付け、トレッキング最終日にカードで清算という仕組みだった。缶ビール280円、ワインはフルボトル1,400円。

晩飯はスープ、サラダにメインがスパゲティーミートソース、デザートにチーズケーキがついた。我々は赤ワイン１本。祖母と２人で参加の前述の坊やはビール、お婆さんがワインかコーラ、トレッキング中ずっとこのパターンだった。悪くないですね。

２日目。朝飯前にテーブルに昼弁当の食材が並ぶ。各自好きなだけサンドイッチなど作る。以後この方式だったが、この方が巨大な弁当を渡されるより具合がよろしい。朝飯は卵料理などチャンとした物を腹いっぱい食わせてくれる。

残念ながらこの日も雨模様。完全な雨支度で9時半過ぎに出発。9時半に遅れぬように集合と言われていたので、客の方は全員5分前には勢揃い。ガイドが5分ばかり遅れて出て来た。どう言うかな、日本なら「いやーお待たせして済みません」だろうが、ここでは「皆んなそろっとるか、ほな行こか」だった。

先ずはスチール・クリークにかかる吊橋を一人づつ緊張して渡った。結構長く高度感もあり、足下の流れも清冽で、景勝の地だった。この日もグリーンストーンの谷をひたすら遡り、マッケラー湖の湖畔の小屋を目指す16Ｋｍの旅。晴れておれば前方に雪山が見えるはずという。時々ガスの晴れ間にスケールの大きいジャンダルムのような岩峰が中腹に氷河をまとって垣間見えた。

3時前にはMcKellar Lodgeに到着。最近改築されたらしく、昨日の小屋より設備良く、自家発電もある。ここで連泊することになっているので気が楽だが、天気予報は壊滅的。のんびりと小屋の生活を楽しむこととする。シドニーから参加の会計士夫妻はひたすら読書。時々奥さんが朗読するのをダンナはワイン片手に悠然と聞き入っている。バブさんは、はずかしがるオーストラリアの少女を、母親の了解済みといってカメラで追い掛け回している。この夜は連泊、自家発というので少々夜更かし。

翌日は右岸の 1,538m ピークを往復の予定だったが、今ひとつの天気だったので、途中の見晴らしの良い稜線の Lookout Point まで午前中に往復3時間ほどのハイキングとなった。林間の登高もそれなりに風情があったし、稜線に出た頃には晴れ間もあり、足下にMcKellar Lake、 対岸には雪と岩の稜線(Ailsa Mountains)も望めて満足した。沈殿を決め込んだのは雨さんと仙吉、惜しいことしました。

Lake McKellar を見下ろす

(Greenstone Track)

さて４日目。今日と明日が山岳景観のハイライト、天気は好転の兆し。2 時間ほどで分水嶺に近い Lake Howden の畔にある小屋に着き、荷物を置いて展望台のような Key Summit(919m)を往復した。森林限界を抜ける頃、丁度晴れ上がり、頂上では秀峰 Mt.Christina(2,332m), 名前の通りの Pyramid Peak(2,292m)など、360 度の展望に恵まれ、頂上付近の池塘の水面にそれらが映えた。またもや小屋で沈殿を決め込もうとした仙吉が、晴れ出したので慌てて飛び出して来て皆の後を追った。バブさんはまさか晴れるとは思わなかったのかカメラを持たずに来てしまった。弁当を小屋に置かずにここまで持って来れば良かったと後悔。

午後からルートバーン･トラックに入り、Alisa Mountains の尾根の西面中腹をトラバース気味に Mackenzie 湖畔まで、左に谷を隔ててダーラン山脈の山々、右の尾根から落下して来る滝(Earland Falls)、 清流にかかるいくつかの小橋など、なかなか変化に富んだ3時間。この日は約20Km歩いて、一寸疲れて Mackenzie Lodge に夕刻辿り着き、小屋のウッドデッキで Ocean Peak や Emily Peak など眺めながらのビールとなった。気分が良かったので、宿帳に昔の愛唱歌「山旅」 ”夢は昔に帰り　経にし山川を行く・・・・“を３番まで、仙吉と思い出しながら書いたら、鵜木に、よう覚えてはりますねー、と呆れ顔で感心された。この夜はスライドショーがあった。

５日目。高度差もある 15Ｋｍのハードな１日だと脅されて、弁当を何時もの５割増し持って出発。湖や小屋を足下に小１時間登りつめると尾根の肩 Ocean Peak Corner。視界がさらに開けて、谷を隔ててダーラン山脈、少し奥まったところにこの辺りの最高峰 Mt.Tutoko(2,746m)の真っ白な頂が望まれた。このあと眼下の Hollyford Valley をはさみ、ダーラン山脈と平行して尾根の西面をひたすら北上する水平道はマウンテン・デイジーの群落などもあり気分爽快だった。

Routeburn Track を行く

今回のトレッキングの最高地点近くのHarris Saddle に着く頃、小雨がパラつき出したので、少々うっとうしい避難小屋での昼食となった。この辺りで一番多くのトレッカーに遭ったが、それでもこの国は入山制限が厳しいので、混雑度は日本の夏の北アルプスの百分の一以下だろうか。午後ここからConical Hill という1,513mの展望ピークに登って遠くタズマン海まで見晴らすということになっていたが、ガスが濃く断念した。オーストラリアの息子連れの元気おばさんとバブさんが登ったがあまり収穫は無かったようだ。

荒涼とした氷河地形のハリス湖がルートバーンの谷の源流となっており、午後はひたすら下る。湖畔の高巻き道ではエーデルワイスの群落を見つけた。晴れておればこの辺りで弁当を開きたいところだ。最終の宿 Routeburn Falls Lodge まで、対岸の山々をバックに先行トレッカーの行く草原を見下ろしたり、ハリス湖から落下する滝を振り返ったりと楽しみながらの小１時間だった。

最後の小屋も快適そのもの。ガイドが担いできたステーキのディナーを楽しんだ後、デザートのパンケーキ投げなどに興じた。ガイドがフライパンから後ろ向きにパンケーキを放り投げ、客がそれを皿に受ける。大半が床に落ちる。気になる人は焼き直ししてくれるとのことだったが皆そのまま食べた。

快適なRouteburn Falls Lodge

最終日。この日はわずか 10Ｋｍの行程。緑と清流をのんびり楽しみながら、モーニング・ティーと称して大休止したりして、ルートバーンの谷を下る。昼食時、若者たちは水温 12 度の流れに準備体操もくそもなしに次々飛び込んだ。例の１３歳の少年も、バブさんの被写体の少女もそれに続く。寒くないか、と問えば、寒い！といってはまた飛び込む。人種が違うというのが我々の結論。

やがて最後の吊り橋を渡ったところがTrail End。約８０Ｋｍ、６日間のグランド・トラバースの旅が終わった。迎えのバスで出発の日にも立ち寄ったグレノーキーへ。パブでビール、そして全員で記念写真。更にクインズタウンに帰ってからの打ち上げのディナーで締めくくり。坊やも済ました顔でビール。ガイドがうやうやしくトレッキング完遂の証明書や、打ち解けた仲間

たちの住所録などを渡してお開きとなった。

日本での山歩きの感覚では少々贅沢な山旅だったが、老若男女、地元ＮＺ人も隣国のオーストラリア人も、日本人も、そしてガイド達も皆それなりに旅を満喫しただろう。ＮＺへの旅には私なりの単純そのものの動機付けのキーワードがあった。

１．　優れた山岳景観
２．　美味い食事に酒に水
３．　治安良し、人が良し
４．　蛇がいないこと。

今度の旅はこれらを完全にクリヤーした。
平井仙吉が、また来たい、と言った。

（２００３年７月　横浜にて）

新日本紀行のビデオ「白馬山麓」　鹿島のおばば

伊藤五介　　2003/01/07（火）14:48

75 周年記念山嶽寮で赤松二郎先輩が上記タイトルで書いていらっしゃいますがそのなかで「全く偶然に白黒テレビで鹿島のおばば」云々の一節があります。これは新日本紀行白馬山麓というタイトルだったのですがこれを再編集し「時の旅人」として一昨年放映されました。これをこれまた偶然姪（収二の娘）が録画していました。これを見ると宿帳にはっきりと甲南山岳部　田口二郎、伊藤新一、近藤実とあるのがみられます。ダビングしてとりあえず越田君に送っておきますので興味あるかたは越田君までご連絡ください。

ホームページ書込からのご紹介でした

ブ　ラ　ジ　ル　紀　行

福 田 信 三　（昭３９理）

2001 年８月８日　還暦を迎えました。人生の大きな節目と考え、ブラジル旅行を決定しました。スイス旅行(2001 年６月 17 日～6 月 29 日)に続く紀行文にまとめました。費用の全ては藤本玲子さんからの還暦祝い金でした。感謝いたします。

８月４日〔土〕

うだるような三ノ宮駅より１２時３０分発の伊丹空港行きリムジンバスに乗り込んだ。関空行きよりも混んでいるようで、夏休みなので国内での移動が多いのだろう。高速道路は空いており予定どおりに伊丹空港に到着。久しぶりの伊丹空港だ。ずいぶん変わったように見える。ロビーも広くなり、売店や、レストランが増えた。最近は激安の切符が売られ飛行機は新幹線より安いという、時期が多い。それだけ利用者も増え、空港も整備されたのだろう。

機内はほぼ満席でやはり子供が多く、隣のがきも、ジュニアパイロットなる一人旅行のようだ。又随分なれているようで、スープのあとウーロン茶を頼んでいた。ませた、がきだ。上映された漫画の映画ではいっしょに歌ったり、うるさいがきでもあった。普通なら文句を云うところだが、何かに付けてすみませんとか、丁寧な言葉使いに免じて黙らざるを得なかった。かわいいようなうるさいような、あれやこれや思っているうちに羽田空港に着いた。

羽田空港も昔とは全く変わり、“ガラリヤ”と称するデパートのようなターミナルビルになった。なんでもイタリヤ語やフランス語が使われ、横文字好きの国民だ。空港ビルという感覚より、デパート、ショッピングモールのようで、余り夢中になってみていると今から飛行機に乗ることを忘れてしまいそうだ。

羽田空港からは、リムジンバスで成田空港へ向かう。関西の住民にとって成田発着はこのように大変だ。成田へ着くまでにへたばりそうだ。成田行きのバスの乗り場は多方面への遠距離乗り場も兼ねていた。多分 10 ヶ所以上あり、日立とか高崎とかかなり遠いところがあり、飛行時間よりバスの時間の方が長いと言う事になる。幸い、首都高速道路も大きな混雑は無く予定通り到着した。チェックインを済ませ、ＡＮＡに勤務している、泰星高校出身の小林さんに

電話した。前もって電話をしてあったので待っていてくれたようで、直ぐに会うことが出来近くの喫茶店に招かれた。彼とはフリン神父回顧録刊行への関わりの中で、知人となった。年末までは整備士の資格試験で大変とのことだ。フリン神父の保証付きの彼は、態度、言葉使いなどからも判る良い青年だった。親孝行でスイスへ出かけツエルマットでは天候が悪く、マッターホルンが見えなかった、また行かなくてはと話していた。銀行でとりあえずの金、レアル、を替えて搭乗口のほうへ向かった。いつもの通り、適当な小生は安いウィスキーを買い、玲子は化粧品を買って飛行機に乗りこんだ。ほぼ満席ではあったが、厚かましく隣が空き席になるような場所へ座り込んだ。

ロスアンジェルス着 ― ここでトランジット。普通であればやっと着いた、さあこれから町に出て、というところだが、まだやっと半分の行程である。アナウンスに従ってトランジット用の部屋に移動した。何か細長い、薄暗い場所で、１時間以上は居たくない。殆どの人は急いでトイレに行くため直ぐに行列が出来る。飛行機の中でも、食事の後は必ず行列だ。皆良くわかっているはずなのに、同じようなときを選ぶ。私はいつも、食事を配り始める頃にトイレに行く。列は無い。アナウンスによって、ぞろぞろ飛行機に戻った。後 10 時間くらいだが、これから先は未知の場所なので、多少うきうきしてきた。かといって下が見えるほど低く飛ぶわけでは無いのだが。

８月４日〔土〕

飛行機はやや遅れて濃霧に包まれたサンパウロ、グアルーリョス空港に着陸した。着陸体制に入ったとのアナウンスの後は全く霧の中で、突然ドスンと言う音で着地だと判った。良くこんな条件で上手く着陸できるものだと感心した。後で聞いたところによると、冬のサンパウロの霧は良くある現象で、特に午前に多いとの事だ。この現象はサンフランシスコとよく似ている。1000m位の標高に位置して居るためであろうか？　成田から９時間１５分でロスアンジェルスへ、更にサンパウロまで 11 時間、合計２０時間、伊丹から羽田まで１時間、トランジット、待ち合わせ時間など全て合計すると家を出てから３１時間１０分かかっている。しかし、移民船が当時４３日間かかっていたことを思えば、あっという間と言う事になる。時差がちょうど 12 時間あるので日本の丁度裏側と言うことを考えると、はたしてこの時間や日数が妥当かどうかは判らない。それでも念願の地球の裏側にやっと着いたなあと、思いながらバゲッジクレームカウンターへ向かった。

空港の建物は意外と古く、又節電による少ない照明がその古さを更に強調していた。

しかし、これは節電とは関係無いと思うのだが、荷物の出てくるのが極めて遅い。多分自分の経験では最高に遅いのではないか？　まさか節電との直接関係は無いと思う。しかし誰も、文句を云わずにじっと待っているのは、長時間の飛行で頭脳の働きが悪くなって早い/遅いの感覚が麻痺したのか、アスタマニアーナを先取りしたのか。30 分は経った頃、やっと荷物が出てきた。出口の扉が開くと、今度は前に進めないくらいの迎えの人でいっぱい。暗くてぶつかりそうになりながら、後ろから押されてやっとの思いで館外へ出た。少し冷っと感じたが、寒いというほどではなかった。黒山の云う通りにタクシーチケットカウンターへ行って行き先のホテル名を云うと、何か証明書のようなものに金額を書き込んで渡してくれた。それを見せてタクシーに乗り込んだ。53.98 レアルと書いてあった。

約 30 分で宿泊先のブルーツリーホテルパウリスタに着いた。パウリスタと言うのはサンパウロっ子と言う意味らしい。その名の着いた大通りから少し入った、ＭＡＳＰと称する有名な美術館のすぐ裏に位置する。８時過ぎのためか部屋の窓からは霧がゆっくりと消えていくのが見え、遅い夜明けのビル街がゆっくりと見え始めた。随分長かったなあ、なんて思っていた、その時、黒山からの電話が鳴った。実は旅行前からメールで、旅行中のガイドや何でもかんでも相談をお願いしている中で、時差ボケ解消には着いた日にゴルフをするのが一番との事。彼もいつもやっているし効果も実証済みだと言うことで、その電話だった。12 時 30 分のスタートで９時半に迎えに行くと言うことになった。それまではシャワーでリフレッシュ、ちょっと横になると眠りこけそうになったので、慌てて起上がって荷物の整理を始めた。

ロビーで待っているとまもなく紺色のワーゲンが着いて彼が降りて来た。春には神戸で会っているので見間違う事は無い。数から言えば間違い無く 20 年以上交際が無いのに、いとも簡単に昔に戻る事が出来るのだろう。逆に、自分が古い友を迎えるときにも、彼と同じように快く迎え入れる事が出来るのか。そんなことも考えるまでも無く、毎週彼がゴルフに誘いに来たように、やあおはようと言いながら車に乗った。予想よりもゴルフ場は遠く、独特の乱暴な運転で約１時間かかった。この乱暴さがいき過ぎては喧嘩になるが、いかないと先を越されてしまう。この辺りの加減がブラジルでの運転のコツだという事だ。ソウルや台北での交通事情でも同じことが言えそうだ。アルージャゴルフクラブと言うゴルフ場で、建物、サービスなどや設備は日本よりも劣る、いや質素だが、よりクラブ的だ。会員も少ないし、日本のように会社の接待用なんかでは無いということだ。そしてこの辺

りでは一流らしい。

気心のあった者同士がなんとなく集まって来て、挨拶をしていっしょにプレーを楽しみ、世間話や、日本からの土産話をして楽しむ場所なんだ。更に、時間が合えば夕食を楽しむ事も多いと言う事だ。実にうらやましいクラブなんだ。アメリカや勿論イギリスではこのようなクラブの中に別棟で男性専用のクラブハウスがあり、集まって来ちゃ、下世話の話や下ネタ、そして必ず奥さんの悪口を言って憂さを晴らす。日本では無理だろうか。今日は、彼の仲間の方2 名に入ってもらい回ることにした。驚いた事に、さすが日本人、スコアを非常に気にしている。プレー前のドライビングレンジ、アプローチ練習場、パター練習場、と手を抜かない。多分握っているからだろうが。外国でも日本人の遊び方は変わらないのだろう。コースは適当のアップダウンがあり変化に富んでいる。手入れも予想外に良く、グリーンは非常に難しかった。日本ではないことは、やはり南国だから樹木は全く異なり、アボガド、パパイヤなどの実の成る樹が多い。当然樹の形状も大きく違うので南国のコースだなあと実感する。もう一つは、キャディである。後で聞くとクラスがあってそれによりキャディフィも違うのだが、制服なんて無い。さっきまでその辺の畑で遊んでいたような格好のままだ。それでも目はにこにこ笑っていて人懐こいし、別嬪もいる。普通で約 1,000 円、上級で 1,500 円だったと思う。ちなみに、ビジタフィが 7,500 円〔土日〕3,000 円〔平日〕、一流コースの値段だ。

そして、ここが違うと思った事はアフターゴルフだ。ここで出会ってプレー出来る友人は長年にわたる家族の付合いで、ゴルフの後は食事と言うのが定番のようだ。この日も、我々のためにブラジルらしい食事、シュラスコ料理を案内してくれる事になった。シュラスコは元々アルゼンチンのカウボーイの食事、つまり肉を火で焼いて牧場で食べることの再現のようだ。肉と言っても、牛肉の全て、頭から尻尾まで、部位別で言うと数十種類になるのだろう。我々には前足の膝の肉、コブウシのこぶの肉、顔のほおの肉なんて言われたって判らない。そうだろうと思って食べるしかない。ブラジル人だって、精肉屋へでも行かなければ判らないのだろうが。いずれも、岩塩をたっぷり塗りこんで焼くので、表面は塩辛い。どの肉も美味しかったし、こぶの中の肉がこんなに柔らかいとは、はじめてだった。時々、ハムやソーセージも回ってくるので、玲子はそれを必ず取っていた。テーブルに表裏を赤と緑に塗り分けたオセロのような円柱が置いてあり、緑が見える間はどんどん肉を持ってくる。食べたくないときは赤を表にする。酒の席でもこれが利用できると、下戸の人はずいぶん気が楽だろう。シ

ュラスコはガイドブックでは肉だけと書いてあったが、実際にはサラダバーなんかもあり、これが又、盛だくさんだ。スパゲッティからチーズから寿司まである。日本人だったらこのバーだけで充分間に合いそう。本当に回りのブラジル人、実に良く食う。1週間分食い溜めしているのではと思うくらい。彼らからはなんとなく、阪神大震災の話となり、経験話を求められてしまった。しかし、経験者でないと、むちゃくちゃ揺れたと言っても多分ピンと来ないだろう。それでも、未だ日本人を失っていないのだろう。日本の今が結構気になるようだ。

８月７日

８時朝食　昨日より１時間遅いせいか、レストランでは日本人は誰も居なかった。今朝はねぎ、たまねぎ、ソーセージのみじん切りの卵焼きを注文した。キッシュのようなものだけど彼女はオムレツだと言ったのでそうなんだろう。９時過ぎに両替のために近くの東京三菱銀行に出かけたが、両替業務はやめて単なる出先機関のみだと言う。米ドルからレアルは一般銀行では取り扱いをしていない。シティバンクのみがやってくれるとのことで筋向かいのシティバンクに入ったら、１０時からだというので待つことにした。１０時１０分になってもまだ２名待っているから待ってくれというので、是枝さんとの待ち合わせが遅れと思い断念した。結局、黒山に電話して、400ドル分のレアルを用意してもらうことにした。何処ででも両替が出来る日本をあたりまえと思っていたが、逆の国もあると言うわけだ。両替業務はそれなりの利益を生むと単純に考えていたが、そうでもないみたいだ。100 万人以上の日本人が居る国で円の両替ができないなんて妙だ。更に、円は強く世界中で両替出来るなんてうぬぼれていたが、とんだ国に落とし穴があった。

さて、今日の観光は市内観光で、是枝さんが“何処へ行きましょうか”に直に答えられたのは、カテドラルだけだ。東京都とほぼ同じ人口の大都市であるので特に風光明媚な、カメラポイントがあるわけではない。そうなると歴史上の建造物やその記念碑、公園が観光の対象になる場合が殆どである。サンパウロも御他聞にもれず、建造物となり、筆頭に来るのがカテドラルということになるらしい。市の中心、セー広場にあり、40 年の歳月を経て 1954 年に完成と、ガイドブックにあるが、もっと古く、100 年､200 年経ったものという感じがする。何と云ってもその壮大さには圧倒される。残念ながら工事中と言うことで中には入れなかったが、ブラジル史を描いたステンドガラスは非常に美しいと言うことだ。

昔は、多分日本の門前町と同様教会を中心に町が発展したようだ。そのためこのカ

テドラルも中心にあり人と車の渦の中で威厳を保とうとしているのだろう。いや、街の中心に位置しているので騒がし過ぎて当惑し、排気ガスで汚れてしまったといたほうが当を得ているようだ。外観の写真をとって早々に引き上げた。

次に、イピランガ公園、公園の隣のパウリスタ博物館に向かった。この公園は 1822 年 9 月 7 日ドンペドロ 1 世の独立宣誓を記念した大きな記念碑があり、その台座の下にはドンペドロと王妃の遺骸が安置されているという。記念碑とはいえ非常に大きなもので、歴史の一シーンを表現したブロンズ像である。それでもブラジルの歴史を知らない観光客にとっては唯ごっつい銅像だなあと感心するに留まる。

この公園のすぐ隣に、パウリスタ博物館がある。建物はベルサイユ宮殿を模した、元ポルトガル貴族の屋敷だそうで、威風堂々としていた。

次に訪れたのが中央市場のような大きな市場だ。ちょうどメルボルンのマーケットのようだ。目に付くのはものの種類とその量の多さだ。肉類はその原型を留めた状態で陳列され、価格は 1 kg 単位、頭から尻尾まで全て売っている。ちょうどシュラスコの肉の種類の多さを個々でも誇示しているようだ。漬物石のようなチーズ、ショウケースからあふれんばかりの魚介類。鯛、いわし、サワラ等なじみのある魚や勿論気味の悪い食えるとは思えないような魚も所狭しと置いている。目に付くのは塩たらで、是枝さんに聞いてみると、一日水に着けて塩抜きをしてから、ジャガイモ、にんじん、たまねぎといっしょに煮るとおいしいそうだ。チーズは硬くておろしがねで削るタイプがなかなかいけると云っていた。魚、肉、野菜、果物何でもありいずれも価格も日本と比べると１０分の１くらいで、むちゃくちゃ安い。最後の日（８月１８日）は是非ここへ来てみやげ物を買って帰りたい。

次は、国家的英雄のアイルトンセナの墓だが、それにしてはと思うくらい質素な墓だ。墓地は非常に明るく、一面芝生の墓地公園といったところ。石碑は一切無く銘板のみ、形状、大きさは全て同じで非常に小さい。番号が判らなければ探すのは不可能だろう。献花は鉢植えが多い。さすがにセナの所には周りより多くの花があり、遠くからでもその位置が判る。死後の世界は知る由も無いが、けたたましくでかい墓石と銘板一つの墓ではどちらが天国に近いのか。抜けるような青空から陽は惜しみなく降り注ぎ、まばゆい芝生を後にホテルに戻ることにした。

午後 2 時を少々過ぎていたので、向かいのキロショップで軽食をとることにした。ブラジルではレストラン、店舗は午後 2 時から 4 時過ぎまで昼休みとなる。だから、昼時は混むから遅く行こうなんてすると、

シャットアウトを食ってしまう。こんなときは朝から晩まで開いているキロショップが便利だ。店内にはサラダ、肉類、イタリアン、和食など何でもあって、好きなだけとって目方で料金を払う。簡単なのか複雑なのか判らないが、目で確かめながら買えるし、何といっても安い。たらふくとっても 500 円くらい。そうそう飲み物もこみで。日本でのバイキングに似ているが、もっとラフなもので、おかずやとバイキングの混合のようだ。ピザなんかも、4 つに切ってあるから、一人でいろんな種類が楽しめる。

８月８日

いよいよ待ちに待った？還暦の日。といっても教会の鐘が鳴るわけじゃ無し、何も変わらない。ほんとに人の考えって面白い。1 月 1 日も普通の一日なのに、特別の日と決める。海は夏も冬も海だし、それにかかわっている人は、特にその日の海を記念するといわれてもこじつけにしか思えないのではなかろうか？その理由は判らないけど祝日になって文句を云う人も無いのだろう。しかし、何かがその日に起こったとき、その日を記念するのは気持ちを新たにし意味のあることだ。故に、還暦も 60 年を振り返り今後の生き方を考えるのに良い節目となるといえる。

難しいことはさておき、それを記念してゴルフをすることに決まっていた。黒山君が 7 時過ぎに迎えに来てくれ、アルージャゴルフクラブに向かった。とにかく毎日良い天気で、彼がブラジルは冬だし、サンパウロは高地にあるので結構寒いよというのは、全く当たっていない。というよりやはりこの地でも異常気象らしい。今回もいつものメンバーでまわり、自分以外はかなりスコアにこだわっていた。特に古小さんは 90 を切ると、皆さんをさる高級レストランにご招待するとのことで、気炎を挙げていたが、最後の大叩きで次回へおあずけとなってしまった。小生はスコアより広い国ブラジルでの悠々たるプレー、そして安さを十分にエンジョイしたかった。これがいわゆるクラブであろうと推測できるし、日本では難しいかなとも思われる。サンパウロでのゴルフはまだ始まったばかりで、プロも一人しかいないそうだ。打ちっぱなしも一箇所でかなり混んでいるそうで、黒山に云わせれば一億ほどあれば良い打ちっぱなしが出来、将来儲かると考えている。昼食はホテルまでの途中でドライブインのようなキロショップにした。驚いたことに料理が安くてうまいのはあたりまえだろうが、かなり強い酒ピンガが飲み放題となっている。所変われば品、いや考えが変わるということなのか。ブラジルでは飲酒運転による取り締まりは無いらしい。事故さえ起こさなければ飲酒運転は黙認されているらし

い。それにしてもトラックが休んでいるドライブインでアルコールが飲み放題なんて信じられないが、これがブラジルの豪快さかもしれない。

ホテルに戻ったら玲子はいなかった。近くをぶらぶらしているのだろう。前のＭＡＳＰ に出かけてみることにした。チェックインのときに入場券を貰っていたし、黒山君からも是非行くように薦められていた。

ＭＡＳＰ

ホテルのすぐ前で毎日その独特の建築設計に目を楽しませてもらっていた。建物は左右の門型の構造物にぶら下がったようになっている。懸架式のモノレールのようだ。中へ入るや否や、驚いた。昔教科書や美術書などで見た覚えのある、有名な絵画があちこちにある。最近はやりの町起こしのためにつくられたにわか美術館の一点豪華展示等そばにもよれない。ルノアール、ゴッホ、マチス、ピカソ、レンブラント、セザンヌ、ゴーギャン等、おびただしい種類と点数にその有難さが薄れてしまいそうだ。下世話な考えで、一体いくらになるんだろうと思わずにはいられない。空いているので２度も３度も楽しめ、ものすごく得をしたと感じた。

ビールとミネラルウオータを買ってホテルに戻りビールを飲んでいると玲子が手ぶらで帰ってきた。今回は何も面白い買い物には恵まれなかったようだ。

黒山が 19 時 45 分に迎えに来てくれた。今日はイタ飯にしようという事で、とあるレストランに着いた。まだ早いのか空席が多く広い館内が余計にだだっ広く感じられた。日本人の夕食は外人に比べて早い。小生も日本では 7 時ごろだが、ブラジルでは 8 時から 9 時頃が一般だ。メニューの中にピザが無いので聞いてみると、ピザはジャンクフードの仲間でそれなりのレストランではないそうだ。いわゆるピザハウスとかで食べるもんらしい。好物の羊のアバラ肉のステーキがあったのでこれに決めた。やや塩味が濃いもののなかなかうまい肉だ。カイピリーニャも忘れず注文した。日本との比較ばかりしてしまうが、日本で手軽に羊肉を食べられないのが残念だ。スーパー

でも殆ど見ない。たまに骨付きの貧弱な肉があっても、牛肉より高く、買う気がしない。羊なんてそんなに高いもんじゃなし、欧米やオーストラリアでもたくさん食べるし、ステーキだけではなくシチューなんか最高だ。インドのカレーでもマトンカレーが一番うまいと思う。食べ物の話はこのくらいにして、黒山君とはブラジルへ永住したわけや奥さんや家族のこと、そして井上吉弘や弟、治郎君が彼の家に世話になったこと、娘 2 人が東京にいること、奥さんが母上の介護のために 1 年の半分以上は日本に居ること等盛沢山の話をした。多分小生がその質問の殆どをしただろう。結論を云えば、いろいろ多難だったし、これからもあるだろうが、彼の仕事の成功の上にご家族が健康にめいめいのおもむくままに、頑張っておられるということだろう。多分十分に幸せと言えるのではないか。特に彼には最愛のレッドリバーがいつも帰りを待っているし、週に 2、3 回は行けるゴルフクラブがあり、良い仲間とゴルフ談義も出来る。奥さんが居なくてもとは云わないが、帰りを待ちこがれてもいないようだ。コーヒーの味を舌に残してホテルまで送ってもらった。そして、この旅行の最終日、10/18、再会を約束して別れた。

８月９日

朝食後、8 時過ぎに長谷氏のところへ電話をしたら赤ん坊が生まれた、女の子、母子共に良好。無事で良かった。8 時半ころチェックアウトしてタクシーを呼んでもらった。かなり年寄りのドライバーで空港まで 60 レアルだった。道路は空いていて早く着き、ついでに国内利用便の席の予約やマイレージのセットも出来た。日本ではこんなことは出発のチェックインカウンターで出来るのだが、バリグでは事務所でしか出来ない。それでも面倒くさがらずに丁寧にやってくれた。

あと 30 分くらいでマナオス到着の頃、上空からはアマゾンを見ることが出来た。ある場所では白い煙が線状に広がり風に押し流されている。焼畑をしているのだろう。アマゾンの支流と見られる流れはくねくねと曲がりくねり、所々に部落と見られる家々が見える。船も見られる。テレビでのトラベルものとか、・・紀行なんかで見たのと同じ景観だ。やはり櫛の歯状に森林が無くなっているのが判る。機内はほぼ満席で日本人もかなり居たが、殆どビジネスマンで観光客は見当たらなかった。

マナオス空港に到着、何かべたっとする熱気を感じ、アマゾンを感じさせられた。日系のガイドが出迎えてくれ、ホテルまで送ってくれた。ホテルは空港から約 15 分、マナウス郊外、ネグロ川畔にあるトロピカルマナウスホテル。バリグ航空の系列ホテ

ルで、2 階建ての低層で、広大な面積に悠々と建っている。クラッシック調の瀟洒な建物と各調の高い家具の組み合わせが、古くて良いものを感じさせる。夕食前に散歩に出かけネグロ川畔でその水を見てびっくりした。真っ黒というか濃い茶色。森林の樹木、木の葉が落ち堆積、腐敗して水中に染み出してこのような色になるらしい。理屈は判っても、こんなでかい川、狭いところで 3km、広いところは 13km の川幅の水全部を着色してしまうなんて、膨大な森と何万年と言う時間が無ければ出来ないだろう。こんなネグロ川といえども、アマゾンの支流の一つということなので、これまたアマゾンの巨大さがうかがえる。中国人が瀬戸内海を見たとき、日本にも大きな河があるじゃないかといった、笑い話を思い出した。

夕食はアマゾンの民族芸能を見せるディナーショウにした。予約をしたのでプールサイドの良い席へ案内された。バイキングスタイルで豪華な内容だが、特にアマゾンでとれた鯰のようなでかい魚の焼いたものなど、数種類の魚と盛沢山の果物が印象的だった。どちらかといえばグロテスクで 1m 位あり、不気味な魚だが味が非常に良い。最初は躊躇して少し皿に取ったが 2 回目は思いきり取ってきた。

黒山君からも結構うまいよとは聞かされていたが、実に味が良く身がしまっている。日本での河魚は身がやわらかいが、これは硬いとさえ云える位しまった肉だった。日本人もほんの少し見られたが、殆どがヨーロッパからの旅行者でフランス語、ドイツ語が多いように聞こえた。さて、ショーはアマゾンの原住民の多分宗教的な意味や物語、教訓等をダンスや歌で見せるものだ。良く似たものでは、ハワイのポリネシアンショウとか、沖縄の民俗芸能なんかで、多分世界中の国であるだろう。男も女も半裸のいわゆる土人の格好をしているが、色彩が非常に派手で美しい。多分、アマゾンにいる色彩のきれいなインコやオウムなんかの羽をあしらっているのだろう。踊りのテンポは速いものが多く、振り付けはエアロビックのそれに非常に似ている。最後のステージではどこでもやっていることだが、ダンサーが客先へ降りてきて、ステージでいっしょに踊るよう誘う。こんなことが好きな小生も誘われるままにステージに上がった。カイピリーニャのせいか、気候のせいか、汗が涌き出て 2 曲くらいしか踊れなかった。踊ると言うより猿真似で、体をむちゃくちゃに揺れ動かしたと言うほうが合っている。でも、この後のビールは快く喉を潤してくれた。

８月１０日

朝の 8 時にロビーで待ち合わせと言われて出てきたが、それらしい人が見当たらず

ソファーに座って待つことにした。ロビーはアマゾンに向かう団体や家族でごった返していた。夏休みのため子供連れが多いのが目に付いた。皆ショートパンツなどの軽装で随分このあたりに慣れているようだった。１５分ほど遅れて、マローンと呼ぶ日系の風貌をした青年が近寄ってきて、“福田さんですか”と判りやすい日本語で話し掛けてきて、我々のガイドと判った。両親ともに日本人だが父親はマナウスに、母親は北のどこかに、彼はアマゾンで働き、ばらばらに生活をしているとの事だ。多分、両親に移民生活にはかなり苦しいものがあったのだろうと推測できる。サンパウロでも、ここでも日系の方を多く見るが、成功、不成功、成功でも当初の農業以外で成功等さまざまな結果が見られる。

さて、ホテルの真ん前の桟橋からアマゾンのジャングルホテルのあるアリアウへ行く船に乗り込んだ。階上のデッキに椅子を持ちこんで座り、マローンからこれからの予定のオリエンテーションを受けた。この時初めて、彼が我々専用のガイドであることを知った。贅沢なようなありがたいような気分だ。いずれにしても今から３日後に又、このトロピカルマナウスホテルに戻るまでは、彼と共である。

船はほぼ予定通りに出航した。階上のデッキはほぼ満員で、後方には日本人グループも見られ皆随分遠いところまで来るんだなあと、自分のことは忘れて思った。このマナウスからネグロ川を 2〜3 時間上流へ進み、アリアウへ向かう。船が進むにつれてべたっとした熱気も無くなり、涼しいとさえ感じるようになった。やはりネグロ川は真っ黒で、スクリューに掻き回されて、白く泡立つのが余計に不思議に見える。丁度、ウーロン茶を高速で掻き回したようだ。

子供連れの日本人は殆ど見ないが外人は子供連れが多い。それも 3 人も、4 人も居て随分にぎやかだし、泣いたり笑ったり食べたり飲んだりする子供達の間を走り回っているお母さんを見ていると、何か昔の日本のお母さんみたいだ。ただこんな小さい子供がこのアマゾンを何処まで理解するかは判らない。意外と適当なベビーシッタが居なかったのでやむを得ず連れて来たのかもしれない。一旦川の中央に出てしまうと川を逆に上がっているというより、瀬戸内海くらいを航海していると云うほうが判りやすい。満々とした水量は流れを感じさせない。これが川か？　これが支流なら本流はどんなにすごいのか？

こんなことを何度も考えているうちに船の前方に何か建物らしいものが見えてきた。マローンの説明でそこがアリアウであることが判った。近づくにつれて、適当な間隔に建てられた、思いのほか高い円筒形のホテルがあちこちに見えてきた。回りの森林の景観に合わせるように外観は濃い緑色の

塗装がしてある。これらの建物は全てネグロ川とその支流のアリアウ川の間の水深数メートルはある湿地帯に建っている。建物間は渡り廊下でつながっており、廊下は 2 階層の個所もある。後で判ったことだがこの廊下の 2 階の散歩は見通しが良く、快い風にも恵まれ快適だ。着岸後港に最も近いセンタービルとでも云うか、事務所やレストランがある建物に入った。そこで椰子の実ジュースを飲みながら部屋のキーを待った。このジュース、何度飲んでも旨いと思ったことが無い。何か青臭く甘味も少なく、のどが乾いていなければ飲めない代物だ。案の定飲みさしのグラスが沢山残っている。ルームキーを貰って部屋に入った。センターに最も近い建物で、建物は円形の 5 階建で、部屋は中心から放射状に各階 10 部屋位あり、中心部が廊下になっている。ちょうど馬車の車輪のような形状になっている。ドアにはアマゾンにちなんだ鳥や動物が極彩色で描かれている。部屋に入ると随分暗い。というのが、ドアと反対の窓に当たるところがトイレとシャワールームになっているため、外の明かりが殆ど入って来ない。つまり建物の外側に水回りがあることになる。部屋の構造が、ドアの面が最も狭く奥が最も広いのでこのような配置にならざるを得ないのであろう。トイレのドアを閉めると昼間でも殆ど真っ暗。電燈はあるものの小さいの一つで薄暗い。自然を味わいに来たのだからと言い聞かせながら、薄暗い中で荷物を解いた。動いているとやはり暑い。幸いにもクーラー付きの部屋にしたので助かるが、多くの部屋はクーラーの代わりに扇風機ということでかなり暑いだろう。朝晩は結構涼しいが、昼間はやはり熱帯だ。ねとっとした暑さと湿気は仕方が無い。

昼食前に、マローンのガイドでホテル周辺を見て回った。

ジャングルホテル

建物は全部で 6 棟くらいで全て渡り廊下でつながっている。水上生活者のように全て水上にある。このような水のある森林は以前テレビでしか見たことが無かったが、その画面と同じ景色を見ることが出来た。水面は雨期に増し乾期には無くなると言う事で、一年を通じて息をしているようだ。水のある時期は舟で奥まで入っていけるが、乾期には歩かなければならない。渡り廊下を歩くときあちこちの木々から名前の判ら

ない鳥の声がうるさいくらいに聞こえる。又、姿は見えないが、猿らしき動物の声も聞こえ、森林が生きていると実感できる。

マローンの日本語はほぼ完全だ。説明も申し分無い。ガイドになるにはそれなりの知識と語学が要求されるだろう。第1位ではないが、日本人の数もかなり多いので日本語は有力な武器であることは間違い無い。

ここは全食事付きだ。確かに何処にもレストランなど一軒ないのだからあたりまえだろう。まず昼食ということでレストランへ行きマローンの名前の書いてある立て札の席に座る。というのが、ここではビジターとガイドは一体、で食事も一緒にする。そのときに食事のことは勿論、アマゾンのことを何でも聞けるわけで、上手い考えだ。食事はブフェスタイルで魚、肉、野菜、果物、名前は判らないがなんでもある。やはりアマゾンの食材で最も興味のあるのが、アマゾン河で捕れる魚であろう。朝食以外は必ず何かの魚が出てきた。調理方法は煮た物と焼いた物で生は無い。黒山君からも結構美味いとは聞いていたが、その通り実に味が良い。特に焼いた物でもしょうゆ等を付けなくとも、身に味がある。そして非常にしまりがある。鮎のように河魚は一般に身が柔らかだが、ここのは違う。噛むと硬いとさえ感じる。ただし食べる前にその姿、ここでは一匹丸ごと置いてあるので、を見ると、ぎょっとなる。最初にナイフは入れ難くもたもたしていると、ウエイターが笑いながら切り身を取ってくれた。白身の程よくしまった美味い魚だ。名前はその都度聞いたが全て忘れてしまった。鯰の親分の態をしたのは、テレビの自然ものに良く出てくる魚だ。

カイピリーニャで程よく良い気持ちになって、今度は自分達で散歩に出かけた。歩廊の2階は見通しが良く風も心地よかった。2、30m毎に同じ形のホテルビルが建ち、その間を歩廊でつないでいる。時には歩廊に小さなプールのあるところもある。プールというより汗でも流す大型の浴槽といったところだ。

このアリアウホテルはネグロ川とアリアウ川が合流する辺りにある。つまり川岸又は川の中に建っている。歩廊から下を見ると流れがあることが見える。それも真っ黒の河だ。午後はあまり散歩する人が少ないのか人声はしない。しかし、鳥の鳴き声、多分猿の吠える声など、結構うるさい。皆生きているということか。森を散歩してしばらくすると、森とはいえ昼尚暗くうっそうとは違う。非常に明るく水面に日の光が届いている。熱帯独特の大木が殆どで、細い雑木や下草、蔦の類は無い。つまり非常に見通しが良い。これが本来の森林なのかと考えさせられる。それから見ると、六甲山のように下草、蔓で木々の間が、つめられ密集してしまった森は不健康といえる。

本当に六甲山の登山路は非常に暗い。やはり植林による森は最後まで手をかけてやらないと、病んでしまうのだろう。

夕食後、ワニ狩りに出かけた。ここでは宿泊とこのようなツアーがセットになっている。全て参加してもしなくても費用は同じだ。夜の暗闇は星の輝きを促すのか、降るような星だ。桟橋に行ったらマローンと舟が待っていた。この舟は東南アジアなんかの、水上生活者が車のように使っている舟と良く似ている。比較的底が浅く、長細く単気筒エンジンに長いシャフトの先にスクリューが付いた舟だ。紐を引っ張ってエンジンをかけると、かなりうるさい。マローンが水先案内のため舳先に立った。ホテル地区を離れると、当たり前だが、真っ暗闇でマローンの照らすサーチライトだけが頼りだ。このライトにワニの目が当たると赤く輝き、そのありかが判るらしい。その輝きの方向に舟をそっと進めワニに近づこうとして何度か失敗の後、ようやく手の届く距離まで接近できた。

一瞬、マローンが舳先から上半身をかがめたのと 50cm 位のワニの子を掴み上げたのが同時に思えた。右手で口を掴み、左手で尻尾の付近を掴んでいた。それでももがいて逃げようとブルンブルンしていた。にこにこしながら我々の方まで持って来て良く見せてくれたし、持たせてもくれた。うろこ状の肌は予想のほか滑らかで、冷たくは無かった。例え子ワニとは云え、歯は全て生え揃っているので、噛みつかれると恐ろしい。目の輝きの場所だけで手掴みとは、如何に慣れているとは云え驚いた。

ジャングルホテルでの第１夜。何か、部屋がやや傾いている感じがする。川の底に支柱を立てているのだから、長年にはめり込んで傾きも出るだろう。ここのトイレは水洗だが、使用した紙は備えのビニール袋に捨てる。紙を流すと排水管が細いため詰まり易いのだろう。更に、水道直結の水鉄砲のようなものがぶら下がっていて、これがビデやウオッシュレットの代わりとなる。しかし使い勝手が悪く、上手く的に当てるには慣れが必要だ。

アリアウ川

８月１１日

８時頃朝食に出かけた。今日も晴天だ。外へ出ると真夏に戻ったようにべたっとしてきた。もう殆どの人が席に付いて食べ始めていた。洋式のバイキングでハムやチー

ズ、卵、ヨーグルト、パン等のいつもの種類に加えて、蒸したタロ芋やバナナのフライ、南洋の果物が目に新しい。タロ芋はあっさりした甘味の少ないサツマイモと云ったところ。飲み物ではマローンもそうだが、アイスチョコレートを飲む人が多い。試したが、なかなかいける。

午前はジャングルツアーだ。マローンと我々２名だけの贅沢なツアーだ。他の舟には２０人くらい乗っているのもある。マローンは日本人担当の一人だが、今回の担当は我々のみと言う事になったようだ。時によっては 10 人以上をガイドすることもあるそうだ。

桟橋からアリアウ川を上流へ向かった。舟が進むとエンジン音はうるさいが快い風で涼しい。川岸にはあちこちに原住民の部落やその住居が見られた。いずれも高床式で季節による河の水量の激しい変化をうかがわせる。中には子供が遊んでいるのも見られた。アリアウ川は支流の支流で川幅も狭く流れも非常に緩やかなのか、水面が鏡のように滑らかで、岸の樹林や青い空を映している。舟は岸に近づいたり遠ざかったりしながら進み、時折大きな鳥がたたずんでいたりするのが見え、どきっとする。ジャングルの中はもっともっとうっとうしく暗く、大変なもんだと思っていたが、このように舟で進めその間は涼しくて気持ちが良い。

ジャングルは暑くてむさくるしいところではなかった。森林の中は見通しが良く小舟がすいすいと入って行ける。ジャングルでは小舟が一番便利な交通機関なのだ。約 40 分でツアーの起点の船付場に着いた。別に桟橋があるわけではなく、舟を強引に砂浜へ突っ込んでなるべく岸に近づけるだけである。小さい舟なのでそれで十分で、舳先から跳んで下りれば水に濡れることは無い。原住民のみやげ物屋では木の細工物や何かで編んだようなものなんかを売っていた。余興的に、何かの果物の種の乾燥したのが在って、その見を割ると中には赤い顔料が詰まっている。マローンがそれを小生の顔に、塗って笑った。よくある土人のお祭りなんかで使うものらしい。粒子はかなり細かく指紋の中に入って簡単に洗っても取れない。マローンはもう良いというのに、丁寧に顔に塗りたくってくれた。その時は気が付かなかったが、拭き取るのが大変だった。持っていたティッシューを全部使っても拭き切れなかった。

もう一組の韓国からのグループと一緒にジャングルへ入った。ガイドは原住民で、マローンが通訳をしてくれた。韓国のグループの中のガイドは勉強中の女性で、熱心というかうるさいと言うか、ガイドにしつっこく聞きまわっていた。森の中をいろいろ歩き回って、主に樹の樹液の効能を教えてくれたり、葉っぱでちょっとした鳥なん

かを作ってくれたりするもので、あまり面白いものではない。鳥や猿などの獣がいるのかと予想していたが、見事に外れた。舟でジャングルを進むのは非常に気持ちが良いが、歩くのは大変だ。まず非常に蒸し暑い。蚊がいて刺すと痒い。中でも少し興味深かったのが、樹の地面に接する辺りが衝立状に薄く広がる樹があり、これを何か木切れで叩くと大きな音が出て、原住民が合図に使ったらしい。マローンが土人の太鼓よろしく上手く、リズミカルに叩いて聞かせてくれた。約 1 時間ほどでジャングルを出て元の船付き場に戻ってきた。

ちょうど日本からの 10 人くらいのグループに出会った。おばさんが殆どでにぎやかにみやげ物をあさっていた。こんなところもおばさん達に占領されたのか？帰りの舟も実に快適で、アリアウ川を下ってホテルへ向かった。ただ一寸気になるのが、エンジンの音だ。単筒式のためかなりうるさい。後方には座れない。この地では環境保全に相当ちからを入れているはずだが、騒音はあまり影響無いのかな？

ホテルに戻りしばらくすると昼食だ。ここでは食事に対する選択肢は 2 つ。ここのレストランで食べるか食べないかだ。他に食べるところは何も無い。メニューもバイキングで有り余るくらい在る。とやかく考えないで済むので極めて便利だ。今日は地元のビールを頼んだ。別に何でも良いんだが、一寸飲んでみたかっただけだ。非常にあっさりしている。水代わりは少々大げさだが、それに近い。蒸し暑い時は実にさわやかで良い。夏休みで食事時のレストランはいつもほぼ一杯だ。かと云ってムチャクチャ込んでいるわけでもない。この辺り、上手くコントロールしているんだろう。マローンはどうもバナナのフライが好きらしい。いつも皿からはみ出るくらい取ってくる。彼らはここでの勤務中は 2-3 人部屋を与えられ、食事付きと言うことでガイドとホテルの従業員をかねた状態だ。単身者にとっては便利だろうか？

昼食後は、ピラニヤ釣りに出かけた。アリアウ川を少しさかのぼり、森の中の水路を通ってネグロ川に出た。この間が最高に面白かった。アリアウ川を右へそれたかと思うと、葦のような水生植物の生い茂った池のようなところに出た。マローンは舳先に立って水先案内をする。両腕をとある方向に向けた時、舟は一旦後進して勢いを付け全速力で前進、葦の中へ突っ込み新たな水路へ進入した。そこは鳥の声以外は何もしない、静まり返ったジャングルだ。水路は狭く浅いために、エンジンは使えないので皆オールを取り出し静かに漕いだ。意外と舟はスムースに前進していった。ジャングルの真っ只中だ。だけど明るい。別に手入れをしているわけでもないだろう。これが自然の森なんだ。樹木が水を吸い上げて

いる音が聞こえそうだ。

しばらく行くと今度は大きな湖のような所に出た。確かに流れは殆ど見えず、河ではない。マローンがネグロ川沿いの湖と教えてくれた。前方に浮かんだ家が見えてきて、近づいてそれが舟に載った家だと判った。食料雑貨屋で6畳くらいのところに、調味料、パン、名前の知らない芋のようなものなど、ごちゃごちゃと置いてあった。見まわしてもだだっ広い湖に他の家は見えないが、このあたりの住人が買いに来ると言う。何か砂漠の真中にある雑貨屋といったところだ。小学生くらいの男の子とその弟の赤ちゃんがハンモックにゆられていた。旦那は仕事に出て店を若いおかみさんが留守番をしている。気になるのは、ハンモックの揺れ具合が非常に早く激しい。自分なら船酔いしそうだ。奥さんにこんなところで一人でいるのは寂しくないかと聞いたら、旦那が帰ってくるので大丈夫と応えた。つまらないことを聞いたもんだ。

釣り場と思われる木の生えた個所に舟を止め、竿1本の簡単な釣り針に、肉片を付けてそこらに放り込む。別におもりや、浮きがあるわけじゃない。最も原始的な方法だろう。それでもマローンにかかってきた。10cm位で勢い良くはねていた。食いつかれないように針を外して、口を開け鋭い歯を見せてくれた。小生にかかったが揚げる時に落としてしまった。これ一回だけで後は誰にもかからなかった。余りピラニヤや釣りには興味が無かったのでやめる事にした。

舟はネグロ川に出てきた。マローンが泳げばと薦めて来た。しかし、真っ黒い水とワニが気になって躊躇した。ワニはこんな河の中央には出てこないらしい。泳がないと男が廃るような気にもなり、パンツ一丁になり跳びこんだ。水はぬるくと言うより暖かく流れが意外と早い。まじめに泳いでちょうど良いくらい。ボーっと休んでいるとどんどん流される。水の中で目を開けたが真っ暗で何も見えない。別に目には何もしみない。ふと回りを見たら岸ははるか遠く、自分が非常にちっぽけに思えて舟にあがった。でも支流とは云えアマゾンで泳いだのは良い思い出になる。

舟はもと来た路を爆音を奏でながらホテルへ向かった。夕方の風はまして涼しく、自然の中に居ることの幸せを吸いこんでいた。今夜は夕食後、原住民の踊りショーがあるというので、食後プラプラ行って見たが、トロピカルホテルで見たのと同じパターンのショーだった。料金は無料。ハワイのポリネシアンショー、オーストラリアのアボリジニのショー等、世界のあちこちに類似の現地民ショーがあるが、良く似ている。特にいずれも火を使い、口から吹いたりする。最後には必ず観衆を舞台に招き一緒に踊る。今夜も同じだ。

８月１２日

昼食後にマナウス行きの船が出るとの事で、午前中はホテル内を散歩してジャングルに名残を惜しむことにした。やはり渡り廊下の 2 階を歩くのは風が涼しく、見とおしも良い。アリアウ河がカーブしている辺りに、小さなプールがあるが入っているのを見たことが無い。プールでも誰も入っていないと却って何か欠陥があるのではと思い、入り難い。何でも最初にすると言うのは勇気が要るもんだ。途中から真っ黒い蜘蛛ザルが後を付いて来た。全く音無しで近づいてくるので、振り返ってそこにいるとビックりする。傍に来ると意外に大きく、毛足の長い黒い毛で、抱き付かれたらと思うと又ぞっとする。人には慣れているので餌を欲しいのだろう。ジャングルでの餌やりは全て禁止されているが、結構見えないところでビスケットなどをやって写真を撮っている。

回廊のそこここには面白いものがいくつかある。一つは、ＵＦＯのためのヘリポート。通常のヘリが着陸できる立派なもの。ＵＦＯが着陸したい時に、困らないためだそうで、すぐ隣には潜水服のヘルメットのような球状で窓の沢山ある鉄製の建物が在った。ＵＦＯ観察用の設備だ。中に 10 人は楽に入れる。

最後はターザンハウスと言われる、樹上の家。さほど大きくは無いもの、10 坪くらいでバストイレは勿論完備。廊下から約 10m 位高い所に在り、木製のはしご段を上がっていく。こんなところへ大きなスーツケースを持っては来れまいなんて考える必要は無い。マローンのようなガイドが全部楽々運んでくれる。ただ、荷物が無くとも外出のたびに、はしごの上り下りは大変だし面倒だろう。今は誰も泊まっていないのはそんな理由からか。部屋代は普通より少し高いくらいで、スイートよりは安い。いつものバイキング昼食を取って船に乗り込んだ。こんな時も荷物は廊下に出しておけば全部持っていってくれるので便利。パッケージツアーはこの方式だと玲子は教えてくれた。歳をとるとこれもまた楽で良い。

乗船客は来る時とほぼ同じで、ジャングルホテルでの 2 泊 3 日が標準だと判る。来る時はネグロ河の黒さ、広さに目を見張っていたが、帰りは殆ど関心も無くうとうとしてしまった。どうも、ジャングルの水上住居は、やや傾きがあり、寝ても枕のほうへ下がっていくような気になり、睡眠が浅い。こんなことを書くと、何を云っているの、グーグー寝ていたくせにと、玲子にどやされそうだ。

午後 3 時頃、マナオス港の見なれたトロピカルホテル前の桟橋に着いた。船上でマローンは自分を忘れないようにと日本語で名前と自画像のようなものを描いていたが、

別れる時にそれを手渡された。マローンは今日はマナウスのアパートに泊まると聞いていた。月に一回くらい休暇があり、自宅へ戻れるようだ。しかし、父親は２年ほど日本へ帰ったきり帰って来ないし、母親は北の町に住み込みで働いていると言うことで、家族の団欒は無い。ジャングルホテルのほうが良いかもしれない。

部屋に入った。傾きは無いし、明るさも十分だし、自分が如何に近代文化に慣れきっているかが判った。やはり、傾きが無く、明るく、水やお湯が良く出るほうが良い。ゆっくり風呂に入ったりして、休憩した。と同時に、いつものように洗濯をすることにした。旅行中の洗濯はいとわない。却って好きである。夏場の冷房よりも冬の暖房のほうが乾きは良い。夏でも窓を開けられれば乾燥は良い。最近は、旅行に出るにも慣れすぎて、余りまじめに準備をしないせいか、計算通り行かなく、洗濯を余儀なくされる。持ってくれば便利だと思う洗剤、今回も忘れた。

夕食はホテルのレストランでパスタとスープで軽くとった。

８月１３日

朝食は夕べと同じレストランでバイキングだ。今日はブラジリア経由でリオデジャネイロへ移動する。移動時間が長いので、腹一杯詰め込んだ。昼前に、マナウス空港で出迎えられたガイドとロビーであい、空港へ向かった。空港では一般の空港とは違い、空港カウンターは無く、取り敢えず指定された看板の前で並び、時間が来れば係官が待合室に誘導する。そこで、チェックインが行われる。いまだにその意味が判らない。今までジャングルに居て、いきなり飛行機と言うのはなにか文明の底から這いあがってきた感じ。飛行機が新鮮に見える。

このフライトはブラジリアにストップオーバする。ブラジリアは上から見た限り、予想よりはるかに大都市だ。そして、高速道路のインターチェンジも実にダイナミックな模様を描いている。到着後下りない客は座ったまま待つ。掃除員が入ってきてすばやく清掃し約１時間で飛び上がった。

夜の８時頃リオに着いた。いよいよ、サンバの町、カーニバルの町、キリスト像の町に着いたのだ。空港到着ロビーでガイドの満田さんに会った。明るい気さくなおばさん。コパカバーナの前にあるルクリールホテルまで送ってもらった。こじんまりしたホテルだったが、廊下のあちこちのセンサーライトがあり設備は近代的だ。

ビールを買うために裏にあるスーパーへ行った。こういうリゾートの町は世界中何処でも、表通りはビルやホテルが勢ぞろいしてきれいだが、一歩裏へ入るとがたっと品が落ち、なにか危なげな雰囲気だ。さっ

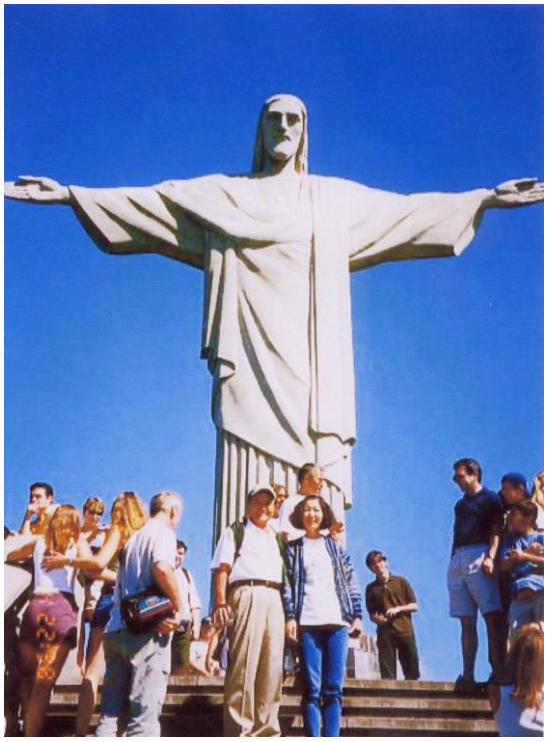
さと通り過ぎるのが一番。やはりリオもむっとする暑さがある。今夜はビールを飲んで早く寝よう。

８月１４日

バイキングの朝食をとり、しばらくすると満田さんがロビーに現れた。今日も良い天気ですね。コルコバードの丘のキリスト像も良く見えるでしょう。この像は意外に全部見えることが少なく、上半身が雲に隠れることが多いらしい。ここに来て初めて判ったのだが、丘まではアブト式の登山電車で登る。それもスイスの技術が導入されている。スイスで見たばかりの線路のギヤーが目に着いた。駅の名前はコズメ・ベーリョ。満田さんの云う進行方向右側の窓際の席に座った。中間くらいでいきなり視野が開け、リオの町が見える場所に来た。競馬場がはっきり見えた。この見える時間はほんの 10 秒くらいで、この景色の見える側だったのである。約 15 分で終点に着いた。

駅からキリスト像までは、両側にみやげ物屋やレストランが並んでいる急な石段を上がっていく。像の高さは 30m とあるが、それ以上に高くそびえるように見える。リオの象徴とも云えるこの像。今回の旅行での最も見たかったものの一つである。

実にお顔が良い。キリストのお顔は絵でも彫刻でもなにか良く似ていらっしゃる。



キリスト像

例えば、余り太ったキリストは無く、いずれもやせ気味であご骨が目立ちと言う感じで、この像も例外ではない。頭と体のバランスが実に良い。1931 年建造で御歳 70 歳で小生より 10 年先輩になる。両手を広げておられる理由は

1. アメリカの自由の女神の来訪を待っておられる。
2. 働くのが嫌いなリオっ子が、まじめになったら抱きしめてあげようとしている。

リオデジャネイロ等、ブラジルでは労働

はすべきではない、労働は奴隷がするものだ、市民は頭を使うことをしなければいけない、なんて事が今も心の底にあるという。つまり奴隷制度が非常に長かったためだろう。それを物語ることに、ワンルームの小さい部屋でも女中部屋があるのが今でも残っているらしい。又、この地にカトリックキリスト教を広めたのはイエズス会だが、その神父は”神は奴隷を与え給うた”と云ったとか？

丘とは云え像のある頂上部は狭く、観光客が多い。キリストを背景に写真を撮ろうという当たり前の希望を持つ人も多く、石段では良い場所を争っている。丘からのリオの眺めもまた素晴らしく、100 年以上の歴史を持つ権威のある競馬場、海岸線にそったホテル群はマイアミを思い出させる。特に今日は雲一つ無く、キリストのお顔がはっきりと見える。この高さだからガスや雲で見えなくなるのもうなずける。

次の訪問先はマラカナンスタジアム。何と 20 万人も入る世界最大のサッカー場だ。甲子園の 2 倍以上の観客が入る。それが、熱を帯びてくる様を想像すると恐ろしい。今日は試合が無いので中に入ることが出来る。グラウンドの芝生の緑が目にしみる。席は上段でも長いすではなく、一人分ずつ肘掛で分けられている。面白いことに向こう正面にグラウンドから階下へ下りていく小さなトンネルのようなものがあって、これは試合終了後、レフェリーが退場するのに使う。理由は、どちらが勝っても負けてもレフェリーと言うのは、罵られたり罵声を浴びせられたりするのですばやく逃げられるようになっているらしい。

内部の設備も見ることが出来た。なるほどと思ったのは、風呂。洋式のバスタブが沢山並んでいる。大勢が一度に入るときも浴槽は一人で、日本のように大きな浴槽に一緒に入ることは無いらしい。ペレやスーパースターが使ったロッカールーム等を見て回った。

最後に、お決まりのグッズの売店があり、今までは見かけなかった日本人がいっぱい居た。我々もご多分にもれず、Ｔシャツや帽子を記念に買った。

スタジアムから近いところに、カーニバル会場がある。今までは、カーニバルの列は町中練り歩くのかと思っていたら、阿波踊りと同じく、行進する会場がある。鉄筋コンクリート製のスタンドが両側にあり、距離は 200m 位か。思ったより短い。ここの出られるのは、難関をパスした優秀なチームで 1 チーム当たり 3000 人位居てこの通りを通過するのに数十分かかる。期間中は 24 時間ひっきりなしにパレードが続いている。観客も 24 時間体制で、途中で食事に行ったり仮眠をしたり、結構疲れそうだが、これは部外者の考えで、リオっ子はカーニ

バルに酔い、溺れるほど楽しむのだろう。

興味あることは、スタンドは小学校として利用されている。年間１週間くらいしか使わない施設の有効利用だ。屋上が階段状になったビルディングだ。

車は市内の中心に来たことが判る。高層ビルに人通り。そのダウンタウンの真中にあのカテドラルが在った。２万人が入れる世界一の教会だそうだ。よくある歴史的な教会はゴシック建築で高い尖塔があるが、ここは近代建築で鉄構造物とガラス、ステンドガラスで、馬鹿でかい体育館といったところ。天井の高さも 100m 以上在り、天井から１階までのステンドガラスは、美しさと大きさで圧倒される。全体を使用するのは大きなミサ、行事の時で、通常は１部を仕切って設けられた場所を使う。欧米の古い教会で見られるように、ここでも歴代の神父の埋葬個所が館内に在り、墓地のようになっている。

昼食を取りましょうということで、岬のような場所で海軍の学校のすぐ脇に在るレストランに案内された。観光客らしきものは見られず、かなり高級感があるキロショップ方式の店だ。このようなものを見て選択できる方式は部外者ならずとも便利だ。満田さんと運転手の若い社員と４人で座った。彼も日系で顔はかなり日本人らしい顔をしていたが、日本語は片言だけだ。

昼食後はボンジアスカールに登るため、ロープウエイ乗り場まで来た。今回のように旅行社に頼むと市内観光でも、車での移動､切符の購入からなんでもやってくれる。ただ云う通り動いていれば良い。歳をとるとこのような旅行をすればかなり高齢まで行けそうだ。この岩山もリオの写真のどこかには必ず出てくる有名な観光地で海に近い場所からラグビーボールの半分が突出したような岩山だ。 海抜 390m の高さの巨大な岩を２個並べたような光景である。一つ目のロープウエイで一つ目の岩山に登り、二つ目に乗り換えて、二つ目の大きな方の岩山の頂に到着する。コルコバードに比べると海抜は低いが、海に近いために海の上から町を見下ろしているようで、絶景だ。今日は何処へ行っても雲一つ無い良い天気で全て完璧に見ることが出来た。

今日の最後は、H.Stern というイパネマにある宝石屋に行った。いや、連れて行かれたと云うほうが正確かな？　ブラジルはダイヤモンド、ルビー、アクアマリン、トルクマリンなどの宝石王国で、この会社は自社鉱山での採掘から販売まで一貫して行っている。

ここは本店で、展示フロアーや商談フロアー等があり、警備員と社員であわただしく物々しい。今回のように旅行社に一任するとこのような店やデューティフリーショップにいくつかは案内することになっているのだろう。

結局この日はいろいろ見せてもらって何も買わなかった。自分だけではなくお土産ならば誰に何をなんて考えて、決めてから改めて来たほうが良いと判断したのだろう。それでも、店の人達は決して笑顔を忘れなかった。夕食は、ガイドブック推薦の近所の中華料理屋へ出かけた。云われるほどうまいとは思わなかった。

そう云えば、ホテルのエレベータホールは人の気配センサーで明かりが管理され、突然明るくなったりしてびっくりするが、省エネをやっているのだろう。

８月１５日

今日の予定は夜サンバショーを見に行くだけで昼間は自由行動だ。ゆっくり起きて、ゆっくり朝食をとって、ぶらぶら歩いて、イパネマまで行くことにした。ホテルはコパカバーナにあるのでアルボア岬を通過して、イパネマ地区に入った。

更に、5-6 ブロック行くと HStern のある辺りだ。イパネマ海岸地区は、しゃれたショッピングの出来る人気のある地区だ。又イパネマは混血の美人、ムラタに出会える場所としても有名だが、この日はあいにく平日で、学校のある日でそれらしき女の子は見なかった。しかし、今回ブラジル入りしてから、あちこちでそれらしき女学生を何度も見かけたことがある。

プラプラしてみたがショッピングエリアとしては狭い範囲で、これはという店も数軒に過ぎない。ブラジルでのショッピングは大きなショッピングセンターでするのが一般らしい。HStern へ再度行った。玲子が記念にアクアマリンを買いたいとの由。ついでに、お土産二人の分も買った。このごろ、旅行に出かけた時はなにか一つ記念になるものを買うことにしている。いつもはＴシャツ程度だが、今回は宝石ということで、一寸ふんばった。

ホテルまで帰って来て、近くの評判のピザの店に行った。カフェテラス風の店で、当然ピザを食べたが実にうまい。満田さん推薦の生ビールも抜群にうまい。そして安い。日本で一枚 2,000 円のピザがとんでもなく高いもんだ。ブラジルの中でもリオは最も貧富の差のあるところで、月収 3,000 円から 300 万円くらいの差があるらしい。それでもそれぞれに食べていっている。最低の部類はスラムに住み、盗電、盗水は当たり前、暖かいのでＴシャツとショートパンツで十分、バナナやパパイヤなら公園へ行けばいくらでもある。と云う具合で十分やっていける。

ここへ来て始めて盗電なんて言葉があるってことを知ったのだが、市は特に咎めないらしい。理由は、スラムといえども住民は皆選挙権を持っているし、上層部だって公金をごまかしているから同罪とのこと。

それから、貧しい人達の職業として、大きな交差点で止まった車のサイドミラーに帯状の透明のプラスチックの袋にチョコレートやクッキーを入れた物をすばやくぶら下げていく。信号が青になる前に、すばやく回収していく。実に鮮やかだ。一回の停止で何台掛けるのだろう。必要なら買えるが殆ど買う人を見たことが無い。しかし、現に沢山の人が各信号を多分所場としてやっているのだから、買う人がいるのだろうし、生計の足しになっているのだろう。黒山は、ブラジルの人は意外と優しいところが在るし、金持ち、貧乏、外人の差別をしない。彼らを助けるつもりで結構買うらしい。日本だったら、高級車に掛けると怒鳴られるのが落ちだろう。

夜の 7 時頃ガイドがサンバショーに行くために迎えに来てくれた。ガイドとは云え満田さんに代わって来た人は、その会社の経営者のようだ。高校留学でブラジルにやって来たらしい。ショー見物の前に競馬場の傍にあるイタリアンレストランで夕食だ。営業まもなくで誰も居ないが、彼はいつもこの時間に見物客を連れて来る馴染みのようだった。スパゲッティがうまいとの薦めでそれにした。ブラジルの粉チーズは塩気が多いから注意するようにと云われたが、スパゲッティそのものも結構塩味が強かった。一番プレーンなのを注文したが、しっかりとした味でさすがだった。食後、ショーの会場、プラトフォルマへ向かった。競馬場から近かった。お上がりさんや外人観光客が賑やかに会場へ入り始めていた。旅行社に頼むと、場所探しや、切符購入、飲酒運転、駐車などの心配なく実に、ボーっとしていられる。

会場はかなり広く、1000 人以上入れる。ストリップ劇場を馬鹿でかくしたもので、お決まりのエプロンステージも真中にあった。ショーの始まる前の余興として小学生くらいの女の子がサッカーボールでお手玉、いやお足玉、ヘディング等、見事で可愛い。そして、これが２０分位も続いた。それが終わると、バイーア地方の神話のショーが始まった。テレビ等で見たような絢爛豪華な衣装で強烈なサンバのリズムに乗って踊りまわる。全て、褐色の肌で、これがムラタなんかなと思われる娘も結構いる。人のうわさでは、小林幸子の紅白歌合戦の衣装のアイデアは、ここからとったとか。衣装もさる事ながら、やはり動きがアジア系とは違う独特のテンポの早い動き、跳ねる腰がすごい。カルナバル本番を想定した、旗持ちやお立ち台に乗るような衣装なんかが豪華だ。

本番では 1 組 5,000 人、10～15 組ものＡ級チームが乱舞するので、その豪快さは想像以上だろう。とにかく、4 日間寝ないで踊り狂い、騒ぎまわるのだから体力も要るだろう。会場では飲み物も注文でき、カイ

ピリーニャにした。慣れてくるとさわやかな味がするし、普段殆ど取らない甘味がおいしい。約 2 時間のショーの余韻を耳元に残して 12 時過ぎホテルに戻った。

８月１６日

いよいよ最後の観光地、イグアスへ向う日だ。ゆっくり朝食をして 10 時過ぎに空港へ着いた。リオも例外にもれず朝晩の交通ラッシュは大変だ。早めに出たら早目に着いてしまった。ダウンタウン郊外間で時刻によって一方向ばかり混む。これを解消するために混む方向の車線が増える。道路幅によってこれが増えたり減ったりするから、慣れないと恐ろしいことになる。どこかの国ではセンターの車線は追い越し専用で先に入った方が優先されるとかで、追い越しも命がけらしい。だいぶ時間があるのでブラブラ、ウィンドウショッピングに出かけた。国際空港のはずだがデューティフリーショップは無かった。

今日はまだ木曜日なので混雑は無いが、やはり週末はかなりの人出で賑わうのだろう。若者向けの店で壁に懸かっていたショートパンツに目が行き、入った。店のインテリアは勿論売り子の女の子も雑誌から抜け出たような、調ナウい雰囲気。一瞬ためらったが玲子に押されて入ることが出来た。全体的に色のきれいなものが多く、ブルー系のパンツを一枚買った。太り気味の腹に何とか入ってくれた。

このフライトはサンパウロ経由イグアス行きとなっている。ブラジルに来て飛行機の不便さに気がついていた。まず便数が非常に少ない。特にバリグ航空の場合はサンパウロをハブにしているため、何でもかんでもサンパウロを経由する。直行すれば 1 時間で行けるところを 3 時間も 4 時間もかかる事がある。玲子いわく、貧乏な国だから飛行機の数が少ない。貧乏な人が多いために飛行機の利用率が低い。サンパウロへの人口集中率が高いため。当たらずとも遠からずだろう。大金持ちは自家用機を使っているのだろう。サンパウロへ海からアプローチに入った時、サンパウロがサントスから急に高度が上がった高地にある事が良く判る。あたかも、大阪湾から六甲山へ向けて入って来て、六甲山の斜面で約 1000m に上がり、そのまま台地になったような地形だ。8 月 5 日に、初めて着陸した時は、早朝でもあり、濃い霧だったが、今回はぴーかんだ。

約 1 時間止まってイグアスへ向って再び飛び上がった。南の国の人は動作が緩慢で、アスタマニアーナ、明日があるさ的にのんびり機内の掃除をやるのかと思ったらとんでもない。非常に機敏で、特殊部隊が攻めてきたような感じで、めいめい道具を手に持ったり小脇にはさんだりして足早に機内

を動き回っていた。この間、トランジットの客、降りる客、乗ってくる客が入り混じっているが、何のその。てきぱきとあっという間にやって退けた。新幹線が東京へ着いた時なんかを思いだした。

2 時過ぎにフォストイグアス空港に着いた。一世のガイドが迎えてくれた。便利なもんだ。なんのためらいも無く、さっと車へ案内されホテルへ。このような代金は一体幾らなのか見直した事も無いが、大金でないことは確かだ。今後の旅行はこれに限るとも思った。

空港から 20 分ほどで、イグアス公園に入る。アメリカの公園と同様ゲートがあって入園料を支払う。ガイドが払うので判らない。便利だけど旅行はやはり何でも自分でするべきかなとも思う。ホテルは黒山が是非と言うことで予約したもので、公園内唯一のホテルだ。トロピカル　ダスカタラス、マナウスのトロピカルマナウスと同じバリグ系ホテルだ。

名の通りアメリカ南部のお屋敷風で、外は白亜、中はチークなどの木調、2 階の低層建築だ。部屋も 1 階で手入れの行き届いた庭が見える。とにかくこのホテルは滝が見えるホテルだ。入口左のバーのポーチでは、滝を肴にカイピリーニャなんて、楽しみ方が出来る。中央の鐘楼に登れば滝の半分は見える。今日は移動日ということでガイド付きの観光は無し。部屋でスーツケースの整理などして一休みし、ブラブラ滝見物に出かけた。

滝はアルゼンチン側の河が流れ落ちて滝となっている。つまり、アルゼンチン側からは河が落ち込むところを見、ブラジル側からは滝の全容を見る。借景のようなものだ。ブラジルが得をしている。その滝は長さが 4km 位あるので、滝を見ながらの遊歩道がある。落差はたいしたことが無いが、何処から沸いて出たのかと思うくらい、大量の水が落ち込んで水しぶきと轟音を残している。今も太古の昔もこれからも、止め処と無く繰り返される落下。とにかく滝だらけなんて表現はおかしいかもしれないが、滝でいっぱい。隅のほうの小さなものでも日本であれば、何々の滝と名が付くだろう。

ものの本によると、アメリカのルーズベルト大統領夫人がこの滝を見た時、”可愛そうなナイアガラ” といったのは、うなずける。とにかくでかい。遊歩道を半分くらい来て戻った。後は明日にしよう。遊歩道は自然公園の中を歩くように設定されている。名の知らない花が咲き、蝶々が飛び回っている。

夕食は庭でのバイキングにした。陽が落ちるとカーディガンが欲しいくらいに冷っとする。カイピリーニャ一杯でちょうど良くなる。インカの歌を唄うデュェットが食事を更に進めてくれる。シュラスコ、イタリアン、何でもあるバイキング。大きな団

体は居なかった。日本人の 10 人くらいが大きな団体のようだ。決して静かではないが調度良いくらいの賑わしさ。全部で 100 人くらいで、建物の大きさの割には少ない。庭も広くトロピカルな木や植えこみに色鮮やかな花をつけ、より南国を感じさせる。陽の在るうちは全く名も知らない、見たことも無い鳥が樹の実を食べるために沢山集まって乱舞していた。彼等も色鮮やかで鳴き声も耳に心地良いものだった。傍にプールがある。今は勿論誰も泳いでいないが、静かな水面に街灯の明かりを映している。その傍らで歌手達はギターを弾きながら唄っている。歌の調子からインカのそれと判る。近くの客がリクエストをしているのか話し掛け、一人の唄い手は軽くうなずいていた。そして、聞き慣れた歌が聞こえてきたのは云うまでも無い。

８月１７日

９時半にガイドが迎えに来た。滝をじっくり見ようというのである。途中しぶきに濡れるところがあるというので、使い捨てのかっぱを借りた。

イグアス河の途中にこの滝があり河の真中がアルゼンチンとの国境になる。殆どの滝そのものはアルゼンチン側にあるが、水の落ちている面はブラジル側からのほうがよく見える。アルゼンチン側からは水が滝壷に落ち込むところを真上から見ることになる。つまりブラジル側からアルゼンチン側の借景ということになる。小生も当地に来るまでは滝はブラジルにあるとしか思っていなかったし、近くにはパラグアイとの国境も近いということをはじめて知った。

イグアスの滝

世界３大瀑布の一つに挙げられるだけあって、落差 60m、幅 1.2km と、ものすごい。河に対してブラジル側は左岸となり、滝を見るための遊歩道がホテルの前から滝の始まるところまで約１km 続いている。

滝本体は一様ではなく、幅広に落ちているもの、２段になっているものなどさまざまで、２００以上の滝群とも云える。所々カメラポイント、展望所がある。サンパウロ、リオからも比較的近いせいか、日帰りも出来るようである。訪れる人の国籍も世界中という感じで、耳に入る言葉もごちゃごちゃ、さすが世界的な観光所と云える所以であろう。中でも、かなり英語が多く聞

かれ、夏休みのせいか子供連れも多い。

ガイドの話では今は水量も多く滝の形として良い滝だそうだ。遊歩道の最後の近くに滝壷近くへ下りていき、”悪魔ののど笛”といわれる、最も激しく水が落ち込んでいる場所見られるように造られた遊歩橋がある。滝の水しぶきは風の方向によれば降りかかるところで、その雄大さに圧倒される。ただのど笛のあたりはその水しぶき、霧に包まれて落ち込むところを見ることは出来ない。遊歩道の終点にはエレベータがあり上の道に簡単に登ることが出来る。これらは入園料に含まれているようで、全く只である。

このあたりにはレストラン、みやげ物屋等があり、我々も昼食はここでと思いながら、バードパークに向かった。ここは主にブラジル又は南米に産する鳥を集めた公園で、籠の中に居るものを見たり、大きな籠の中に放し飼いしてあったりする。種類は多く覚えることなど不可能だが、色鮮やかなオウムやインコ、蜂鳥、ブラジルの国鳥の大きなくちばしを持った派手な色のツカ等をほぼ自然の状態で見ることが出来る。ガイドの話では子供にとって滝よりここのほうが人気があるとの由。確かに滝はさっと見てしまうと殆ど変化も無くザーザーとうるさいばかりで、マッターホルンのように一日見ても飽きないという程でもない。所々にはワニやサルが居たり、なぜかタイの孔雀や鳥がいる。ゆっくり見ていくと約１時間かかる。名前は忘れたが白い鳩くらいの鳥で、鳴き声が大きく鋭い、金属の刀同士をぶつけあうような音でそばにいると度肝を抜かれる。ビデオに上手く収めることが出来たので後で見るのが楽しみだ。

サンパウロの人はリオの人を馬鹿にしている。大きな理由はリオの人は働かない、怠け者である。

証拠１：通常挨拶には３回頬にキッスをするがリオの人は２回しかしない。１回怠けている。

証拠２：コルコバードの丘のキリスト像は手を広げて、リオの人がまじめに働くようになったら手をたたこうと長い間待っておられる。でもまだ手を広げたままである。

ブラジル人は長い奴隷時代を経てきたためあらゆる労働は奴隷がするものと、云う頭、考えがまだある。つまり人は汗を流して労働するべきではない。頭を使ってやれば良い。労働は卑しいことである。ある面白い話、１週間分の給料をもらって金曜日に帰ってきた主人と奥さんが、１週間分の買い物をして帰ってきた。そして、良い週末を過ごし月曜日の朝、主人が会社へ出かけようとすると、奥さんが、あなた、まだお金が残っているから会社なんかへ行かな

いで私と家に居てよ、といったので主人も同意したそうです。つまり、ブラジルでは貯金をするという考えは少ないようです。

あるお金はあるだけ使ってしまう。ただ、カーニバル用の衣装を買うための貯金はするようで、月１万円の給料しかもらわない人でもこつこつためて衣装に全部使ってしまうとのことです。何か東京下町の、祭り狂いで宵越しの金は持たないなんて云うのに通づるところがあって面白い。

８月１８日

いよいよ帰国の日、朝４時半ごろ起きてそそくさと朝食を済ませ、迎えの旅行社の車に乗り込んだ。朝食は如何にバイキングスタイルとはいえ、朝５時前から営業している。朝早い便があるから、という理由もあるのだろうが、ホテルの対応が非常に親切とも云える。とにかく真っ暗闇の公園の中を空港へ戻った。こんなに早くとも飛行機の定員に見合う人が集まっていた。旅行者のガイドに別れを告げて搭乗ゲートへ向かった。

ホテルの朝食の時日本人の団体の旅行者が２０人程居たが空港には見当たらず、あんなに早く何処へ云ったのか検討もつかない。彼女の弁によると、今日一日で滝見物、発電所やバードパークなど全ての観光をして、午後便で帰るのではないかと。これが事実としたら殺人的なスケジュールではないか。何か旅行者と観光会社の根比べのようだ。

彼女の云う通り機内では朝食のサービスがあり、パイ、スクランブルエッグ、果物で簡素ではあるが、短い飛行時間にもかかわらず、有難いサービスである。時間通りにサンパウロ空港に到着。２回目で慣れた足取りで荷物を受け取り、タクシーチケット扱い所へ行ってパウリスタ方面への切符（実際には料金を記入したメモ書き）を受け取ってタクシーに乗り込んだ。土曜日のため道路も空いておりすいすいとホテルに到着した。今回は２００６号室でパウリスタ通りとは反対に面しているために、静かな部屋だ。荷物を少しといて黒山に電話した。ちょうどゴルフに出かけようとしていたところで、６時半にホテルへ迎えに来てもらって夕飯食べる約束をした。

それまで我々はカンタレーナのメルカトール市場にでも行って、何かうまい土産を買うつもりである。

18 時 30 分に黒山夫婦が迎えに来てくれた。初対面であったがこの間の写真や小島からの話を聞いていたので、気安く話せ玲子もそれに追随したとうことだ。小柄ななかなかの美人で言葉が非常に明確だ。何か在ブラジルの方の絵画展があるのでそれに行こうというので興味本位ではあったが付合った。行って見ると社交場のような雰囲

気でソフトドリンクやアルコール類が振舞われていた。絵画と書道で絵画ではゴルフ場の景色が目に着いた。その他ではリオなどの風景画が殆どできれいな判りやすい絵だった。

会場で武用さん、古少さん、瀬戸内さんご夫婦にも会い、中華料理をいっしょにすることが出来た。黒山が仕切り役というか幹事役でいろいろ注文してくれた。飲み物は最後ということもあってカイピリーニャを注文した。他の方も男性は黒山のセルベージャを除いて皆カイピリーニャで誰かはウオッカベースのを注文していた。このほうが少しあっさりしている。砂糖は少ないほうがさっぱりしてうまい。

ウオッカベースのカイピリーニャもあるらしい。料理はリオの中華よりはぐっと味が良かった。当たり前だがメニューは日本と同じで、ご飯もあった。食べた玲子に後で聞いたら、結構いけるとのこと。この米は日本人が南米で作っているらしく、その味も日本でのものと同じ味を目標にしているのだろう。ここに居る方たちも皆それを選んで買っているとのこと。

話題はやはりゴルフのことが多く、黒山の奥さんもゴルフをされるが、日本では出来ないのでブラジルに帰ったら思いきりやるらしい。皆さん非常に熱心で、外国であろうがやはり日本人的なことは、スコアとハンディキャップへのこだわり。古小さんは 90 を切ったら皆に食事をおごることになっている。それも高級イタリアンレストランで。

ゴルフ以外ではやはり日本での話題、奥様達は服装や流行や芸能人の話題が多かった。又良く出てくるのは日本は物価が高い、これは何もブラジルに限らず、世界中の人がそう思っている。外国から日本の物価を見た時、日本って、営々と働いて世界の中でも一流といわれる経済大国になったものの、物価が高いので結局、ゆとり感が無くあえいでいるんだなあと思う。例え月一万円の収入でも物価が安ければゆっくり生活出来る。特に、土地建物、教育費が高い。

こんなことを話しているうちに、どんどん時間は経ち、ホテルへ一旦帰って荷物をまとめチェックアウトしなければいけない。名残を惜しみながら、又再会を約束してお別れを云った。黒山にホテルまで送ってもらいここでも別れとお礼を云って握手した。時間もギリギリだったのでバタバタとパッキングして、チェックアウトした。タクシーを呼んでもらい乗りこむのだが、ブラジルのタクシーはどれもサイズ゛が小さい。日本では小型に類するもので、人については問題無いが、荷物を積み込むのが大変だ。つまりトランクが小さいので大型のスーツケース 2 個は入らない。経験のある運転手は我々のスーツケースを見ただけで、一つは助手席を利用する。普通はとにかく 2 つ

入れようとする。入らないと判ると結局助手席を使わざるを得ない。それだけ時間がかかる。それでも、日本に比べて随分親切である。

夜中なので道路は空いている。30 分くらいで空港に着いた。これからが予想外の出来事が待っていた。と云うのは、チェックインの時に随分時間がかかるのでおかしいと思って尋ねたら、Wブッキングで同便内では調整がつかず、他社便で調整していると、返事が返って来た。その代わりビジネスクラス席で、到着時刻は殆ど同じ。ただし、ルートは当初のロス経由ではなく、NY 経由で NY まではバリグ航空、NY からはデルタ航空になるとのこと。半ば驚き、怒り、最後にはシメシメと思ってボーディングパスを受け取って出国ゲートへ向った。

このようなことは今までにも何回もあり、1 回は、ビジネスクラスからファーストクラスへ代わったこともある。コンピュータの粋を尽くした管理と思いきや、随分落とし穴があるもんだ。おかげさまで、これだけの長距離をビジネスクラスとは有難い。特に帰りは疲労もあるので余計だ。旅行の最後の最後になってとんだお土産といったところで、悠々と機上の人となりえた。

その代わり、サンパウロ空港ではお土産などを買う時間が殆ど無かった。又ＮＹ空港ではデルタに乗り換えのために、隣の建物まで歩く羽目になった。機内では腹一杯食べて飲んで、映画を見て寝て、アフリカでは飲まず食わずの人が一杯居るのになんて、無責任なことを考えたりした。関西空港には予定通り到着した。旅の無事を感謝、これで全ての大陸に行ったことになる。

山岳共済保険　（ご参考）

現在会員数名が加入の山岳保険。年会費（保険料）6，200 円で万一の時・後遺障害 200 万円　捜索費用 200 万円　個人賠償責任 1 億円の内容です。一般のスポーツ傷害保険との違いは捜索費用の有無です。加入随時ですが途中加入でも１年分の会費がかかります。４月-３月が年度区切り、来年春先が切り替えの時期になります。上記は一例でほかにもタイプがあります。手続きは兵庫県山岳連盟経由、連盟役員の福田会員が取りまとめていますので「ブラジル紀行」の空きスペースでちょっとお知らせしました。

２００２年　地中海ヨット航海記

柏　　敏 明　（昭４１経）

小学校からの友人である関学山岳部 OB の小西君に誘われて、十数年前からヨットを始めています。ヨットも自然を相手にしており、山との共通点も多く、最近は山に登るよりヨットに乗る機会が多い状態です。

一昨年、彼のヨットで淡路島へ泊りがけでクルージングをした時、停泊地で一緒になった笹岡氏との出会いが今回のイタリア地中海クルージングの端緒だったのです。

１歳上の笹岡氏は、市大ヨット部出身、数年サントリーとヤマハで勤務した後、ヨットで西回りの世界一周や日本一周、アドミラルレース等のレースに参加するなど、ヨット周辺で生活をしてきた人です。

最近はヨーロッパで中古のヨットを購入し、ヨーロッパの運河を巡っているとのことでした。その彼が、フランスを出発し、地中海を通ってアドリア海に入り、又、フランスまで 2 年かけて帰ってくる計画を立てており、部分、部分を希望する人に乗って貰う予定なので、都合の良い所で一緒に乗りませんかと誘ってくれたのでした。条件は、一航海の参加費 10 万円と航海中の経費はすべて割り勘と云うことでした。

その時はとてもとてもと云う気持でいましたが、常々、いつかは地中海をヨットでセイリングしたいけれど無理だろうなと、小西君と話し合っていたので段々とその気になり、仕事の都合がつく 8 月、ローマからシチリアまでの約 1,000 km の地中海の航海に彼と参加することになった次第です。

山の報告でなくて、申し訳ありません。

7 月 31 日（水）　関西空港～Roma

笹岡氏と関空を 10 時に出発。ローマに 18 時 40 分着。空港近くのホテルに泊る。

８月１日（木）晴　出航準備

Roma～Nautilus・Marina

９時過ぎにヨットを預けているノーチラス・マリーナへ。陸置きしてあった船齢20年のETAP26、招福号(26ft　7.9m)の下架をクレーンで開始する。はげている箇所にペンキを塗ったりしながら、約束の11時30分にはテベレ川に降ろしてくれた。

早速、セイルの取り付け、バッテリーの充電、エンジンの点検、水の補給を行う。個人装備、日本から持参した食料等を整理した後、水浴びをする。寒かった。

８月２日（金）晴　29哩　54km

Nautilus・Marina～Nettuno

6時45分出港。テベレ川を下ってオスティア港を経て地中海のティレニア海に出る。逆風の為、クローズ・ホールド（風上への帆走)となり、針路を保持するのが難しい。

ネロ皇帝の生誕地を遠目に見ながら進む。針路を120°、200°と転進させながら、16時45分にネッツーノ港に着き、マルタ国籍のヨットに横付けする。

今日の強風でほころびたセイルの補修をした後、近くのスーパーへ買い出しに行く。昔の八百屋のように野菜はむき出し、大きさも日本のように揃っていない。値札のない野菜は近くにあるハカリに置き、その野菜の絵が描いてあるボタンを押すと値段シールが出てくる。それを野菜の袋に貼り付けてレジに持って行くシステムであった。肉類、野菜、飲料水、酒類、その他、航海に必要な材料を買い込む。イタリア語は２人ともダメだが片言の英語とボディ・ランゲージで結構意思が通じる。

就寝前に笹岡氏のお尻の穴の横に出来た出来物に軟膏を塗って処置をしてあげる。この作業は何日も続いた。もろだしといっても野郎のでは何とも・・・。

８月３日（土）曇一時荒天　58哩　107km

Nettuno～Ponza

夕食の残りの混ぜご飯と味噌汁をかき込んで6時45分出港。最初の2時間は順風で進んだが、10時頃から逆風となる。次第に逆風が強まり、なかなか距離が稼げない。

ポンザ島近くになっても風は衰えず、ショートタッキングを繰り返して、やっと港に近づく。この風では恐らく港は避難した船で一杯だろうと、港の西側にある入江に16時30分アンカーリングをする。

入江に入るとやっと風がおさまる。パワーボートや、セイリングボートが多数アンカーリングしており、子供達はゴムボート

に乗って、水泳や水遊びを楽しんで嬌声をあげている。大人のビキニ姿はスタイルが抜群。水はコバルトブルーで限りなく透明。これぞ、地中海という気分を満喫する。

8月4日（日）晴　25哩　46ｋｍ

Ponza〜Ventotene

6 時起床。天候が落ち着かず、暫く様子見をして7時40分に出発。はじめは機走したが、途中から風向きが変わったのでセイルをあげて機帆走する。11時頃からはエンジンを止めて帆走する。大体 4〜5 ノット（時速7〜９km）のスピード。

14時ベントテーネに入港する。時間が早いので村に出る。崖にへばりついたような村で、坂道を少し登った広場に教会や小さなレストランがある位である。

ヨットに帰り、給水栓から水をとって洗濯をし、汗びっしょりになった体も洗う。水は冷たく生き返った思いがする。もう少し水を浴びようとすると、時間が来たと栓を締められてしまい、水代として何と 20ユーロ(当時１ユーロ 120円)を請求される。停泊料が３ユーロだったのでびっくりする。恐らく水源がなく、水をタンカーで運んでいるためと思われる。

8月5日（月）晴　23哩　43ｋｍ

Ventotene〜Ischia

6 時 30 分出港。風がほとんどなく、20年も酷使され、始動時、時々機嫌が悪くなる VOLVO のディーゼルエンジン（9.5Hp）が頑張ってくれる。気温は30℃湿度が70%。

今日は23哩と短く、12時にイスキア島のカサミチ・オーラ港に着く。食料を買い出しに行くがオープンは17時半から。日本なら夕食の買物客で一番忙しい時間なのにイタリアでは関係なし。ここまで自分の時間を優先出来れば云うことなし。

食料等を整理したあと、海図を買いにバスでイスキア港まで行く。カプリ島やポンザ島への観光船が多く停泊しており、今までで一番大きい港であった。マリンショップを探し出し海図を購入する。サマータイムのせいか、20時でもまだ明るい。ジェラードを舐めながらイスキア港をぶらついて、又、バスで帰る。夕食は圧力鍋で調理したハッシュドビーフとワイン。

8月6日（火）曇　風強し　23哩　43ｋｍ

Ischia〜Sorrento

島の上に建つローマ時代の砦に見送られながら7時40分出港。最初は快適に帆走できたが10時頃からクローズ・ホールド。風速20m位になり波がデッキを洗う。

左舷遠くにポンペイを埋めたベスビオ火山、右舷前方には有名なカプリ島が見える。当初、停泊するつもりだったが何もか

もメチャ高いと聞いて予定を変更した島である。視界は良いがますます風が強くなったので、カンパネーラ岬でのアンカーリングを断念し、ソレントの漁港に逃げ込む。

港は船で満杯。縦付け、横付けと入り組んで停泊している。ようやく縦付けできる所を見つけたが、桟橋に辿り着くのに3艇位乗り越えていかなければならなかった。

少し風が納まったので、カンパネーラ岬まで様子を見に行く。35ftのアメリカ国籍のヨットがアンカーリングしている。試みに錨を下ろすがうねりがきつく、木の葉のように揺れる。大事を取って引き返す。運良く先程の場所が空いていたので、再び縦付けをする。

8月7日（水）晴　強風　Sorrento沈殿

眼を覚ますと、空は晴れているが強風が吹いている。24時間英語放送しているチャンネル 68 の天気情報も天候悪化を伝えているらしい（小生には意味不明）。気圧計の針も下がってきた。白波が防波堤を越えて港の中まで入ってくるため出港を見合わす。昨夜は岬でアンカーリングをしなくて本当に良かった。アメリカのヨットはどうしただろうと気になる。

港の中を見て回るが、小さな漁船を陸に引き上げ、大型船もロープで補強をしている。何か台風が上陸する前のようである。

昼からは、風の中を丘の上の教会まで散歩に行く。唄の“帰れソレント”はこの辺のことだそうだ。周りの山はオリーブ畑である。夕食は花がつお、紅生姜、青のりもついたお好み焼きとワイン。

8月8日（木）晴　37哩　69km

Sorrento～Castellabate

7時出港。心配していた風も追風微風となり機走する。カステラバーテ近くになって、昨日のなごりのうねりが大きくなる。

14時30分着。小さな保養地＋漁港の感じ。港の中で泳いだり、釣りをしている。釣れたものを見ると小アジみたいな魚であった。気温は32℃あるが、湿度は56%。日陰では爽やかである。気圧は1025hPa。

左舷にドイツ艇、右舷はイタリア艇。真ん中に我が日本艇。それぞれハリヤードに国旗を揚げているので、まさしく、日、独、伊の三国同盟であった。

8月9日（金）晴　48哩　89km

Castellabate～Maratea

朝食はクロワッサン、生ハム、トマト、ミルクコーヒー。6時30分出港。１時間程すると２人とも気分が悪くなる。船酔いする２人ではないので、今朝の生ハムがあたったのではないかと、あわてて正露丸を飲む。その後は何もなくほっとする。

波は静かで機走を主体に走る。世界遺産のアマルフィ海岸を遠望するが、遠すぎて

その良さがわからない。予定のメロータに早く着いたので、１日分稼ごうとマラテアまで、更に16哩を機走する。

18時にマラテアに入港したが、港は満杯。無線で交渉するも5哩北西の港へ行ってくれとのこと。仕方なく港の外に出たが、時間も遅く停泊できる確証もないため、港から少し西よりの海水浴場の沖に錨を下ろす。

周囲は岩場のような断崖。遠くに穂高の吊尾根のような尾根を持った立派な山が見える。港の裏山の頂上に約20m位の両手を広げたキリスト像が建っており、我々を見下ろしている。うねりが強く、ギーギーと船体が軋む。21時にシュラフに入るがうねりがきつく、なかなか寝付かれなかった。

8月１０日（土）晴　30哩　56km

Maratea～Cetraro

6時出発。1日中機走して、13時30分チュトラーロに入港。

夕方、買い出しに行く。スーパーまで2km位との事。覚悟を決めて歩きだすが、道順を聞いた人が追いかけてきて、親切にもバイクでスーパーまで乗せてくれる。

ヨットに帰ると、笹岡氏が隣の艇のフランス人と情報交換をしていた。予定していたラーゴラ・ボーダの港は水深が浅く、ヨットには無理との事であった。ビボまで48哩を直行せざるを得ない。食後、小西君に電話を入れ予定通りと伝える。夕焼けが異常に美しいのは天候の悪化の兆しか。

8月11日（日）曇　強風　Cetraro沈殿

夜中の3時頃から急に突風が吹き出し、雨脚が強くなる。舷側が桟橋に直接当たりだしたので、フェンダーの位置を直し、もやい綱も締め直す。雷も伴って強烈な嵐となる。後で聞くとヨーロッパ全体を集中豪雨が襲い、水害などの被害が出たらしい。

朝になっても風は一向に衰えず、白波が打ち寄せる。昼から雨はやんだが風がやまない。暇つぶしにサビキ釣りをするが一匹も釣れず。地元の人も釣れていなかった。

桟橋からヨットを見物する人が増える。日章旗を見て、ジャッポーネ、ジャッポーネと珍しがる。日本からこのヨットで来たのかと真顔で質問する人もいた。

8月12日（月）曇　強風　48哩　89km

Cetraro～Vibo Valentia Marina

6時30分出港。天候は曇だが、風が強く、白波もたって、うねりが５m位ある。

ビボでの待ち合わせがなかったら出港しなかったと、経験豊かな笹岡氏が云う位の強風の中を、波にもまれながら進む。

２ポイントリーフにして、ジブを少しだけ出していたが、それだけで約7.5ノットのスピードが出る。デッキも波で洗われる。ブォーという唸り声のような風が休みなく続く。ヨットのベテランが一緒なので耐え

られたが、小西君と２人では遭難するか、早々に尻尾を巻いて逃げ出していただろう。

今思えば、この日が全行程で一番風が強い日であった。かえってこの様な日は腹が減るもので、大揺れの中で今朝の残りのご飯をお茶漬けにして喰らい込む。どんなに揺れても飯が食えるというのは有り難いことである。

17 時にビボ・バレンティア・マリーナに入港する。こんな天候に入港してきたのは我々だけらしく注目の的になる。あの強風波浪の中をよく 10 時間 30 分も頑張ったと思う。ハーバーの管理事務所からワイン、ジュースとナッツを差し入れてくれる。

夕食は前半の無事を祝ってレストランへ行く。前菜は生ハム、唐辛子入りのソーセージ、ムール貝のオリーブ蒸しとチーズ。旨かった。メインのシーフードスパゲッティを食べるが塩辛くてダメ。あと青菜とトマトのサラダ。ワイン１本とビールを各１本頼んで２人で 36 ユーロ。驚くほど安い。

夜、スパゲッティの塩味がのどに残ってのどがひりひりする。

8 月 13 日（火）曇　Vibo Valentia Marina
小西君来艇待機

管理事務所のマスターが開いているマリンショップでシチリアまでの海図を購入。今回はキャッシュカード PLUS を使用したが、どんな町の銀行でも CD があれば、カードを差し込んで暗証番号と必要金額を入力すると、200 円の手数料だけで自分の銀行口座の預金から引き落とされ、ユーロとなって CD から出てくる優れたシステム。もう、これからは文明国であれば、このカードだけでどこへでも行ける時代になった。絶対おすすめのキャッシュカードである。

ビボ・マリーナ駅へ小西君を迎えに行く。15 時に列車が着く。乗っていなかったら困ったなと思っていたら、黄色いバッグを抱えた小西君が降りてきたのでホッとする。

タバッチでビールを飲みながら、車掌に英語が通じないので、どこで乗換え、どの列車に乗ったら良いのかわからず、その上、列車が遅れて乗換えがぎりぎりで危ないところだった。空港でも荷物が行方不明になり、隣のターンテーブルで回っている黄色いバッグを危うく見つけ、目立つかばんで助かった等々、お互いに積もる話をする。

夕食は小西君の歓迎会。１人 250ｇのステーキ、温野菜、ワイン、ビール。デザートはネクリタン。食後、管理事務所がやっているバーへ行く。お酒やコーヒーを飲みながら、情報交換が出来るところである。マスターの妹だという英語の堪能な美人と色々な情報？を交換したり、記念写真を撮ったりして盛り上がった。小生も、もっと英語がしゃべれれば世界は広がったと思うがもう遅い。

8月14日（水）晴　29哩　54km

Vibo Valentia Marina〜Gioiatauro

６時10分出港。風がなく機走で走り、途中から帆走。14 時にギオイアタウロ入港。さびれた町で見る所は何もなかった。

8月15日（木）晴　33哩　61km

Gioiatauro〜Milazzo

6時50分出港。いよいよ、今日からシチリア島である。はじめは機走で進み、10時頃から帆走できるようになったが、風力は弱く３〜４ノットの速度しかでない。

メッシーナ海峡を左に遠望する。第二次大戦中、連合軍が最初にイタリアに上陸したところである。ミラッツォ着14時30分。

停泊料 25 ユーロ。今までで一番高かったが、日本の7〜8千円の停泊料に比べれば安いものである。黒いサングラスのマフィア風の兄ちゃんが、ゴムボートに乗って、出入りする船を仕切っている。

一休みしてから泳ぎに行く。町中を通ると、５0歳から７0歳位の老人が7〜8人、車座になって例の機関銃のようなイタリア語でワイワイ云いながらトランプ博打をやっていた。その場で現金のやりとりをしており、マフィアの島に来たと実感する。イタリア本土ではこの様な光景は見なかった。

町の近くの海水浴場で泳ぐ。15分ほど泳いで後はビキニのネーちゃん達の品評会。なぜか太目が多かった。イタリアの漁船と云うか釣り船は、黄、赤、紺、緑といった原色で非常にかわいらしい。

港に帰って、シャワー浴びながら洗濯をする。停泊料が高いだけあってお湯が出る。久し振りに石鹸を使ってすっきりとする。

夕食はシーフードレストランへ行く。

8月16日（金）晴　29哩　54km

Milazzo〜Capp・O'Orlando

6時30分出港。クローズ・ホールドで機帆走する。機走の時は冷蔵庫が機能し、ビールが冷えて旨い。

途中から風が変わり、タッキングをしながら帆走。14.時にカポ・オ・オーレタンドに入港。停泊料を払いに行くが20ユーロの金を取るだけで書類審査もなし。

夕方から散歩に出る。狭い道の両側に海水浴客が車を止めており、その間をぎりぎりに車が通っている。小型車が多いのは入り組んだ道とその幅が狭いためであろう。

人は多いが泳いでいるのはほんの少し。ほとんどが寝転んで日向ぼっこをしている。

日本で流行っているウィンドサーフィンは一艇だけしか見なかった。ましてや、ジェットスキーは今回の航海では一回も見なかった。テラスハウスでメッシーナビールを片手に、またまたビキニの鑑賞会。

夕食は水が豊富にあったので、冷やしそうめんをする。

8 月 17 日（土）晴　35 哩　65km

Capp・O'Orlando～Cefalu

6 時出港。波は穏やか。機帆走で走る。

チェファル港の手前 5 哩位の所でセイルを降ろし、エンジンを止める。もやい綱を体にくくりつけてヨットから海に飛び込む。

実に透明なコバルト色で、潜っていても空中に浮いている感じがした。歓声をあげて泳ぐがすぐにしんどくなり、5 分程でデッキにあがる。地中海でヨットから泳ぐ夢もこれで達成である。冷えたビールを飲む。太陽がいっぱい。最高の気分。

14 時 50 分、古代の要塞を眺めながらチェファルに入港。夕方から町に繰り出す。歴史を感じさせる町並が続く。歩いて約 20 分位の所に繁華街があった。この辺りでは一番の観光地らしく、「地球の歩き方」の本にもこのチェファルは載っていた。そう云えばローマを出て以来、一度も日本人に会っていない。

この町の裏に 200m 位の岩山があった。ドロミテの話をしながらその岩壁を眺めていると、ロッククライミングを終えて懸垂で降りている人達がいた。イタリア南西部の岩は全般に石灰岩でもろそうな感じだが、ここは快適なクライムが楽しめそうである。

19 時にやっと開店したピザーラに入る。目の前にピザの石釜があり、そこで焼いてくれる。アンチョビ、オリーブ、ミックスのピザと白ワインを頼む。前もそうであったが相対的にイタリア料理は塩気が強い。

21 時過ぎにヨットに帰ると、桟橋の反対側に停泊している豪華クルーザー（笹岡氏によれば２億円以上するらしい）の後部デッキで晩餐会が始まった。夕涼みをかねて眺めていると、テーブルの両端にマフィアのボスのような男性が２人座り、その間に奥さん？と娘さん？らしい女性が２人ずつ座っている。黒の蝶タイに白い上着の正装したウェイターが、大きなスープ入れからそれぞれの皿にスープを入れている。まるで映画の一場面を見る思いである。写真を撮ろうと思ったが、見つかると護衛に殺さ

れるような雰囲気だったので撮ることが出来なかった。やはり、現実にこの様な世界があるのだ。

8月18日（日）快晴　32哩　59㎞

Cefalu～Palermo

6時に出港。280°に針路を取る。追い潮にも乗って約6ノットで快調に走る。

小西君が持ってきた期間限定の国際携帯電話で家に電話する。地中海のヨットから家と話が出来るとは凄い時代である。

パレルモ港に近づき、1時間程うろうろして、やっとパレルモヨットクラブの桟橋に着く。パレルモから乗船する久保田氏が出迎えてくれる。

8月19日（月）晴　　Palermo 休養

朝食は熱いご飯にアンチョビの塩漬けをのせ、お湯をかけて食べる。イカの塩辛のような風味があり、塩辛さも抜けアンチョビがお湯に溶け込んで何とも言えないおいしさであった。是非お試しあれ。

朝食後、買い出しに行く。昔風の市場があり、肉、野菜、果物、魚等々の屋台が軒を連ねている。食料、ワイン等を買い込む。新聞紙や紙袋で包んでくれるのが懐かしい。

シチリアの珍味ボッタルガ（マグロの卵巣を干し固めたもの）があったので仕入れる。費用は占めて77ユーロ。その内ボッタルガが30ユーロだった。

一旦港に帰り、再びパレルモ観光に出る。カテドラーレを見学する。柱毎に立像があり豪華で荘厳。絵画も教科書で見た覚えのがあるが名前までは思い出せない。メインストリートのローマ通りの店を覗き、道具屋筋みたいな通りで、珍しいアラブの料理器具店などを冷やかしながらパレルモ旧市街をうろつく。

帰船後、クラブの温水シャワーを浴びる。晩飯は先ずボッタルガをアテにビールと白ワインを飲む。少し生臭ささがあるが酒のアテには最高である。ビールはギネスビールでビンの中に白い玉が入っていた。何故入っているかで談論風発するが結論は不明。後はカレー。メロンで締めくくる。

8月20日（火）快晴　35哩　65ｋｍ

Palermo～San Vito Lo Capo

6時20分出港。風弱く機走する。4人にもなるとデッキが狭い。やはり、26ftの船では3人が限度か。ジューシーなサラミを肴に水割りを飲みながら操船する。ヨットの良い所だ。シャーという波を切る音しか聞こえず、自然と一体になった気がする。3～4ノットのスピードで進む。カーポ・サンビーノに15時入港。港から見える岬の岩山が印象的である。

今夜が海の上での最後の夜である。ボッタルガスパゲッティとトマト・ピーマンのサラダ。それに白ワインで打ち上げをする。

この航海の食料・酒代、停泊料、ホテル代、レストラン代、ジーゼルガソリン代等、すべての小生の負担額は 452 ユーロ、54,240 円であった。20 日で割って 1 日当り 2,700 円余りである。

8 月 21 日（水）晴　33 哩　61ｋｍ

San Vito Lo Capo～Marsala

6 時 30 分出港。昨日と同様のべたなぎ。湖水を走っている感じ。途中からオートパイロットに切り替えて進む。ブルーチーズを溶かして塗ったパンをアテに、冷えたワインと水割りで今回の航海を振りかえる。

強めの風が吹き出したので帆走に切り替え、小西君と交代でティラーを持ち、最後の舵取りを愉しむ。

15 時マルサーラに入港。笹岡氏、久保田氏、招福号に礼を云って 16 時に下船する。

タクシーで Delfino　Hotel へ行く。早速、20 日振りの風呂。ジェット水流が出るバスで、シャンプーを入れると、モンローが入っていたバスのように浴槽内が泡だらけ。すっきりとしたが、垢の溜まった浴槽を掃除すると、又、汗がでた。久し振りのベッドのクッションが気持ち良かった。

8 月 22 日（木）晴

Marsala～Palermo　鉄路

12 時 2 分の列車に乗る。二等車しかなく、パレルモまで 7.8 ユーロ。936 円。海を暫く見て途中から丘陵地帯に入る。砂漠のような風景が続く。シチリア島でもこの辺は特に貧しいらしい。再び海が見えてくる。一昨日通って来た海である。

15 時 20 分にパレルモ中央駅に到着。Jolly Hotel Palermo で一息入れて街に出る。小粋なレストランに入り、アラカルトで色々と注文する。ワインは主人お薦めの白の地ワイン。少し、多く頼みすぎたのか、腹一杯になる。

ついにやった！と高揚した気分で夜のパレルモを２人でほっつき歩く。第二次大戦時の市街戦の跡と思われる弾痕の残った壁があちこちにあった。石壁のため弾痕の跡にセメントを埋め込んであるだけなので何時までも残っている。

8 月 23 日（金）晴　パレルモ～ローマ

午前中、ノルマン王宮等の観光名所を見物してパレルモ空港へ。16 時 5 分発のアリタリア航空に乗る。離陸すると眼下に数日前まで航海をしてきた地中海が真っ青に見えた。17 時過ぎにローマ着。最後のエスプレッソを飲み、イタリアとの別れを惜しむ。

ヨットで地中海の島々や港を航海し、ヨットから地中海に飛び込んで泳ぎたいという夢が実現した 24 日間が終った。

8 月 24 日（土）　23 時　自宅着

― 会員短信 ―

「秋の集会出欠」と**「総会出欠」**に併せてお知らせいただいた近況です。
秋は**明朝**、**総会は ゴシック**で区別しています。

名誉会員・顧問

山本 三郎（名誉会員）

ご案内ありがとうございます。全国大会・学習院定期戦と日程がきまっていますので残念ながらこのたびは欠席させていただきます。ご盛会と皆様のご健勝をお祈りします。幹事の皆さまご苦労さんです。

香月会長の訃報に接し驚いております。せめて偲ぶ会に参加してと思いましたが、当日姫路で国体候補選手の選考会があり出席できません。心からお悔やみを申し上げます。皆様によろしくお願いします。

平井 一正（名誉会員）

秋の集会の盛会なことをお祈り申し上げます。山岳部の再建は頭の痛い問題ですが何とか努力をお願いいたします。

甲南山岳会OBの皆様の元気さにあやかりたく、今年秋チベット・インド・ミヤンマーの国境地帯にありますカンリガルポ山群の処女峰ルオニイ峰(6,805m)に行く予定です。

渡邉 和俊（大学顧問）

皆様によろしくお伝えくださいませ。

神戸 謙司（中高顧問）

返信遅くなりまして、すみません。中高の活動記録をもっと早く掲載できるように努力したく思います。また、今年は部員の勧誘もがんばってみたく思います。

旧制高校

関 集三（旧 10 理）

今春５月には阪大時代の門下生の皆様により、米寿の祝賀をしていただき、すっかり老人となりました。６月には旧制甲南高校８３年記念同窓会座談会パネリストに招待され、往時の山岳部の思い出などを話しました。本年の日本山岳会「山」の２月号に織内信彦氏により執筆された甲南山岳部の名声の記事などを紹介しました。
「山」は日本山岳会機関誌「山」の本年２月号(No. 681)に出た記事です。

佐野 源一（旧 10）

一昨年４月膀胱がん発病以来、先月２９日 ３回目の手術を受け、9 月 6 日退院、いずれも経尿道の腫瘍切除で、今回は手術室に入り終わって出る迄 40 分でしたから、実際の手術時間は 30 分位だったようです。Dr から何をやっても良いが、体力を考えて行動する様云われていて、腰痛・肩痛・弱貧血の小生としては、どの程度の運動なら良いのか、一寸迷っています。いまの処出来るだけ日射をさけ１キロ程度をゆっくり歩く程度にしております。

3 年前発病手術した膀胱がん、その後 2 回再発手術しましたが、昨年 12 月本年 3 月の検査も無事通過しました。唯少し無理すると出て来そうなのと、腰痛・肩・腕痛で週 3 回リハビリに通っていまして、特に腰痛は 1.5 粁位歩くと痛みが激しくなり、歩くのが苦痛になりますので、スキー・ゴルフもアウトで、P/C でひとりゲームをやる位が、唯一の楽しみです。

山岡 静三郎（旧 11 理）
この７月で８６才に達しました。

本年 7 月、米寿をむかえます。健康上にもいろいろ問題もありますが、生きております。山岳会のご発展を心よりお祈りいたします。

國府 雄次郎（旧 12 理）
香月大先輩のご逝去により、旧制 12 回生にとっても、ご健在の先輩は数少なくなられたの感深いです。と共に諸先輩のせっかくきづかれた我が国の登山界・スキー界が様変わりしているのを、先日孫共とスキーに行って痛感しました。用具も設備も曲芸スキー用ばかり。体育大でスキー指導している人物にあったので「もっとスキートゥアが盛んになるよう指導力を発揮できんのか？運動用具界にも旅行業界にも山小屋にも」と文句を言いました。

奥山 正雄（旧 12 文）
元気です。山岳会の創設者、香月先輩が亡くなり残念です。段々寂しくなって来ましたが残り少ない先輩の関 集三さん、佐野 源さん頑張って下さい。

武田 六郎（旧 13 理）
御連絡有難うございました。御一同様の益々のご健勝を祈念致します。

永年の腰痛で運動量が極めて減少しています。御一同様のご健勝を祈念致します。

赤松 二郎（旧 14 理）
8 月末に上高地から焼岳に行き中尾峠を越えて中尾の村に下りましたが、半世紀前しか頭にイメージできなかったので、すっかり近代化して知らぬ土地になってました。75 年号ババ連れ 30 年(48)まででしたが(49) 奥又の池 01/11/01 (50) 韓国岳 九州最高 (51) 焼岳 02/08/28 中尾峠を飛騨側に下る。足がバテもうあかん。

四月は白内障の手術ため入院を要することになっている。五月になれば落ち着いていると思われます。

川村 三郎（旧 14 理）
毎度ご連絡を戴き有難うご座います。当方身体の調子不安の為遠出が出来ず又々欠席させて戴きます。皆様に宜しくご盛会をお祈り申し上げます。以上の通り身体の調子が悪く何のお役にも立てないと存じますので今後ご連絡は不要(会報も不要)と存じます。宜しくお願い申し上げます。

鷲尾 顕（旧 15 文）
参加出来ず残念です。ご盛会を祈ります。住まいの周辺を漫歩する日々です。

世話役の方々のご尽力に謝意を表します。山岳部が休部となり残念の至りです。息災の日々を過ごしています。

福田 泰次（旧 15 理）
その後も元気にやっています。今でも時々甲南時代の山の夢を見ます。積雪期の後立の山々の岩壁に取り付いたり、穂高・劔の岩壁を登ったりしている夢で目覚める事があります。

伊藤 文三（旧 15 文）
香月さんを偲ぶ会もあることで、出席したいのですが、肺ガンの手術後の抗がん剤注射からまだ開放されず、体力的に自信がないので欠席させていただきます。

澤田 晃（旧 17 理）
昨年より体調を崩し引きこもり状態です。

小生病身のため貴会を脱会させて頂きたくこの段届出させて頂きます。

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春「**総会出欠**」に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、**14 年秋は明朝**、**15 年春はゴシック**で区別しています。

小川 守正（旧 17 理）

甲南山岳会秋の集会のご案内有難う御座居ました。残念乍ら当日所用あり欠席します。ご出席の皆様に宜しくお伝えください。近況ですが極めて元気です。私が師と仰ぐ旧 2 文卒の野田 弥三郎氏が八月七日亡くなられました。残念です。旧卒では野田氏知っている人も居るので連絡しておきます。

だんだん年をとって来るに従い、山岳会の皆様の活躍・消息が楽しみになって来ます。小生最後の気力をふりしぼり平生さんの遺産甲南病院の再生に努力中です。“皆様もソロソロ人間ドックで健体長命をはかられますよう、当院においで下さい。割引きさせて戴きます。（コマーシャル）

福井 實（旧 17 理）

元気に過ごしています。昨年度は総会・ロックガーデン共参加させて頂き、感激でした。今年も、今の状況では両方に参加させてもらえると思います。

津田 昌男（旧 18 理）

秋の集会の御案内有難うございました。私出席したいのは山々ですが数年前からのパーキンソン病で遠路の外出は禁ぜられております。御出席の皆様によろしく。盛会を祈ります

昨年暮、食道癌発見され、11 月中旬から 2 月にかけて入院。手術せず、放射線と抗癌剤の投与で無事癌をおさえて 2 月に退院しました。100 日近い入院生活でおとろえた身体の調子をとりもどすのに努力しています。

茂木 光隆（旧 18理）

秋の集会が乗鞍から木曽に移ってから一度も参加できないのは残念ですが、ＫＡＣのホームページを時々開いてみて、今年も米山さん遠くのルパルピークはじめ、諸兄のご活躍に感心しながら、皆様のご健勝を祈っております。私自身は、ゆっくりならば一時間ぐらい歩けるようになりましたが、無理せず根気よく病気とつきあっています。

病気とのつきあいも 4 年を超えました。過去の山々のいろんな場面はよく夢に出てきますが、現実に戻れば遠いところへは出かけられません。一進一退の病状を克服して、いつの日か丹沢辺り歩けるようになりたいものです。失って健康の有難さを痛感しつつ、諸兄のご健勝を祈ります。

國府 三郎（旧 18理）

記憶力が弱くなって来ましたが体力は丈夫な様です。若い時鍛えたお陰でしょうか？用事で失礼しますが、皆様のお元気をお祈り申し上げます。

故人会員のご冥福をお祈り申し上げます。ボツボツやってますが平衡感覚が悪くなって来ました。

岡橋 節三（旧 19 文）

時々体調を崩して、それがなかなか回復しなくて困ります。皆様にもくれぐれもよろしくお伝えください。

前田 金剛（旧 24 理）

出来る限り毎日近所を短時間散策することで体調の維持を努めています。従って各種会合の案内等は省略願います

伊藤 五介（文修 24）

何とか元気にやってます。

新制高校

中井 久夫（新高 27）

微恙にて春より退院後自宅療養中です。甲南大学（文学部人間科学科）に後期から復帰を目標に努力しています。

陛下と同じ病気で同じ処置を致しましたが、とにかく目下は時とともに元気になっております。先約ありまして失礼致しますが、御盛会を祈ります。

米山 悦朗（新高 29）

パキ遠征後リバウンドで体動かず、もっぱら静養中です。

4 月 24 日からチベットに行きます。皆様に宜しく。

北方 龍一（新高 30）

66 歳になっても現役です。実質労働時間は卒業以来の最高で休日無し、ミヤンマーのピンウーリンで 150 坪の新築中です。年末完成の予定。宿泊費（食費は除く）は無料ですので完成の暁には御出で下さい。

都合で欠席します。皆様に呉々も宜しくお伝えください。

塩田 邦博（新高 33）

昨年十月米国で３時間半の腰椎の手術をし、それに成功しました。腰椎は完治しましたが目下、足の筋肉のリハビリ中。

永島 孝男（新高 37）

東京でサラリーマン人生の最終コーナー。完全燃焼を目指して、バタバタと走り回っています。

乾 卯兵衛(新高 37)

上高地の真裏中尾平に山小屋を建てるべく西洋風の茅葺 1.5 階です。中に入れる古い家具備品はそろえているのですが、一番大切な土地を買えておりません。会社の業績も少しあがればと思っております。となり富山県警の遭難のヘリコプターの基地なので、毎日除雪をしてくれますので夢を早く現実のものにしたいです。

伊藤 寛（新高 38）

住所が変わりましたのでよろしくお願いいたします。

川村 靜治（新高 40）

当日海外出張のため欠席致します。山歩きからは遠ざかっておりますが、昨年の 5 月連休は熊野古道中辺地を家族で歩いてきました。今年は尾瀬の水芭蕉を見に行こうと思っています。

福田 裕久（新高 45）

最近はよる年波を考えさせられております。（五十肩に悩んでいます）

前田 和也（新高 53）

なかなか関西に帰る機会がなくて欠席ですみません。

関根 正三（新高 H8）

いつも大変お世話になります。正三は現在オーストラリア シドニーに赴任しております。まだしばらく日本にはもどらないと思います。宜しくおねがいいたします。代筆

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春「**総会出欠**」に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、14 年秋は明朝、**15 年春はゴシック**で区別しています。

大　　学

小原 耕治(大 31 経)

秋の集会で諸兄に逢える事楽しみにしております。お世話になりますが宜しくお願います。

当方元気に過ごしております。幹事の方には御苦労様です。今後とも宜しくお願いします。

阿部 純一 (大 31 経)

残念ながら母の 3 回忌と重なって参加できません。皆様によろしく。

砂川 彰雄 (大 32 経)

元気にしております。今年は地域自治会の役員をやらされており、当日催しが急に決まり、集会には参加出来なくなりました。ご出席の皆様に宜しくお伝えください。

香月名誉会長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。偲ぶ会もあり、今回は出席したく思いましたが、所用と重なり、申し訳ありませんが欠席致します。盛会をお祈り致します。

柳澤 正 (大 32 経)

山岳会のお世話、幹事諸兄に感謝して居ります。「毎日が日曜日」が丸 3 年になり、それなりに慣れました。日々は近くのハイキング・探鳥・古墳めぐり綿業クラブなど週に 4～5 日は出かけます。一昨年は徳本峠、昨年は鏡平へ行きました。今年は 60 才台最後の夏、白馬か白山へ行きたいと思って居ります。

鈴木 頼正 (大 33 経)

毎年お世話になります。山岳会の皆様とお目にかかるのを楽しみにしています。

田辺君、飯田君とカラコルムバルトロ氷河にトレックの予定。出来れば中型カメラをもって行く計画です。酒も弱くなりました。週2日ジムでがんばっています。ゴルフは月 2 回ボールがめっきり飛ばなくなりました。

田辺 潤 (大 34 経)

幹事の皆さん、お役目ご苦労さまです。お世話になります。7 月の鈴鹿 赤沢谷では皆さんに大変お世話になりとても楽しかったです。モーッ ゴメン！と言われるかもしれませんが、年に一度くらいは、お願いっ！連れて行ってください。

美田 靖夫 (大 35 経)

暑い暑いで歩いていたら転んで足首を痛めました。

丹波の山をうろうろしています。屋久島、再度アタックしたいと思っていますので誰か行きたい方同行しませんか。

芦田 匡平 (大 35 理)

甲南の友人の息子の結婚式が有るなどするので本年欠席。小生癌を気遣うとはいえよく呑みよく歩いております。元気と言えば元気！でないと言えば年のセイか？皆様に宜しく。

鳥居 威男 (大 35 経)

元気に毎日を送っております。裏山の六甲山には少なくとも月 2 回は、近郊の山にも。今年の夏は暑さで山は遠ざかっています。この 5/末で職を辞しましたので、お返しとしてボランティアでもと考えております。

元気にしております。近郊登山とジョギング、元の会社との付合い等時間はつぶれています。当日は所用あり皆様によろしくお伝え下さい。

伊丹 弘忠 (大 35 年経)

年初めより 3 回の入退院を繰り返し苦労しておりましたが、体力もやっと回復し、酒も飲める様になりました。皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。幹事様ご苦労さまです。

元気にしております。香月さんが亡くなり、私より若い人が亡くなるので寂しく思います。ボケないよう様に、又体力維持のためにも体操やハイキングは続けていきたいと思います。

牧野 宏（大 36 経）

皆様にお目にかかれることを大いに楽しみにしております。

藤安 賢一（大 36 経）

本年４月に両足に突然湿疹が出て現在治療中、漢方薬にとっぷり浸っております。でも休日には裏山に散歩に出掛けます。夏は暑いので短時間行程で打越山(481.4m)を中心に 2 時間 30 分から 3 時間 30 分うろついて山から降りてきます。

体調不良の為出席できません。

越田 和男（大 36 理）

７月にリタイヤいたしました。目下腰痛治療のため通院中ですが、軽い山歩きは再開しました。先日は高峰温泉に泊まり、浅間の外輪山のひとつ黒斑山に登りました。来年２月に、ババさんらとニュージーランドのトレッキングツアーを企画中です。

昨年 7 月にリタイヤいたしました。腰痛を完治してから山歩きを再開しようと、当初治療に専念しましたが、完治は無理とさとり、目下だましだましの山歩きを続けています。11 月には中国・黄山、1 月にはニュージーランドのトレッキング(グランドトラバース)など。次はブータン・アイスランドなどを考えています。

廣瀬 健三（大 36 経）

山岳書をボチボチ読んでいます。(仲々読みきれません) ＫＡＣ大先輩の佐野源一氏 サノゲンさんと早稲田山岳部の同期のイトコの未亡人からドッサリと山の本が届きました。その中に甲南・四高(金沢)の部報有りました。甲南緒先輩諸兄にヨロシク！！

昨年 9 月に続き、去る 3 月 19 日、大阪甲南会での、南里先生の講演を聞きました。印象深かったのは「地獄の 36 時間列車の旅」です。この全世界冒険旅行を支えたのは、甲南での山登り経験であったようです。

大関 和夫（大 37 経）

あまりの暑い夏で驚いています。カラコルムのチラースの暑さ並です。７月は平井氏と共に妙高の山荘で快適な避暑生活を送り、野尻湖畔の温泉で、ジャグジーに漬かり、テラスのベンチで昼寝をしていました。８月は夏休みの孫の遊び相手です。

越田兄と一緒に出席する予定。2 月に 2 回栂池と杉野沢にてスキーを滑りました。3 月は 2 回山仲間の山荘へ行き、酒と料理と温泉を楽しんできました。

二谷 和成（大 38 経）

いつもお世話になっております。膝の油が少しづつ切れてきておりますが、月 1～2 回 近くの山を歩いてます。今回は蝶か常念から秋の穂高を眺めて集会に出席の予定です。

返事遅くなりました。膝のきしみが徐々にひどくなり、整形外科で受診中です。老化で仕方ないようですが歩いたほうがいいとのことで、皆さんに迷惑のかからない山行には参加しようと思っています。

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春「総会出欠」に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、14 年秋は明朝、15 年春はゴックで区別しています。

飯田 進（大 38 経）

先日ゴルフ場で血圧計で計ったらやけに高いので、かかりつけの医者へ行ったら、あんたも人なみに年取ったねといわれ、オレンジジュースでも飲んで血圧下げないとと思っております。出席者の皆様に宜しく。

福田 信三（大 39 理）

毎月の芦屋集会で皆さんの中で活躍を聴くのが楽しみです。裏山の六甲山で四季を楽しんでいます。

幹事御苦労様です。総会前の二重の不幸や南里先生の出版等、悲喜こもごもの感有りです。永年の継続をする限り止むを得ない事でもあります。良き古を継承し明日に開けた会であればと希望します。

井本 洋（大 39 理）

毎月２度程高校時代に登っていた丹生山（515m）⇒シビレ山（466m）⇒ 帝釈山（581m）ミニ縦走をやっています。約 3 時間半～4 時間の山行です。一応元気にやっています。皆様によろしく。

森本 全彦（大 39 法）

訃報に接するたびに寂しくなり、そういう年令になって来たのだといいきかせてます。昨年より山行次第し、本年はそれ以上に登って見ようかと、日本の山も捨てた物でなく、素晴らしさ発見しております。誘ってくだされば何処へでも！

カンロク

伊丹 徳行（大 40 法）

今年のお盆は S36 夏・S38 春の合宿で行った知床や利尻に行きました。出来るだけ合宿に行った様に JR（大阪⇒青森⇒函館⇒札幌⇒釧路⇒網走⇒稚内⇒札幌）船（青森⇒函館）船（稚内⇒利尻）バス（釧路⇒羅臼⇒標茶）廃線になった区間や新しく出来た路線を旅しました。又時報にある羅臼温泉・利尻千法師の跡地を見て来ました。つかれました。

先日倉敷ツーデーマーチに参加し1日目 40km 2日目 40km合計 80kmを歩いてきました。朝 7 時から夕方 4 時まで途中1時間の休みをとっても時速 5km/時で歩き終わってみれば足はカチカチ・腰は痛いとさんざんな 2 日間で 2 日目の夕方は鵜木先輩に助けてもらいました。学生時代の山に行っているよりもしんどかった様に思います。としですかね！準備委員の方々ご苦労さまです。

奥山 正紀（大 40 法）

当日家内のショートステイの都合がつかず残念ながら欠席いたします。会員の皆様方によろしくお伝えください。

竹中 統一（大 40 経）

先月 2 月 23 日小生の還暦の記念に、スキー仲間と秋田県側の秋田八幡平スキー場より、八幡平頂上茶臼山を経由し松尾高山跡へスキーツアーを楽しみました。当日は快晴で数日前の新雪のラッセルも一部 5 人で交代に行いました。皆さんに呉々も宜しく。

鵜木 洋（大 40 文）

年令のせいか山に登るのが大変しんどくなって来ました。先日、九州霧島を登ってきましたが、近所のオバサンと同じ位の歩きしか出来ませんでした。６５才を山行の定年と決めていたのですが、３年を残す現在心細い限りです。

最近、体力の衰えを身に沁みて感じる様になりました。鍛えてどうなるものでもなく年令相応の身体に甘んじる以外ありません。当日は娘と一緒に出向きたいと思っています。

安井 正（大 40 経）

先般、神前未亡人を励ます会をS36 入学・S40 卒が会して中華をつついて一刻をすごしました。

柏 敏明（大 41 経）

幹事の皆様に色々とお世話を頂き有難うござい

ます。この夏は、友人とローマからシチリア島まで、イタリア南西部の島々や港を転々としながら、26 フィートの小さなヨットで、約 1,000ｋｍの航海をしてきました。海は限りなく青く、ワインは旨く、ビキニ姿が眼に眩しかったです。山に登らなくて、申し訳ありません。

事務局の皆様にはいつもお世話をいただき有難うございます。昨年 6 月に白内障、11 月には網膜剥離になり、危うく失明するところでしたが、処置が早く助かりました。飛蚊が出だしたら注意して下さい。そろそろ色んなところがメゲてきました。

井上 徹（大 41 営）

横山 洋君にきっかけをいただきこの度、会長様他のご好意にあまえ入会させていただく事になりました。皆様へのご挨拶ならび洋君その他諸先輩の慰霊の為、参加させていただきます。4 月 19 日は少し遅れるかもしれませんが、必ず参加させていただきます。

森岡 宏光（大 43 理）

いつもお世話になっております。５月の連休に佐渡の山を登っていらい山にはいっていません。私事ですが５／末に退社し８月より独立し自宅で仕事をしています。TEL・FAX も同じです。(042-757-2780)以上よろしくお願いいたします。

昨年二度目の会社を5月末で退社し、自営業を始めましたが、簿記・ワープロ等仕事上資格が必要と思い、12 月から 3 ヶ月コースの職業訓練校に入り、このたび終了いたしました。今後は自営業と12 月初めの国家資格に挑戦したいと思います。山の方では 2 月の始めに沼律アルプスに登ってきました。低山ですが 5 山・7 峠の変化に富んだ、おもしろい山です。

國分 廣昭（大 43 経）

今年はどうしても六甲に行かなければ。

頼富 信輔（大 43 法）

残念乍ら出席できませんが、皆様のご健勝をお祈りいたします。

赤田 友則（大 44 理）

盆休み裏六甲地獄谷歩きました。だれもいなく、静かな山歩きを楽しみました。又、先月マレーシア サバ州に仕事で行きキナバル山のふもと散策しました。キナバル山(4,095m)はすごい山ですね。ぜひ登りたいと思っています。

当日会合(大和心のつどい)(毎月第三土曜)と重なり残念ですが欠席します。

石原 浩二（大 44 理）

いつも御苦労様です。

いつも御苦労様です。

北川 研（大 45 理）

今年１月半ばより栃木へ出向しております。

南里 章二（大 45 理）

お世話役ご苦労様です。秋は学校行事に追われ、残念ながら出席できません。現在、山岳会の皆様のお世話になりつつ、本の出版に尽力しています。八月はじめに、ボルネオのキナバル山登ってきました。登山道は、完璧に整備され、登りやすい山でしたが、標高 4,095mは、少しきつかった感じです。

皆様方には、すでにメールの掲示板で御存知の方も多いと思いますが、ようやく拙著「全世界紀行」を出版させていただきました。おかげ様で、著者販売分は売上げ順調です。甲南山岳部・山岳会なくしては、この本も生まれていなかったと思います。本当に皆様方には感謝しています。

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春「総会出欠」に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、14 年秋は明朝、15 年春はゴックで区別しています。

矢吹 操（大 45 理）
元気でおります。

杉原 久夫（大 46 理）
最近は山行は全く行っていませんが東海道・山陽道を歩いています。年会費を 12,000 円を振り込みます。皆様に宜しくお伝えください。

高橋 伸一（大 46 営）
拝啓 皆様にはご健勝のこととお祈り申し上げます。平素は、ご無沙汰し放題で申し訳ありません。先日、井上氏より懐かしい便りを戴き、学生時代を思い出しておりました。ご無沙汰不義理のあまり、香月先輩・横山先輩の訃報すら知らず申し訳なく思っております。横山さんには特に、学生時代と社会人になってからの暫く大変お世話になりました。大学2年の5月だったかと記憶しておりますが、横山さんと、木村さんと、横山さんの友人の岡田さん(？)と私の 4 人で涸沢にテントを張って前穂北尾根の 5・6 のコルをよじり、吊り尾根の途中から涸沢へ転げるように降りた事など、又、金がなくなるとジナンボーでバイトと称して時間を潰し、バイト料を戴いたこと、就職をするなりイヤになりやめる相談に伺ったこと等、昨日のように思い出しております。今回も、失礼ながら出席できませんが、両先輩の冥福を心より祈っております。祈りつつ、未だ先輩が亡くなられたとは、信じられなく心を痛めております。敬具

《追伸》井上さん、山岳会のお世話、誠に有難うございます。一度も参加せずに、不義理なことをしておりますが、よく学生時代の山の思い出や仲間と一緒にトレーニングなどをしたことを思い出す事があります。山岳部時代、私には同期がいなかったため(一人いたのですが途中でいなくなりました。)結構さみしい思いも致しました。まあ、そのぶん伊藤さん・木村さん・北川さん等に大事にしていただきましたが・・・・。最近は海釣りに凝っております。昨年の最高結果は 65 センチの真ダイでした山は 30 歳の秋に穂高に登って以来行っておりません、毎年正月に今年こそはと、決意するのですが、体力に不安があり諦めています。去年の夏から本格的にトレーニング(スポーツセンターに通って)に励んでおり、今年の秋には剣岳へと決意していますが、さてどうなることか？最後になりますが、みな様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

平井 幹男（大 50 文）
前略 多忙につき出席できません。残念ですが次の機会にでも・・・５０才を過ぎて体力の衰えを何とか空手で乗り切ろうとがんばっています。

前略、当日はイラクの状況だいですが参加できる見通しです。何かと旅行業界も大変ですが、細々とがんばっています。いつまでも若手 O.B.のつもりですのでよろしくお願いします。

村田 信一（大 50 経）
母親の介護も落ち着いてきました。スキーや旅行をする余裕が出来て、７月に東北へ。吾妻山・磐梯山・飯豊山などをながめると血が騒ぎます。諸先輩の山行報告は、いつも楽しみです。ご盛況お祈りします。

カナディアンロッキー合宿を幅広い人脈で応援して頂いた香月名誉会長。入部間もなく「ジナンボー」に挨拶に伺った私を見て、緊急に笠ケ岳 5 月合宿に参加出来る様に指示して下さった横山先輩。30 年経ってもご恩は忘れません。有難うございました。安らかにお眠り下さい。

早川 榮二（大 50 経）
御無沙汰しております。いつも欠席で申し訳ありません。遠くからですが、香月会長・横山先輩の霊に黙祷をささげたいと思います。

高橋 けい子（大 50 文）
私たち女子部員をいつも微笑んでいつも見守って下さっていた、香月さん、横山さんありがとうございました。ご冥福をお祈り致しております。ロックガーデンまでは無理でも、せめて高座の滝まで見送らせて頂きます。ポチと・・・。感謝の気持ちでいっぱ

いです。

松下 哲夫（大 52 理）

７月に足を骨折し、この夏はどこにも行かずに、治療に専念しております。

月に 1～2 回中山山頂まで散歩をし足を維持しております。

大森 雅宏（大 53 文）

この1年で体重 6 キロほど減。身が軽くなりました。ただし皮下脂肪の減少で、寒さはこたえます。会計山本君のお供について行く山スキーは、登りは少し楽になった感じですが、下りはやはり七転びで修行の世界です。季節は夏に飛びますが、ここ 2･3 年続いている中高年の沢登り、今年はどこになりますでしょう。事情で泳ぎを避けていましたが、「カナヅチにはこれが一番」と某先輩のお奨めで、昨年の秋ライフジャケットを用意しました。滝壷が楽しみです。

川野 幸彦（大 56 理）

元気でやっています。今年からは高崎(群馬県)へ単身です。この年令での単身は厳しいです。先月同期の山本・今井とこの高崎で飲みました。楽しかったです。同期の三人が揃うのは四年ぶりくらいです。最近、山岳部のホームページで大先輩方の活躍が目に付きます。私も、参加したいので、山行には誘ってください。

いつも、雪見会・花見など声を掛けていただきありがとうございます。ただ、この半年程持病の「痛風」が頻発しまして、体調は今ひとつです。皆さんもくれぐれもお体には気をつけて下さい。今年も総会には行けそうにもありません。皆様によろしくお伝えください。

今井 啓介（大 56 経）

私の高校の母校、六甲高校山岳部の顧問をされていた阪上 秀太郎先生が先日亡くなりました。先生は早稲田大学山岳部 OB で、パタゴニア南氷床横断などの山行歴を有され、我々後輩部員に大きな影響を残されました。本年は、先生の追悼行事のお手伝いをしてゆく予定です

八木 健（大 58 年経）

毎回案内を頂きありがとうございます。山にいけない日々が続きストレスが溜まっている上に、掲示板で皆様のご活躍を見せられ増々ストレスが溜まり、溢れそうです。参加させて頂いた時はお手柔らかにお願いいたします。盛会を祈念しております。

毎回ご案内ありがとうございます。総会には参加できませんが、慰霊祭には出席したいと思っております。皆様によろしくお伝えください。

西名 俊英（大 61 理）

いつも連絡ありがとうございます。横浜に転勤して早や一年余り。今年は早池峰・秋田駒ケ岳・戸隠山へと山歩きに行っております。

吉川 寛（大 H5 経）

ご無沙汰しております。当日研修が有りますので欠席させて頂きます。先日、何年振りかで雪彦山に登ってきました。山ヒルにやられましたが何とも言えず良い気分でした。

色々御世話頂き感謝致します。残念乍ら今回出席できません。

木下 雅博（大 H5 経）

転居しました。

阿部 康彦（大 H6 法）

女の子が生まれ外出もままならない日々です。

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春**「総会出欠」**に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、14 年秋は明朝、**15 年春はゴック**で区別しています。

松成 健（大 H8 文）

引越ししました。新住所は下記のとおりです。

P.S 長女が産まれました。

大野 彰夫(大 H9 経)

いつも御連絡戴き有難うございます。昨年夏、剣岳本峰を目指しましたが、大雨のため敗退しました。導引(気功)・合気柔術にも励んでおります。

松井 修平（大 H9 法）

ご無沙汰しております。現在、大阪で働いております。最近仕事が忙しく、山を登っておりません。時間に余裕が出来れば山に行きたいです。

橋田 豊彦（大 H12 経）

失礼しております。いまだ学生しております。今回は勝手ながら欠席させて頂きます。申し訳ございません。

平成 14 年秋「木曽福島集会出欠」と平成 15 年春**「総会出欠」**に併せてお知らせいただいた近況です。文字のスタイル、**14 年秋は明朝、15 年春はゴック**で区別しています。

故小林大二郎氏（旧 17 理）奥様からのおたより

10 月 13 日おりからの連休晴天の日、私のたっての希望で芦屋ロックガーデンレリーフまで広田夫妻(*)の案内で参りました。

思ったよりけわしい道でしたが、広田の下見の効あり、無事到着できた時はほんとうに嬉しうございました。今回は特に小川守正様から故人の危険な遭難救出の時の詳報などもいただき、小林の兄(**)もあらためて山岳部の連帯のすばらしさに感激しております。

レリーフは思ったよりも小型でしたがあの岩場に打ちつけられた御苦労、又横の岩場（きっとあそこで岩登りをやっていたんだ）を見上げ夫の青春の血潮のたぎりを想いました。見晴らしもよく格好のハイキングをたのしんだ日でした。

小林　匡

(*)　妹様 広田昌子様（大 34 文卒）ご夫妻

(**)　小林林之助様（旧 16 文）

お兄様の林之助様からも、

「思い出多いロックガーデンの慰霊碑に名前が入り感慨を新たにしています。皆さんで部歌を歌って頂き弟もどんなに喜んでいることでしょう 」

とご丁重なお便りを頂きました。　（編集）

敬称略・掲載順不同

― 香月さんを偲ぶ会 ―

２月２６日にご逝去されました香月慶太名誉会長を偲び、４月１９日山岳会総会に引き続いて追悼の会「香月さんを偲ぶ会」がご子息 香月祥太郎様をお迎えして催されました。

司会は大関会員、武田会長の挨拶に始まり、皆様の思い出話をお聞きして香月さんの在りし日を偲びました。

武田雄三会長

高いところから失礼します。思い起こしましたら、香月名誉会長、享年９４歳と承っておりますが、最後の最後まで山岳部の生みの親育ての親として、香月さんがおられるだけでみんなが安心をする、また香月さんご自身も細かいことには口をおだしにならずに出処進退に関しましても非常に明快に処しておられた記憶がございます。

いずれにしましても、一つの時代の流れを、ご自分で種蒔きをし、最後の最後まで見て来られたと、私が総会の席上で申し上げましたように、大学の山岳部は実質のアクティブ部員はゼロになったと、まだ高校は途絶えてはおりませんけれども、そういうのを見届けられてからお逝きになったのかなと、思います。

震災の後体調を崩されましてからは、私共鷲尾先輩に非常にご無理をお願いし、いろいろと香月さんとのコンタクトを取っていただきました。ここで改めて感謝申し上げます。有難うございました。

それからご葬儀にあたりまして今日ご出席いただいております香月さんのご子息香月祥太郎さん、後程ご挨拶いただきますが、から、甲南山岳部のゆかりの品をということで、山岳部７５周年の記念号を、これも鷲尾さんにお願いして柩の中に入れさせていただきました。それからご出棺の際にわれわれの部歌である「山の歌」を参列しておりました会員の皆さんで唱和させていただいて、お見送りを致しました。今夕、このようなことは不慣れなことでございます。山仲間の縁のつながりを大変大事にされ、形式張ったことについてお好みにならないであろうと言うことで、行き届かない点はご容赦をお願いしたいと思います。

それでは香月祥太郎さんよろしくお願い致します。

香月祥太郎氏

ただいまご紹介にあずかりました香月祥太郎でございます。今日は父を偲ぶ会ということで、大変大勢の方々にお集まりいただいた中に、私もご招待いただきまして誠に有難うございます。非常に高い席でございますが一言お礼を申し述べたいと思います。

父は本当に皆さんに愛されて逝ってしまったのですが、生まれは明治４３年９月２０日でございまして満でいいますとちょうど９２歳と半年、数えで９４歳でしたが、その間、ふだんの日々は恐らく９０パーセント以上が甲南と甲南山岳会のこと、あるいは山と共に人生を送って来たのではないかと思っております。

私自身はやはり甲南中学から高等学校、甲南大学を卒業しまして、昭和４０年に卒業したのでございますが、大変残念なことに身体が弱かったものですから父の後を継ぐことができず山岳部に入部することができなかった、これは何と言っても本当に残念なことでありました。ただ、父の思いというのは、小さいときから少しでも私に体力をつけるようにと考えてくれましてよく六甲山に連れて行ってくれました。そこでは、とくに中学のころには甲南のことや山のことなどいろんな話を聞かせてくれまして、ひとつづつ話をすると時間がありませんけれども、大自然の中で甲南の山の精神といいますか、平生精神の中での甲南の山行の精神というのを、心に深くたたき込まれた記憶がございます。

いま、武田会長からご紹介がありましたように、父が、多分旧制の中学に入って間もない頃に１、２年先輩だったでしょうか、伊藤　愿さんがいらっしゃって、それで二人で旅行部というのを作ったと申しておりましたが、はじめは単なる歩くだけの話だったと聞いております。それが皆さんの賛同を得て、段々山に行くようになって、南アルプスとか、もっと高い山に行くことになった。これは父のリーダーシップではなくてむしろ伊藤　愿さんのすばらしいリーダーシップのお陰であったのではないかと思っております。

ちょうど昭和２５、６年のころだったと思いますが、伊藤　愿さんが夙川の父のところに来てくださり、マッターホルンにいらっしゃった時のスライドを、非常にきれいなカラーのスライドをお持ちになりまして、それを映してつぶさに説明をしていただいたことがございました。私ども家族みんなで拝見し、これは素晴らしいな！ヨーロッパの山というのはこんなに雄大で美しいのか！という印象が、今でも非常に鮮明に頭に残っております。

その後、伊藤さんはお体をこわされて残念ながら他界されたということでございますが、そういう優れた諸先輩のもとで父も一緒に一生懸命やらせていただいたということが今につながっているのではないかと思います。

随分父からはいろんな先輩の話を伺いました。私自身も今では名前がそれほど記憶にありませんが、例えば西村格さんとか田口二郎さん、山口さんなど、そういう方のお名前はよく聞いております。これが小学校時代のことなのか中学、高校の時代なのかその辺が全然わからないんですが、甲南というといろんな方々のお名前が出てまいりました。最近では震災前にいろいろと話をしたことがありまして、そのときは、今もお話しいただきましたけれど、次期会長をどうするんだとか、そのほかいろんなことについて随分皆さんにご相談したというような話も聞いております。その中で鷲尾さんのお話も随分伺いました。毎年の乗鞍の鈴蘭小屋の山行きはとても楽しみにしておりまして、晩年は鷲尾さんや皆さんに助けていただきながら連れて行っていただいたこと、そして仲間の方々と山の歌を歌ったことを大層よろこんでおりました。また数年前、父のことを配慮して夙川公民館で山岳会を開いていただいたときのことを時折想いだしては嬉しそうに話しておりました。

武田会長のお話にもありましたが、亡くなるまで鷲尾さんには毎月のように訪ねてきていただいて、山岳部の近況などをお伝えくださり本当に親切にお声をかけていただきました。身体が弱り始めてからは体が傾いて下を向いて何も分からない様子なのに、鷲尾さんがお越しになると、そのときだけは目をうっすら開けて嬉しそうに挨拶をしておりました。声が出にくくなってからは目で挨拶をするだけでしたが、ほんとに昔お世話になって一緒に過ごした仲間の方々とは随分心が通じて楽しい想いをしてくれたのではないかと有難く思います。

鷲尾さんほんとうに有難うございました。

そういうことで父も他界しましたけれど、甲南山岳会がたとえ現役部員がいま途絶えたとしても、山岳会がある限りいつかはまた現役部員が入部して新しい、今度は本当に新生山岳部ができるかも知れません。そういうときには私どもも側面的に何らかのご支援をさせていただきたいと思っております。

本日は父のためにこれだけの盛大な偲ぶ会を開いていただきましたことを重ねてお礼申し上げます。実は私どものほうから、生前父がお世話になりました皆様方にお礼の会を開かせていただきたいと鷲尾さんにご相談申し上げたのですが、この偲ぶ会があることをおっしゃっていただいたものですから、何かそれに代わるものと思い、ほんの僅かですが故人に代わりましてお志を持って参りました。大変僭越だとは思いますが、どうぞ山岳会のほうでお役に立てていただければと思います。わずかでございますがお受取りいただければ幸いです。

これからも甲南山岳会の皆様のご活躍とご

発展を心よりお祈り申し上げまして私からのお礼のご挨拶とさせていただきます。本日は有難うございました。

奥山正雄会員

香月さんの会でございますけれど唯今ご令息の祥太郎さんから非常に弁舌爽やかなお話しを伺いまして、お父上そっくりだなあと、大変懐かしく思った次第でございます。

香月さんは甲南山岳会の創設者であり、その発展に貢献された偉大な先輩だと日頃尊敬しておりましたが、なぜか具体的な香月さんとの思い出が浮んで来ないので、同じ時期に在学した事がないのではないかとの疑問が浮び、学校の名簿を調べてみましたら、殆んどすれ違っている事が解りました。

私、香月さんと甲南小学校では、８年後輩でございまして、私が１３回で香月さんが５回。で、高等学校の名簿を見ますと私が１２回の卒業生で香月さんが確か５回の卒業生で７年違うので、おかしいなと思って、甲南のことなら何でも知っている小川さんにこの間聞きましたら、香月さんはえらい秀才で小学校５年生から高等学校の尋常科に入られたということでありますけれども、どういう加減か知らないけれども、その後ご病気かなんかだろうと思うんですけれども１年落第されたというようなことで、あ、それで計算が合うなと思った訳でございます。香月さんにつきましては私そんなことで同じ山岳部におりながら香月さんとは一緒にザイルにつながったこともございませんし、一緒に山やスキーに行った覚えもあまりないのですけれども、六甲とかあるいはシノキヤマ等のキャンプなんかでは香月さんは卒業後も良く参加され、先程ご令息が話しされたような、極めて流暢なご挨拶をいつも承っておったようなことを非常に強く印象にもっておる訳でございます。

個人的にはあまり香月さんのことについては存じ上げておりませんのでこの程度に致しまして、旧制の他の方にバトンタッチをしたいと思います。どうも失礼致しました。

國府雄次郎会員

私も旧制１２回で、ただし奥山さんと異なり、理科でございます。奥山さんが言われたように、甲南高校、あのころは尋常科ですが、高校に入りましたとき、香月さんは最高年であられた、と思います。ですから山に連れて行かれて絞られた覚えはあんまりないんです。

けれども大体甲南山岳部という所は、その当時の学校山岳部では珍しく、後輩を絞るということをしなかった。多くの大学山岳部では、後輩のルックサックに煉瓦を入れて、絞ったというような事を聞いた事がある。そういうことは甲南山岳部では全然無いと言う、それが特徴でございまして、これは、結局香月先輩のご薫陶によるもので、そのお人柄の顕れだろうと思います。そういう伝統を繋いで来ておる訳で、そしてまた、我々の頃はそういう風にしながら、遭難は全然しなかった。それでいながら学校山岳部で名を成したのは、結局は、芦屋のロックガーデンで岩登りを鍛えて、アルプスで、荒らくれ山男を尻目に、小供みたいな中高生がスイスイ岩登りして、山案内人等をびっくりさせた、そういう伝統があろうかと思います。これらはすべて香月先輩の方針でそういうことになったものです。

私はお陰で甲南山岳部で大いに人生を磨かれました。それは皆さんも同じだろうと思いますが、これ等はみな香月先輩のご薫陶の結果であることを、も一度、強調して、香月先輩を偲ぶ挨拶と致します。

鷲尾 顕 元会長

旧制１５回の鷲尾です。香月さんを最後に見舞ったのは２月の１０日だったと思いますが、もう既に酸素吸入をされていましたが、病篤いなか、その中でも、有り難う有り難うと握手されたのがいまだに記憶に強く残っております。

１９２５年に山岳部ができて７８年、山岳会が１９３０年にできて７３年間、後輩の指導育成、山岳会会員の親睦相互に献身的にご尽力されて、特に、山岳会の会合に出席されることが生甲斐のように思っておられました。したがって、鈴蘭の秋の集会は非常に楽しみにしておられ、確か４年ほど前までは、乗鞍の集会にも参加されておりました。

香月さんとして思い出のあるのは、１９５２年に芦屋のロックガーデンのブラックに据付けられた追悼レリーフに、山岳会の６０周年の記念事業として１９９２年、物故者の慰霊の氏

名銘板を作り、そのレリーフに埋め込む慰霊祭が行われました。ところが既に香月さんは足の衰えでこれに参加ができず、銘板の入った追悼レリーフに訪れることを強い思い入れをもっておられまして、９３年の７月に、村上君大森君それに現役諸君の協力を得て、お多福山山麓の芦屋カントリークラブの近辺まで車で行き、あとは転倒防止のため、アンザイレンをしてブラックへ２時間ほどかかって現地へ到着、香月さんもかねて気掛かりにしておった心のしこりが取れたと非常に晴れ晴れしい表情をされたのが未だにまぶたに残っております。この写真がその時の写真ですね。霧雨の降る雨の日だったんですね、確か。

それと、ちょっと長くなりますが、山の話は別にして、香月さんを語るには、旧制高校寮歌祭を、あるいは甲南時代を紋付き黒い袴姿で応援団長として活躍された話を抜くことができないと思います。しかも、昭和４２年１９６７年に旧制甲南高校歌曲集と言うのを香月さんが編集・発行人として刊行され、旧制１６回芝川君、２１回徳末君、旧制２４回小林君の共同編集で、刊行され昨年復刻版も出ました。その旧制歌曲集の巻頭言に香月さんは次のように述べられています。

「甲南時代の懐かしい歌は無二の若返り剤である。また涸れることない活力の源である」

万年青年香月さんの面目躍如たるものがあると思います。

１９９５年に震災のために夙川の自宅が倒壊され、一時大阪の十三に仮住まいをされておりましたが、９９年に脳梗塞に倒れられ、その後不運にも、奥様の加寿子様が亡くなられ、ちょうど３年まえの２０００年に甲南山岳会の総会には、当時の牧野会長の配慮で夙川の公民館で催され、車椅子で参加されたのは皆さんの記憶に新たなことだと思います。その後、甲子園のシルバーコーストで療養に努められ、体調を崩され西宮の笹生病院で２月の２６日に天寿を全うされた訳です。先程も武田会長が言われましたように、涙雨の降る３月１日、山岳会よりは武田会長以下多数参列して、出棺に際しては山岳会参列者一同、山の歌「黎明の御空」を合唱して最後の別れを惜しみました。

山岳会の生みの親、私にとっては７０年来の先輩の香月さんを失った悲しみはあまりにも大きく、十分意を尽くすことができませんが、在りし日のあの香月さんを偲び心からご冥福を祈ります。

小川守正会員

旧制１７回理科卒の小川でございます。私も香月大先輩とはだいぶん年齢が離れておりますので、一緒に山登りということはほとんどございませんでした。まあ乗鞍集会くらいでしたが香月さんとはいろいろ深い山岳会を通じても、お付き合いというと失礼ですが、薫陶をいただきました。その間深く感じたことは、香月さんは山岳部の後輩を我が子のごとく、また、

我が孫のごとく、愛しておられたということですね。

ある時、『わしはいつも山のシーズンで現役が山へ行くと、帰って来るまで、心から無事を、毎日祈っとるんや』という話をされたことがあります。まあ普通そういうことを言ったらちょっと何でしょうが、香月さんの口から出ると、本当に自分の子供か孫のことを心配している実感が伝わって来ますね。それからまた山だけではなしに、よく『山岳部の奴は、学校から不当に扱われとる。残念や』と言うておられました。それから、昔学校では教練というのがあって、年に１回この近畿の中学以上大学までの学生が全部集まって、連合大演習というのがありました。甲南全員で大隊を編成し、高等学校３年のが大隊長、その下に、４つ中隊があってそれぞれの中隊は３個小隊。香月さんは、『山岳部の奴は優秀やのに大隊長はおろか中隊長にも小隊長にもしよらん』と憤懣の声をもらしておられたのを覚えています。

それで、私が理事長になりました時に、香月さんから早速電話がかかって来まして、『君、大変な仕事や。体に気をつけてくれよ』と励ましの言葉を戴きました。当時、甲南大学は労働組合が激しいのと、赤字でして、労働組合は特に、革マル派とか中核派とかいうのが組合を握っておりましたので、大変なことだということを、香月さんはご存じだったのでしょう。私は『山岳会から甲南学園に理事長として出向致します』と言いましたら、『君が理事長になったので山岳部の名誉が挽回された』と大変喜ばれました。香月さんは白亜城事件以来、山岳部の後輩達が、学校当局から不当に扱われていると、ずっと悩んでおられたようです。親心ですね。と言うことで、私は８年間理事長を努めたのですが、香月さんから理事長として甲南学園に出向を命ぜられたとこういうふうに思って努めて参りました。

私は、香月さんを見てると、本当に人間の力というのはすばらしいものだ、偉大なものだと思います。香月さんが８０年前に、まだ紅顔のたぶん美少年だったと思いますが、旅行部を作ってそれから山岳部を作り、また山岳会を作り、それから８０年、今日まで続いて、こうして毎年、沢山の会員が集まり楽しい会合が開かれております。こんな部はちょっと甲南長い歴史でも無いんですね。たいてい大学と旧制高校とは別れてしまったり、あるいは卒業生と現役が遊離したりしています。私は理事長の時にしばしば来賓として招かれて、運動部のＯＢ会に行ったんですが、山岳会とは全然雰囲気がいますね。

一人の少年が作った会が、このように８０年間続いて、そして今、ここへ出席している８０

歳越えた人も２０台の人も、ほんとに友人として付き合えるのは、ほんとうにすばらしいことですね。それを作った香月さんとそれを受け継いで発展させた会員の皆様方に心から感謝申し上げる次第でございます。どうも有り難うございました。

佐野源一会員

私が尋常科１年生の時に香月さん、香月さんなんて言うとなんかよその人みたいな気がしますのでケタさんと呼ばして貰いますが、ケタさんは高等科２年でした。ですから僕と５年違うわけですが、甲南では上級生でもあだ名で呼ぶのが普通になっていて、尋常科１年でもケタケタ等と呼んでいました。僕は尋常科のときはラグビーをやっていまして、山へは２年上のやっさん（安井氏）やあなこ（水野氏）と一緒に奥池にキャンプに行ったり、ぼんち（関君）、僕と同級生ですが、彼に連れられてロックガーデンに行ったりしていたので、ラグビーをやっているときにも多少山岳部に関係があった訳です。

実際に山岳部に入ったのは、高等科１年の時です。そしてその年はダブリまして、もう一回高等科１年をやりまして、翌年の３月クビになって、早稲田へ行った訳です。今そう言うと逆と違うか、と言われた事もありましたが、当時はそんな状態だったのです。

従って甲南時代ケタさんと一緒に山に行った記憶はないのです。ただ何時だったか神鍋の北壁を２本のストックを一つにして滑っていた姿が印象に残っています。

当時山岳部の殆どの連中はラグビーとか野球とかいうのには興味を示さないで、浪高戦の野球や姫高戦のラグビーなんていうと応援に行く人はおそらく山岳部ではいなかったのではないかと思うんです。それを格さん、西村格也さんて言いますが、香月さんより１年上の人ですが、その人なんかとケタさんは率先して応援に行っていたような気がします。それに山嶽寮にも書いておられますがどっちかと言うと自称右翼でした。

僕はいわゆる白亜城事件で山岳部に多大の迷惑をかけた中の一人ですけれども、有象無象の方で読書会に出たり僅かな金をカンパしたりした程度ですが、矢張り豚箱にぶちこまれまして、１週間、いや３週間ほどクサイ飯を食べさされました。それでケタさんや伊藤憲さんには大変ご迷惑をおかけしました。

ソ連に１１年間抑留されまして帰って来ましてすぐ訪ねていったのはケタさんの所です。

それと竹中統一君のお父さんで竹中工務店の社長と３人でお茶を飲んで話をした時ケタさんが僕の顔を見て、１１年もソ連にいたにしてはあまり変わらんなあと言われました。実際は相当へばってたんですけれど。でも１１年ぶりに復員して早速訪ねたと言う事はケタさんの人柄が偲ばれるのではないでしょうか。以上のような事しか思い出せません。どうもお粗末でした。

何十年も前の事ですので記憶違いや忘れてしまった事も多いと思います。お許しください。

越田和男会員

昭和３６年に理学部を卒業致しました越田和男でございます。

ここでものを言わされるのは、約束違反でございまして、今朝東京から司会の大関と一緒に車で参りましたんですけれども、道中、今日は旧制の方々のお話しを聞くだけにしとこうなあといっておったので安心しておりましたのに、急遽何かしゃべれと言うことでございます。

いま佐野さんのお話、ラグビーと山という話でございましたけれど、私ども以前の甲南の山岳部で二つの伝統がございますが、ラグビーと山岳部を兼ねる方が結構多かったのがそのひとつです。香月さんはラグビーの選手としても立派な方で、大変強烈なタックルをされておったというお話しをラグビーのほうからお聞きしたことがございます。その伝統を正しく引き継ぎまして、私は甲南時代はラグビーと山岳部でしたので、香月さんの流れを汲んで楽しんだ部類でございます。（注：山岳部の部歌の作詞者故伊藤愿先輩はラグビー部歌の作詞者でした。ラグビー部の名簿から山の先輩を拾いますと吉松二郎、伊藤愿、西村格也、壇淳、伊藤太一郎、川本信彦、福井実、国府三郎、岡橋節三、福井亨、伊藤五介、川崎厚二、鳥居威男、山下憲一、竹原祐爾の諸氏のお名前あり）

もう一つの流れは香月さんとは正反対でございます。これも先程の佐野さんのお話にありましたように、山岳部に入ったら赤くなるということで、左翼思想と山登りと言うのはどういう加減か知りませんが、香月さんとは正反対の伝統を守り続けて、その最後の花となったのが、ここにおる平井(吉夫)でございまして・・。たまたま平井と私は高等学校の同級でして、私と彼が歩いておりますと、「赤と黒」とよく言われたものでございます。（注：昭和９年に高校山岳部の主要メンバーが治安維持法違反の疑いで一斉検挙された白亜城事件に端を発する）

ちょっと香月さんの話とずれてしまったの

ですが、やはり昭和２０年代に甲南山岳会、もう終戦後のあんな時代に、自分の父親の世代の方と趣味の話をさせていただくということでものすごく有り難いなあと思った記憶がございます。はるか雲の上のかたでございましたけれど、だんだん私どもがいろいろ迷惑をかけながら接近させていただく過程で、こっぴどく叱られた思い出がございます。

若気の至りでヒマラヤ云々の話をしておりましたときに、今、急に思い出したんですけれども、そこにおる廣瀬(健三)が、とにかく僕カトマンズまで行ってくる、と言って飛び出したときに、外貨が足らんと。それでまあ当時闇ドルで４００円位しておったのですが、私どもは簡単に、いや香港に行って闇ドルを買うからいいんだ、という話を香月さんの前で致しまして、こっぴどく叱られて、当時第一線の商社マンで活躍しておられた訳でございますけれども、君ら僕らがそんなことで日々どんだけ苦労しておるのかわからんのかと、譬え闇ドル買うにしてもそんなことおっきな声で言うな、というてこっぴどく叱られました。

今、急に指名されましたので、取り留めのないことばかり思い出しておりますが、まあそんなことで、父親の世代と趣味の話をさせていただく、ということが もうかれこれ５０年続いてしまったんでしょうか。

大学の山岳部のともしびが消えてしまったという事と香月さんが亡くなられたということで、一つの時代の節目かなという思いを改めて致しております。

香月さん、どうも有難うございました。

平井吉夫会員

平井先生と平井幹男さんとの間におります。今大関君があれこれと言いましたが、やはり私が幸せだったのは新制甲南の山岳部に入りましたが、まさに当時の山岳部は旧制の匂いがぷんぷんしていたことで、雰囲気だけでなく人間もそうでした。

私が本当にこれは旧制と新制の接点にいるんだと、今考えると思うのは、香月さん発案のブラック岩の追憶レリーフ、あれを田邊ガチャさんと二人で取り付けに行った記憶があるんです。それは中学１年生のときだったと思いますが、バケツをかついでセメントをかついで。ブラックというのは、セメントで塗るにしても、水がないところです。下の谷までいかなけりゃ水が取れなくて、沢まで下りて、バケツで水を汲んで来てはガチャがセメントを捏ねて、水が

なくなると、おいセンキチ取ってこいと。

この貴重な思い出は新制と旧制の狭間の象徴みたいな思いがして、一生私の特権として死ぬまでもって行きたいと思います。有難うございます。

小原耕治会員

香月さんとは離れ過ぎていて直接お目にかかってお話しをするということはほとんど無かったですが、いつ頃だったか、だれかと、卒業して社会人になってから一度夙川のお宅へお邪魔したことがあります。

当時は物産におられたと思うのですが、『僕は神戸のこの六甲が好きで、三井物産というのは転勤はしょっちゅうあるんだけれど、この神戸の地から離れるのがいやで、全部断ったんや』というお話しを聞いたことがございます。それ以外は香月さんにまつわる思い出というのは山嶽寮、いつもあの炉辺譚というので文章を読ませていただいたのですが、非常に本当にいつまでも若いロマンチストやなあ、と思ってあの名文を繰り返し読ませていただいておったということがいまだに心に残っております。香月さんの思い出というのはそういうことぐらいしかございません。ご冥福を御祈りする次第です。

平井一正名誉会員

香月さんは甲南高校から神戸商大（神戸大学の前身）に進まれ、そこでも山岳部に入られました。その関係で、香月さんは神戸大学山岳会の大先輩でもあります。

私は香月さんを名前だけしか知らなかったのですが、甲南大学に来てから初めて、香月さんと親しく話をさせていただきました。最後にお話しさせていただいたのは、確か、夙川の公民館での甲南山岳会の総会のときで、香月さんが車椅子で来られたときだったと思います。

香月さんが神戸商大に進学されたときは、それまでの神戸高商が大学に昇格した直後であったと思います（昭和４年に昇格）。甲南高校で人格形成など多感な時を過ごしてこられた

香月さんにとって、神戸商大山岳部は物足らなかったのではないかと思います。山岳部も活発ではありませんでした。登山活動も甲南を中心にされておられたのではないでしょうか。

戦後神戸大学は、神戸商大を中心にして、姫路高校、御影師範、神戸工専などの学校を統合して総合大学になりました。いわゆるたこ足大学でした。このとき山岳部にとっての大きな問題は、それぞれの学校が持っていた山岳部を如何に統一するかということでありました。昭和２８年にマナスルから帰ってきた高木正孝先生がその運動の中心でしたが、実はそのときに神戸商大側のまとめ役として香月さんが非常に努力され、統合に大きく貢献されたと聞いております。香月さんのおかげで、今日の神戸大学山岳部があるということに思いを馳せるとき、香月さんにはその基礎を築かれた功労者のお一人として、深く感謝申し上げる次第であります。

香月さんのこういう一面をご紹介して、香月さんを偲びたいと思います。有難うございました。

宮本　侑　会員

新制大学３２年卒業の宮本でございます。

香月名誉会長とは、私が昭和２４～５年にお会いして、いろいろご指導いただいたのが最初でございます。で、平成５年まで東京にずっと行っておりまして、平成５年に生まれ故郷の神戸に帰って参りましたときに、山岳会で香月名誉会長に、ご挨拶申し上げたら、おお、君大きくなったね、といわれましたのが非常に印象に残っております。

私、甲南高等学校尋常科に入りましたのが、昭和２２年でございます。そのころは戦後すぐのころで学制改革の事がございましたので、２５年ころ、高校１年のころには先輩が全部いなくなった訳でございます。旧制の高校２年から新制の大学に編入とかなんとかで、先輩という方が全然おられなくなったとき、そのときの山岳会だとかなんかは現役がすべて段取りしておりましたので、香月さんのところへしょっちゅう伺ってご指導いただいておりました。

私にとって香月名誉会長は、甲南の幼稚園、小学校、尋常科、高等科、合わせましてずっと先輩としていろんなところで交流がございまして、甲南小学校の同窓会で香月名誉会長が最長老となられたときの、乾杯という声が、山岳会での乾杯の声と同じように、非常に通る声でやっていただいたということを覚えております。私、小学校の同窓会に頼まれまして、１回生から７０回生までの写真をＣＤに全部収録している訳でございますが、そのなかで、香月先輩の写真を作りましたもので、鷲尾前会長に、

この写真を香月さんにお渡ししたいとお願いした訳でございます。なぜそんなことをしたかと申しますと、乗鞍集会に最後にご出席になられたおりに、松本の旧制高等学校記念館での資料展示がございました。甲南も東京の福田先輩はじめ皆様のご尽力で、山岳部の展示コーナーもございました。これはぜひ香月名誉会長にお目にかけておきたいと思い、鷲尾さんにもご無理をお願いして、乗鞍の集会に併せて香月名誉会長をご案内したことがございます。その中で、香月名誉会長が、卒業写真を大変懐かしそうにしておられたことがございました。そのご様子を見たもので、古い写真がお好きなんだなと言うことで、お目にかけた次第です。

どちらにしましても、いわゆる甲南ということを大変愛された大先輩でございますので、この甲南精神と言うものは今後我々も大事にして行きたいと考えております。急にしゃしゃり出てつまらないお話しを致しましたけれども、私が香月大先輩に感じております気持ちでございます。

（当日の録音を元に一部加筆されたものをご紹介いたしました。　編集）

乗鞍集会で香月さんを囲む

— 追悼 —

横山 洋 君を偲ぶ

鈴木　功　(昭４１法)

平成１５年２月還暦を前にして、入院闘病の処、効なく逝去された横山君。つかれただろう。

昭和３７年４月、今から４１年前の桜が咲いている時、山岳部の部室をのぞくと、塩崎、横山、八島、井上、河野と私の６名の新人、４回生には、飯田、二谷、岡田、森本、鵜木さんらの大先輩たち、また、リーダー会には武田、村上、福田、長谷川のリーダーたち、一年先輩には、井本先輩のほか、１２名いましたので部室の中はいつもいっぱいでした。しかし、僕ら新人、特に横山君は、あつかましく先輩等の話の輪にはいり、聞き、ダベリ、一日中部室にいたと思います。

初めての５月合宿は、武田チーフ・リーダーのもと、立山東面たんぼ平の合宿だった。大学山岳部新入部員として山のすばらしさ、正しい山行など、先輩たちに教えていただき又上級生が多かったので、僕ら一回生は大事にされました。

合宿の出発のとき、いつも、彼の母がやっている阪神百貨店の喫茶店へ、お客がいっぱいの時でも、山行の汚い姿で５・６人連れていってもらい、一番高いフルーツ・パフェ等、ご馳走になりこれから山に行く活力をいただいた。

彼は登山に対して、人一倍情熱をもち、体格も良く、体力、技術ともすぐれていて、誰よりもおしゃれな格好で合宿に参加していた。また、彼は、勉強が好きかどうかわかりませんが、縁あって、5 回生まで在学し、社会人になっても特に後輩の面倒をよくみて山行をしたと思います。

この数年間は、体調を崩し、山には行けなかったが、山への情熱は人一倍強かったと思います。

安らかなるご冥福を祈ります。

洋君との想い出

井上　徹　（昭４１営）

「大学に入ったら、山岳部に！」それが大学に進学する最大の目的でした。『何学部を受験するの？』との質問に、「サン学部」と答えていたくらいですから・・・。

試験の下見の時も、試験当日の昼休みのときにもグランドを横切って部室まで行きました。

もちろん合格発表の日にも、出かけていきました。扉こそ閉まっておりましたが、山の匂いは十分に感じとれることができ、大いに満足したものでした。

「大学の山岳部」。当時の遭難事故の中心は大学の山岳部でありましたが、それは大学の山岳部の活躍ぶりの証でもあり、世間一般の反応とは、私にとっては違いました。あとで聞いた話ですが、長男の私が「大学の山岳部」に入ることについて、父は親戚一同から非難轟々のようでした。そんな、これ以上に無いあこがれでもあり、大学進学のすべてでもありました山岳部との接触の初日が、洋介との出会いの日となったのです。その日が、何の日であったか（入学前の事務手続きのための登校日か、入学式の日だったのか）記憶が定かではありませんが、とにかく当たり前のように、その日私は一人、入部を申し出るために部室を訪れたのです。

部室の扉は開け放たれていました。全くの無人でした。大きなボロボロの木の机が真ん中に置かれ、両側には同じように年代を感じさせられる木製のベンチタイプの椅子が置かれてありました。両の壁には薄汚れたトレパン、シャツなどが無造作に引っ掛けてありました。部室の大きさこそ違いましたが、高校時代の山岳部の部室と大差なく、チョットガッカリしたり、安心したりしながら室内を観察していたのです。

しばらくして、いつの間に入ってきたのか、それとも前からそこにいたのか、わからなかったのですが、

「オオ、お前新入生か？！」

『ハイ、よろしくお願いいたします』

「そのうちに、皆来るのでらくにしといたらいい！」

『よろしくお願いいたします』

みたいなことをその男と一言ふたこと交わしました。その日のその後の記憶は、約４０年前の話ですからトント思い出すことはできません。

とにかく、その男が、洋介だったんです。

何でも、市立西宮高校時代からの知り合いで、どなたかお名前は存じませんが、先

輩の方と懇意で入学、即、山岳部員を約束付けられていたようで、態度がでかかったんでしょう。だからといって、私はその男、すなわち洋介に悪い印象や、感情を持つことはありませんでした。むしろ、結果的に同期の中で一番波長が合い、部を離れての付き合いが長かったのはこの、憎めない洋介だったんです。

そんな、洋介（私は彼のことをこのように呼んでいました）との想い出を・・・。

１.嘉寿子さんのこと

① 1962 年（一年生）の秋山合宿（冬山合宿を控えての偵察、デポなどのための山行）だったと思いますが、雄さんと柏さんが前穂の北尾根のどの壁であったのか忘れましたが取り付くことになり、洋介と二人サポートのため同行しました。二人は３・４のコルに残り、お二人を待つことになったんです。

秋の夕暮れは早いもので、最初のうちは陽もあたり快適だったんですが時間とともに陽のあたる場所が、当然のことですが上のほうに徐々に上がっていくんです。それに伴い、寒い日陰を逃れて仕方なしに無言のまま、3 峰の上のほうに二人は逃れていくことになりました。この場を動くなと厳命されていたにもかかわらず・・・。

そのときに、二人で話していたのは彼女のことでした。初めて、洋介の彼女（嘉寿子さん）のことを聞きました。

② 翌年の春の合宿で鹿島槍東面合宿のことです。

沈殿の日のことではなかったかと思いますが、二人で雪面にいわゆる傘マークの下に彼女の名前を書いて『会いたいな～』なんて話したことを思い出します。もちろん、洋介は「かずこ」と書いていました。何でも、彼女とは高校時代からの付き合いで、成績も問題外に彼女のほうが良い女性で、神大生だと言っていました。当時、特定の彼女を持っていた部員は一期上のＴさん（この方は別格ですが）と、何故だかＳさん（別名を Dnko）くらいのもので、みな女性には目もくれない山一筋の猛者なのか、いわゆるモテナイ面々だったのか良くわかりませんが、少なかったんです。それだけに、洋介とは彼女との一時の別れの寂しさ、みたいな話をよくしました。

（卒業後、二人とも、そのときに話していた彼女と結ばれました。私なんぞは、彼女とのひと時の別れに耐え切れず、三年の春に退部するという始末でした。今や、その方は私の山の神です）

２.バイクで転倒

名神高速道路が開通して間もない頃のお話です。

神前さんが乗ってこられたバイクをお借りして、洋介が運転し二人乗りで尼崎から茨木インターまでドライブしました。（今からは到底考えられないことですが・・）

学校に向かっての最後の 90 度ターン（右折）！国道 2 号線から甲南に向かうあの交差点で、見事にレールの上でスリップし二人乗りのバイクは活劇さながらの転倒、運転していた若者はバイクにしがみついたまま路上をスリップし、後部座席の紅顔の美少年は投げ出され転がっていったのです。紅顔の美少年には幸いにも怪我はなく観衆も一安心。バイクにしがみついたまま、線路上をすべっていった若者は見事に顔制動のため全治数週間の擦過傷を負いました。

それ以来、洋介は皆様ご存知の、あの、苦みばしった、いい男の風貌になったんです。

３.選挙応援

洋介のお父さんとのお話しになります。

横山茂氏（洋介のお父上のお名前です）は、西宮市会議員を目指し立候補されました。その選挙活動をお手伝いさせていただいたときの話です。毎日、選挙カーに乗り、今と変わらない名前の連呼を続けながら市内を巡回しました。それ以来、私は車に乗って道行く人と目線が合うと手を振りたくなるんです。

そうこうしているうちに最終日になりました。明日の投票を控え、最後の戦術を選挙参謀の指示のもと決行することになり、夜陰に紛れ出発しました。今みたいな、ポスターの集合掲示板のない時代ですから、適当にあちこちにポスターを貼っておりました。それらのポスターを剥がして来て、投票所の近所に張り替えようというのがその夜の作戦です。数箇所その作業が済んだときのことです。出てきたんです。お巡りさんが。

選挙違反とのことでした。

箱の中で差し入れの弁当を食べました。隣の房で、洋介も無言で黙々と食べておりましたよ。

４.ユーハイム

洋介のお母さんとのお話しになります。

大阪・梅田の阪神デパートの 4 階（？）に洋介のお母さんが、かの有名なユーハイムブランド名の喫茶室を開いておられました。どのようないきさつでそのようなことになったのかは、定かではありませんが数ヶ月の間、ウエイターとしてお手伝いをさせていただきました。

確か、その階は婦人服の売り場中心ではなかったかと思いますが、お客様は女性の方ばかりでした。今から考えると、紅顔の美少年ゆえのことではなかったかと思われます。洋介が、卒業後、六甲道で「次男坊＝ジナンボー」を開業したのも、このユーハイムの延長線での結果ではなかったかと思います。ジナンボーで幾度か彼と話をしましたが、そのいきさつについては聞いたことはありません。

山に関する想い出よりも、里での思い出が多い私の友・洋介の話でした。

横山 洋 先輩とカレーライス

井 上 知 三 （昭 48 文）

横山さんとの出会いは、僕が高校を卒業後、昭和 44 年の春に高校の山仲間とテントを張っていた後立山連峰の八方尾根からです。

偶然我々のテントに横山先輩が「この辺りで甲南の連中に会いませんでしたか」と・・・

その時私の友人平井幹男が、横山さんに向かって「こいつ今度甲南大学へ入学するんです」と一言・・・

先輩はニコニコ笑いながら即効「めし食おう、めし食おう」と・・・

黒菱のロッジでカレーライスをご馳走になったのが甲南山岳部入部の始まりのようなものです。その時横山先輩は「4 月に部室で待ってるで・・・」と言われて勘定を払い出ていかれました。

その後、桜の満開のころ自分はなんとなく山岳部の部室を訪ねていました。入部まもない頃、横山さんが部室に来られ「おまえ何処かで見たことがあるな」と言われたので「カレーご馳走様でした」と言うとにっこりと笑ってとても満足そうでした。

1 年最初の 6 月の個人山行では、メンバーは確か雨宮さん、横山さん、南野さん、山本真博と自分と記憶していますが穂高の北尾根―吊尾根と連れていっていただきました。その時の稜線からの下りがグリーセードではなく甲南流シリセードにはとてもビックリしました。

下山後はなぜか仕事の関係だと思いますが、横山さん・山本と僕の 3 人になり中の湯温泉に宿泊させて頂きました。新人のために温泉まで気を使っていただき、なんと面倒見の良い先輩だと思いました。その時の露天風呂でビール片手にとてもご機嫌だった横山先輩のことが今でも思い出されるようです。

また、帰り松本駅前のお土産屋「みっちゃん」では横山さんが始めた甲南ノートに山の思い出を初めて書きました。その後合宿の度に書いていたように思います。

初めての個人山行でしたが合宿とは違い山岳部 1 年生の自分にとってはとても楽しい素晴らしい思い出となりました。

横山 洋 先輩ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

― ホームページに寄せられたメッセージ ―

香月名誉会長関係

香月慶太名誉会長は甲南山岳部の象徴として会員に慕われるお人柄で、横山洋会員は同世代から40才台のメンバーに広く交友をおもちでした。お二人のにご逝去の報に寄せられた皆さんからのメッセージです。

（編集の都合で一部割愛の部分があります）

訃報に接して　廣瀬健三

2003/02/27（木）13:58

香月名誉会長の訃報に接し、甲南山岳会の一時代が 幕を閉じたとの感有り、ご冥福を 祈念致します。

香月名誉会長の訃報　越田和男

2003/02/27（木）19:01

甲南山岳会の歴史そのもののような方でした。

先日も武田会長と栂池で会った時、かつて現役の合宿のたびごとに無事の下山を祈って、西宮の広田神社に参って居られたという話しをしたばかりでした。そのお姿を思い浮かべると涙を禁じ得ません。ご冥福を祈るばかりです。

どうか甲南山岳会としても出きる限りの弔慰表明をお願いいたします。

香月名誉会長の訃報に接して　柏　敏明

2003/02/27（木）23:20

甲南高校山岳部を創部され、奇しくも、大学山岳部の部員がゼロになった年に、香月名誉会長がご逝去されましたことは、何か因縁めいた感じがいたします。

総会や乗鞍集会で部歌の出だしを歌い出されるお姿を偲びつ、感謝の気持でもって、香月名誉会長のご冥福を心からお祈り申し上げます。

有難うございました。　合掌

ご冥福をお祈りいたします　福田信三

2003/02/28（金）09:50

香月名誉会長のご冥福を御祈り致します。

レリーフにお供したことがありました

大森雅宏　　2003/02/28（金）12:40

十何年か前ですが、「もう一度だけ見ておきたい」とおっしゃった香月さんのお供に呼ばれて、ロックガーデンのレリーフに行ったことがありました。その時お礼にと香月さんからいただいた額縁は、子供の写真やお習字の掲示の場となって今も我が家に飾ってあります。

ヒマラヤ登山の報告に御影の浜の須藤リプトンに伺ったことや震災のあとお見舞いに伺った十三

のマンションでのお姿など思い出しながら、どうぞお安らかにとお祈りしております。

香月名誉会長のご逝去を悼んで

武田 雄三　　2003/03/01（土）17:37

甲南山岳部・山岳会の産みの親であり、育ての親である香月慶太名誉会長のご葬儀が、本日執り行われました。

出棺に際しご遺族の快諾を得て、出席山岳会一同にて部歌（山の歌）を斉唱、お見送りをさせて戴きました。香月サン 1925 年の創部以来今日まで本当に長い間我我を見守り、育てて戴き有り難う御座いました。現役の合宿中は、毎日の様に神社にお参り戴き無事下山を祈って戴いていた事、新入部員の減少に心を痛めておられた事等々、数え上げれば限が有りません。震災後、お身体が不自由になられ、お目に掛かれる事が少なくなりましたが、平成 12 年 4 月 29 日夙川公民館での総会に御出席され、周りの仲間が座ったままでと申しあげたのを振り切り、机に手をついてお立ちになりご挨拶を戴いたのが最後となりました。当日の参加者 48 名と久し振り盛会となりましたが、此れも偏に香月サン御出席によるものでした。

先に逝ってしまった仲間と共にどうぞ安らかにお眠りください。万感の思いを胸に。 合 掌

慰霊祭のこと　居谷千春

2003/04/20（日）08:14

神戸大学山岳会事務局長の居谷です。突然の書き込みをお許しください。当会の会員でもあられた香月さん、六甲駅のジナンボーで毎日のようにお世話になった横山さんの慰霊祭の中止をホームページで知りました。５月１１日には神戸の方からも有志の参加はよろしいでしょうか。

写真のＵＰ　塩崎将美

2003/03/03（月）18:37

横山のご遺族を訪ねてきました。彼の持っていた写真を前に色々思い出を話しました。（中略）

横山の奥さん娘さんと話しをするうちに香月名誉会長の話になりました。娘さん(咲子さん)のお勤めが西宮の笹生病院、お仕事はリハビリのお手伝い。香月さんが西宮にお移りになる前、笹生病院でリハビリをなさり、その係りがなんと咲子さんだったことを知りました。咲子さんは香月さんのことを、よく山の話しをし時にはスキーの格好をしたりと大変明るくやさしいお爺さんだったと話され、名乗り会えば良かったと残念がっていました。

何と言う奇遇／不思議な縁を感じました。

横山 洋会員関係

Re: 訃報　越田和男

2003/02/11（火）21:58

横山の訃報に愕然。

学年で６年下だったけれども、彼が一時期阪急六甲で喫茶店をやっていたころ、よく訪ねて行って遅くまで話しこんだ思い出あり。

つい先日はニュージーランドのトレッキング中、同行の鵜木と彼の近況など案じあっていたところでした。ご冥福を祈る。合掌。

横山の死を悼む　田邊　潤

2003/02/12（水）15:02

元気やとばかり思っていた彼が入院していたとは知らなんだ。6 月の案内を出しても此のところ返事もこやへんと思っていたら。悲しいねぇ。

アフリカ産の毛糸の帽子を取られた５月の穴毛谷小生の結婚式の引き出物を世話してくれた彼。六甲駅の次男坊。悲しいねぇ。

ご冥福を祈る　　ガチャ

横山君のご冥福を祈ります　柏　敏明

2003/02/12（水）19:07

昨夕、塩崎君から横山君が死んだとの連絡を受け、びっくりしました。数年前に塩崎君の別荘で会ったのが、最後になってしまいました。

彼とは、厳冬期の北鎌尾根をはじめ、１年後輩

だけに、数々の山行を共にしました。経験も豊富で、当時のアクティブメンバーの一人でした。各大学の山岳部との親交も深く、卒業後も病を得なかったら、もっと、もっと、山を登っていただろうと思うと残念です。

実家が六甲にあった関係で、良く阪急六甲２階のジナンボーに寄り、山の話をしたものでした。又、一人、仲間が減り、寂しい限りです。

ご冥福をお祈りします。 合掌

横山先輩の死を悼む 國分廣昭

2003/02/13（木）10:56

横山先輩の訃報を塩崎さんから聞き、大変驚き本当に寂しく思います。現役の時はロッククライミングや、山行で厳しく鍛えられ又、卒業後は六甲のジナンボーへよく遊びに行かせてもらいました。

いろいろお世話になりありがとうございました。心からご冥福を、お祈りいたします。 合掌

横山兄の訃報に接して 廣瀬健三

2003/02/13（木）15:01

昨年、塩崎兄と彼のことを話した事有り。当時どうも此れは良くないナア と思っていましたが。髪を短く刈り込んだ彼が ダイダイ色のオオバアー ズボンを履き 雪上トレーニングのコーチをやっていた姿を覚えています。

1966 年、4・5 月の不帰東面合宿の際の八方押し出しであったと思う。雪面がやけに暑かった感触が蘇ってきます。 ご冥福を祈りたし。 合掌

横山 洋君の死を悼む 武田 雄三

2003/02/13（木）18:20

２月７日の月例集会の席にて、塩崎君より彼が入院加療中との事、差し迫った病状では無いようとの報告有ったばかり。

１１日塩崎君より横山が死んだとの電話連絡あり、驚きの為一瞬声も出ませんでした。

1962 年小生が３年の時１年生で入部、高校時代より山登りの経験有った為キスリングを背負う姿が様になっていた事を思い出します。５月の新人歓迎合宿は、立山東面タンボ平にて行いましたが、弱音も吐かず必死に頑張っていたのを思い出します。その年の１２月には前穂北尾根より前穂高頂上を踏み、翌年春山合宿では北の果て利尻岳の頂上を踏む等、期待に応えた頑張りを見せてくれました。

その後も明るい性格で仲間に愛され山岳部の中心メンバーとして活躍してくれました。卒業後も、機会あるごと現役の合宿に参加し、1972 年まで、後輩の面倒を見続けて呉れました。

その後は、突発的に起る障害との長い戦いに苦しめられながら、懸命に立ち直るべく頑張っていました。

一人の山仲間に看取られる事も無く、卒然といってしまった彼の死を悼むと共に、沢山の楽しい思い出を残して呉れて有り難う。横山 洋君のご冥福を祈ります。合 掌

Memoir Masa Taguchi 横山先輩の訃報

2003/02/14（金）04:33

昨日（2 月 12 日）村田君より eMail にて連絡ありました。わたくしのニックネーム「熊五朗」は、1972 年冬山合宿にＯＢとして参加された横山先輩より拝受。その後も色々とお世話になりました。横山洋先輩 ご逝去、心よりお悔み申し上げます。合掌 田口正廣

横山君の逝去 福田信三

2003/02/14（金）08:53

横山君の訃報に驚きました。

余り健康ではないとのことを、小耳にはさんではいましたが、まさかと言う気持ちです。山での思いでも多いですが、何故か、今は”じなんぼー“でのほうが鮮やかです。にこっと笑う顔が印象的でした。15 日には参列します。 福田

名付け親 岸田昌雄

2003/02/14（金）17:04

横山大兄に謹んでお悔やみ申し上げます。

日頃は大変ご無沙汰しております。塩崎さんより横山さんの訃報大変驚きました。現役時代剣三の窓の大変厳しい雪上訓練・六甲ロックガーデンにて田邊さんに落石をして怪我をさせ落ち込んでいた時大変励ましていただいた時等瞬時に思い出しました。ダンプ（私のあだ名）といって可愛がってもらいました。私の名付けの親でもあります。
ご冥福をお祈り致します。

横山君のご冥福を祈る　藤安賢一

2003/02/14（金）21:42

横山君の訃報に接し心から哀悼の意を奉げます。かっての勇姿を想像し今静かなる時を迎え、永遠の時を刻まれんことを願います。合掌

約40年ぶりに出会いました！ 井上　徹

2003/02/16（日）22:29

全く偶然に横山君の訃報に接しました。
親父の見舞いのために朝一番の飛行機で伊丹空港に降り立ち、午後から特にスケジュールもなかったので、学生時代から今日まで懇意にしていただいておりました、伊丹徳行先輩にお電話させていただき今回の訃報に接したしだいです。すべての計画をキャンセルし葬儀の席に出させていただきました。
鵜木先輩や雄さんをはじめ、鈴木君、塩崎君、八島君など同期に約 40 年ぶりに会うことができましたが・・・・。
あまりにもそのきっかけが、悲しすぎます。私と洋とは山の生活ではわずか2年の付き合いでしたが、山岳部を離れてからも何かにつけ付き合いをさせていただいておりました。思い出がたくさん沢山思い出されて、涙が止まりませんでした。洋君本当に本当に、残念です。

Re: 約40年ぶりに出会いました！塩崎将美

2003/02/17（月）09:46

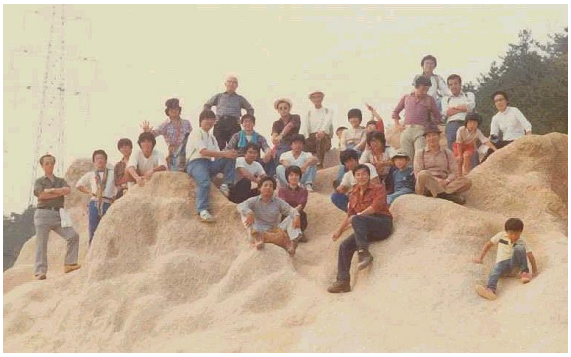
井上、卒業以来ほんまに久しぶり、君以外にも卒業以来の後輩数名にも再会しました、それにしてもなんとも悲しい場面での再会になったもので残念で残念でなりません。告別式には諸先輩始め 15 歳ぐらい若いＯＢ/ＯＧまでが大勢参列し、改めて横山の山や山岳部への長い係わりを思いました。彼の人柄が此れだけ多くの人を集めたのでしょう。

通夜の日、ご遺族にこの掲示板の事をお話したところ是非見たいとの事で横山に関する書き込みを印刷してお渡ししました。最後のお別れに花を彼の棺にお供えする時、彼の胸の上に置かれた掲示板のコピーを見ました。ご遺族が入れられたものと思います。彼は一人で旅立ちましたが皆様の暖かい気持ちや多くの思いでを胸に抱いての旅立ち、淋しく無かったのではないかと感じました。
”洋、安らかに眠ってくれ、俺は此れからも山を登り続けるよ、君と一緒に”

写真のＵＰ　塩崎将美

2003/03/03（月）18:37

横山のご遺族を訪ねてきました。彼の持っていた写真を前に色々思い出を話しました。



ロックガーデンの写真は昭和57年10月31日、山岳部創立 50 周年記念行事”家族ハイキング”の時のものと判明しました。集合写真の後ろの真中で腰に手をあてた香月さん、その右のサングラスが横山、右端が横山の奥さん嘉寿子さん、その左赤いショートパンツが横山の娘咲子さんだと思います。咲子ちゃんの左、あぐらをかいて座っているのはガチャさん？左端は越田さん？

横山の奥さん娘さんと話しをするうちに香月名

誉会長の話になりました。娘さん(咲子さん)のお勤めが西宮の笹生病院、お仕事はリハビリのお手伝い。香月さんが西宮にお移りになる前、笹生病院でリハビリをなさり、その係りがなんと咲子さんだったことを知りました。咲子さんは香月さんのことを、よく山の話しをし時にはスキーの格好をしたりと大変明るくやさしいお爺さんだったと話され、名乗り会えば良かったと残念がっていました。

何と言う奇遇／不思議な縁を感じました。

Re: 横山の写真　鵜木洋

2003/03/04（火）05:49

私と鈴木が一緒に写っているのは 41 年の春山合宿小窓尾根、早月尾根のベースになった馬場島の慰霊碑前で撮った写真です。

2 年留年した時参加した現役最後の合宿で現役最後の写真です。鵜木洋、後籐洋、井本洋、横山洋と 4 代続いた末弟を失った気持ちです。元気な頃の彼の笑顔が忘れられません。終りには何の役も力にもなれなかった自分の非力を悔いるばかりです。

登山愛好家の連絡ノート保管へ

“北アルプス山の会富山連絡所”として全国の登山愛好家たちに親しまれてきた富山市桜町二丁目のとんかつ店「たっちゃん」が二十一日、閉店する。店を訪れた登山グループが三十年にわたり書きつづった「連絡ノート」約二百六十冊は、立山町千寿ケ原の文部科学省登山研修所（坂元譲二所長）で保管されることが決まった。店主の坂本龍郎さん（６１）は「山好きの心のきずなをはぐくんだ大切なノート。引き受け手が見つかり安心した」と喜んでいる。

連絡ノートは昭和四十六年に**甲南大学山岳部ＯＢ**から「山仲間との連絡用に」と頼まれ、ＪＲ富山駅前が再開発される前の雑居ビルにあった店に置いたのが始まり。情報は全国の登山グループに口コミで広がり、北海道から沖縄まで四十七都道府県すべてにある登山グループがノートを置いた。

ノートには登山の感動や苦労のほか、実体験に基づく山岳情報、救助されたことへの感謝、先輩や後輩、同輩に送るエールなど山を愛する人々の飾らない思いがびっしりと書き込まれている。遭難した山男の遺族がノートのコピーを求めて訪れたこともある。

一緒に店を切り盛りしてきた妻の幸子さん（５６）が体調を崩して入院し、「山の人たちには申し訳ないけど店を閉めることにした」と坂本さん。昭和四十年に開店したときから「六十歳で一区切りつける」と決めていた。

年に一度書き込むことが連絡ノート保管の条件だった。店が突然なくなっては戸惑う登山愛好家もいるだろうと、保管先を探していた。今春から登山研修所に着任し、店にも通っていた坂元所長が引き取りを申し出た。

2001 年 10 月 18 日　北日本新聞

（文中、甲南大学山岳部 OB とあるのが横山さんです　編集）

― 報　告 ―

定　時　総　会

山本真博

日　　時　　平成15年4月19日（土）
場　　所　　岡本公会堂
出 席 者

平井一正	名誉会員	神戸謙司	中高顧問
佐野源一	旧11理	國府雄次郎	旧12理
奥山正雄	旧12文	鷲尾　顕	旧15文
小川守正	旧17理	平井吉夫	新高32
乾卯兵衛	新高37	小原耕治	31経
宮本　侑	32経	柳沢　正	32経
行友利安	32経	鈴木頼正	33経
雨宮宏光	33経	美田靖夫	35経
伊丹忠弘	35経	芦田匡平	35理
牧野　宏	36経	廣瀬健三	36経
越田和男	36理	大関和夫	37経
二谷和成	38経	飯田　進	38経
村上与利一	39営	武田雄三	39経
福田信三	39理	安井　正	40経
伊丹徳行	40法	井上　徹	41営
柏　敏明	41経	塩崎将美	41経
浪川純吉	42営	國分廣昭	43経
石原浩二	44理	南里章二	45理
井上知三	48文	山本真博	48理
平井幹男	50文	高橋けい子	50文
大森雅宏	53文	山本恵昭	56理
松成　健	H8文	三倉康裕	H11法
池内友宏	H14		

福田（信）会員の司会により開会
物故者への黙祷

議　事

1　武田会長より挨拶
2　14年度事業報告
　・「山　嶽　寮」
　・慰　霊　祭
　・木曽福島集会
　・大学新人募集
　・現役活動状況
　・ホームページ
3　14年度会計報告　別記
4　15年度事業計画
　・慰　霊　祭
　・山嶽寮発行
　・木曽福島集会
5　「全世界紀行」発刊挨拶　南里会員

会　計　報　告

会計　山本恵昭

平成１４年度

平成15年3月31日　単位　円

（４月２０日に予定された物故会員慰霊祭は雨天のため中止となりました。）

秋の集会　木曽福島

平成14年10月13日（日）～14日（月）

乗鞍高原から場所を変更し木曽駒文化公園施設「駒王」にて開催された秋の集会も３回目を迎えました。付近の散策を楽しんでのご参加、南木曽 柿其渓谷での沢登りを終えてのご参加、大勢の会員が集まりました。

参　加　者

米山悦朗　高29	北方 龍一　高30	平井吉夫　高32	小原耕治　31経	阿部純一　31経
柳澤　正　32経	鈴木頼正　33経	雨宮宏光　33経	田辺　潤　34経	伊丹忠弘　35経
鳥居威男　35経	牧野　宏　36経	越田和男　36理	大関和夫　37経	二谷和成　38経
村上与利一 39営	武田雄三　39経	福田信三　39理	森本全彦　39法	伊丹徳行　40法
鵜木　洋　40文	安井　正　40経	柏　敏明　41経	塩崎将美　41経	浪川純吉　42営
石原浩二　44理	井上知三　48文	山本真博　48理	大森雅宏　53文	山本恵昭　56理
川野幸彦　56理	松山弘和　61理			

― ホームページから ―

甲南山岳部ホームページは山行報告・アルバム・掲示板など、盛りだくさんな内容です
今回はその中から

会員の著作・翻訳のご紹介

越田さんのご紹介　平井吉夫会員の　「殺戮のタンゴ」他
田邊さんのご紹介　中井久夫会員の　「清 陰 星 雨」他
雨宮さんのご紹介　南里章二会員の　「全 世 界 紀 行」

掲示板書込みダイジェスト

山行とつどい

思い出してください高校生の頃

2002年度　甲南高校山岳部　年間活動報告

をご紹介します

http://homepage2.nifty.com/konan-alpin/

「殺戮のタンゴ」　平 井 吉 夫 訳

会員の翻訳出版　越田和男　　2002/10/23

山の本ではないが岳友センキチこと平井の新しい翻訳本が上梓されたので紹介しておきます。

W.フライシュハウアー著　平井吉夫訳　「殺戮のタンゴ」

早川書房　2002年10月31日発行　定価2600円＋税

著者はドイツの売れっ子歴史物ミステリー作家。カバーの一部に「ダンスの熱狂と壮大なサスペンス、男の憎悪と女の情熱、艶めく汗と流れ落つ血涙・・・。狂気と官能が脈動する、鮮烈なタンゴ・ミステリ。」とある。

平井の翻訳としては新しい分野で、２段組み 400 頁の大作。まだ読んでいないが、アルゼンチン・タンゴの歴史と社会背景などにも興味あるが、平井の得意とは思えない艶っぽいくだりの訳の出来映えが楽しみでもある。

「イエスのビデオ」　平 井 吉 夫 訳

平井吉夫訳「イエスのビデオ」　越田和男　　2003/03/07

このところ精力的にドイツのＳＦの翻訳に取り組んでいる我が岳友、平井の最新訳書です。

著者：アンドレアス・エシュバッハ　訳者：平井吉夫
題名：イエスのビデオ　Das Jesus Video　　ハヤカワ文庫　上・下　各８００円
面白そうです。まだ読んでないので帯の一部を紹介します。
「イスラエルの遺跡発掘に参加した学生が、一体の人骨と副葬品の中にビデオカメラの説明書を発見。人骨は２０００年前のものだったが、現代医学の治療跡があった。・・・・メディア王が映像を独占すべく私兵を投入し、一方バチカンの秘密部隊が現われ、発見者の学生と壮絶な三つ巴戦に！！」
ドイツの権威あるＳＦ賞受賞作です。

「 清 陰 星 雨 」　　中 井 久 夫 著

山岳会の文人　田邊　潤　　2003/03/11

コッシンから紹介されている平井吉夫訳の「イエスのビデオ」を読みはじめております。

先の日曜日に名古屋の丸善を歩いておりましたら、「中井久夫」という本棚の仕切り名札が目に入りました。もう 50 年余りもお目にかかっていませんが、山岳会の名簿にもちゃんと名の出ている元１年先輩の中井さん、あだ名は「役者」、だとすぐわかりました。現代精神医学の高名なプロフェッサーであり、甲南大学の教授をしておられることも知っておりましたが、学術以外の本を出しておられることは知りませんでした。

仕切りの中には 3 冊あって、オペラの名で知っていたアリアドネと言う題名がすぐに目についたが、何となくその隣の「清陰星雨」に手がいき中も見ず買ってしまいました。題名からエッセイであることが明らかだったからです。早速読みはじめましたが、一時せんきちの訳本を忘れてしまうぐらい引きづりこまれています。

神戸新聞に 1990 年から 3 ヶ月ごとに連載されていたエッセイをまとめられたものですが、特に巻頭「1990 年以後の世界ーはじめに」の歴史分析には、胸のつかえがおりるほどの感銘と同感を得ました。清廉、明晰な彼の文体から、我々にない頭の良さを感じます。小生の初めての夏山涸沢合宿時に、彼が誰だったかと取っ組み合いの喧嘩をはじめて、その時にドイツ語で罵声を浴びせていたのを想い出し、偉い人はやっぱり違うんだと今さらながら感心した訳です。

ともあれ、「アリアドネからの糸」¥2800、「家族の深淵」¥3000、「1995 年１月・神戸(阪神大震災下の精神科医)¥1500、「昨日のごとく」¥2000 とあるようですから、皆さん一度讀んでみてください。勿論せんきちも含めて、甲南の山岳部にもこのような文人がいるんだ、ということを誇りに思うことでしょう。　　ガチャ

南 里 章 二 著

「 全 世 界 紀 行 」

お勧めの本　雨宮　宏光　　2003/02/13

会員各位

会員、南里章二君が本を出しました。

「全世界紀行」― 民族と歴史、そして冒険　　ナカニシヤ出版　定価¥2,700

大型書店の、旅行・冒険コーナにあります。1973 年から 2002 年にかけて旅した、192 ケ国の紀行です。

シルクロード。ヒマラヤ。コンゴ、アマゾン川下り。サハラ砂漠の縦横断。アフリカ、南米大陸、駆け抜け。太平洋の島々。中東、東南アジヤ、ヨーロッパの歴史を辿る。30 年にわたる冒険・探検・登山・旅行・調査が南里君の豊富な世界史知識を交えてかかれた 460 ページの大作です。

第3種郵便物認可　　朝日新聞　月曜日

30年の世界旅行を本にまとめた南里章二さん＝芦屋市山手町の甲南高校で

集めた資料　授業に活用

30年かけ192カ国　足跡まとめ出版

甲南高の南里教諭

世界のすべての国を旅行した甲南高校教諭の南里章二さん(63)＝芦屋市翠ケ丘町＝が、30年間の体験をまとめた旅行記「全世界紀行―民族と歴史、そして冒険」を出版した。旅先で残した膨大なメモをもとに各国の歴史や最新情勢などを盛り込んで、半年余りで仕上げた。

72年に世界史の教諭になるまで、海外に出たことはなかった。イメージできないことを生徒に伝えられるだろうかと疑問に思い、翌73年から夏休みなどを利用して世界各地を巡った。外務省が国と認めているのは現在190カ国。南里さんがその地に立った国は、これに日本と北朝鮮を含めて192カ国になる。

アフリカを訪れる前は、食糧不足に苦しむ暑い大陸というステレオタイプのイメージしかなかった。しかし、食材があふれるモロッコの市場や零下10度まで冷え込むタンザニアの高地を体験して驚いた。昨年夏、独立直後の東ティモールを訪れて「30年間世界一周」を果たした。

滞在日数は延べ1800日にのぼる。厳しい気候や土壌の地ほど、人々は優しいと感じた。ノート50冊になった旅先での日記や現地の人へのインタビュー記録が手元に残った。撮りためた3万枚以上のスライドは授業で活用している。

旅行記には、山岳雑誌などに寄稿していた文章に大幅に加筆し、最近の旅を書き下ろした。外交上の駆け引きの波にもまれた国々の歴史のほか、南里さんが専門分野にしているサハラ砂漠や中央アジアの交易の様子を盛り込んだ。訪問時の政権が現在は交代していたり、国名が変わったりした国も多く、最新の情勢にも触れた。180枚の写真を載せ、460ページになった。

南里さんは「これで一つの区切りがついたが、終着点ではなく通過点。まだ行ってみたいところは山ほどある。これからです」。旧ソ連軍の進駐前の74年に訪れたアフガニスタンへの再訪を思案中だ。

A5判、2700円（税抜き）。主な書店で取り扱っている。問い合わせは出版元のナカニシヤ出版（075・751・1211）へ。

山 行 と つ ど い

掲示板の書込みからこの一年の山行と街でのつどいを拾いました。

ホームページ・掲示板は携帯電話からも閲覧できます。
ホームページ表紙 http://homepage2.nifty.com/konan-alpin/
掲 示 板 http://hpmboard2.nifty.com/cgi-bin/bbs_by_date.cgi?user_id=UGK65634

辺 境 の 旅　　４月２５日～５月１５日

雨宮　米山

ランクルで中尼公路を西に聖地カイラスを巡り“アリ”から新蔵公路を北上し崑崙山脈の峠を越えて新疆ウイグルのヤルカンド「タクラマカン砂漠の西」ーカシュガルまで、総距離約3300ｋ平均高度 4500ｍ以上の悪路の砂利道を走ります。　(4月２２日書込)

山嶽寮５７号（前号）に記事があります

立山スキー　　４月２８日

川野幸彦一家

子ども３人を連れて　室堂ー一ノ越ー御山谷ー黒４ダムに行ってきました。扇沢を朝一番(7:00発)のトロリーバスに乗ろうと早出（松本５：３０出発）したのですが、連休二日目ということもあり物凄い人で（こんな事は初めてです)、扇沢の駐車場もやっとクルマを停めれるほどでした。ただ、途中の乗り物は時間待ちもなく順調で室堂には１時間半で到着しました。

室堂（8：45）は富山からの客も合流しごった返していました。この周辺の積雪は、周りの山の地肌も目立ち、去年よりかなり少ないような気がしました。一ノ越まではよく踏まれた氷の階段を１時間ほどでした。登山靴やスキー兼用靴など重装備の登山者の中、我が家のパーティはスニーカーや長靴で、中にはアイゼンを付けている人もいてかなり場違いでした（スニーカーはビショ濡れでしたが、長靴は多少の“ムレ”だけで正解でした。天気が良ければこれで充分です)。

一ノ越でスキー靴に履き替え御山谷を滑降。この辺の積雪も去年より少なくて、去年は雄山の頂上まで真っ白でしたが今年は所々で地肌が出ていました。晴天の下、ダダッ広い谷を好き勝手に滑り４０分ほどで黒部湖水平道に到着。上部は適当にクラストしていて快適でしたが、下部は雪崩跡の斜滑降などでかなり疲れました。特にファンスキーの次男はスキーが突き刺さり苦労していました。ただ、下部の積雪は上部に比べて豊富でブッシュもひどくなく快適でした。

ここまで順調でしたが水平道は“黒４ロッジ”までが悪路の連続で苦労しました。去年は雪もなく殆ど夏道は出ていたのですが、今年は雪だらけでトレースも入り乱れている所があり、そういう所では必ず迷いました。普通１５分くらいでいけるのに１時間以上かかりました。

ロッジからダム（14：30）までは、スキー靴と板がやたらに重くてバテバテ（これは私だけでガキどもは元気一杯）で何とかたどり着きました。

（各種状況・その他）中高年と団体ツアーが目に付きました。ボーダーは、去年は沢山いましたが、今年は見掛けませんでした。我が家は、次男がファンスキー。他はゲレンデスキーでしたが、ほとんどが山スキーです。距離用スキーも二人いました。スキー技術はまさに“ピンからキリまで”ボーゲンからエアーターン・モーグル派まで色々です。空身であればボーゲンが出来れば誰でも滑れます。

(メンバー)

本人４４歳　長男高２　次男中３　三男中１

還暦登山　蒜山・大山　　５月１１～１２日

廣瀬 牧野 森本 鵜木 武田 村上 鈴木
塩崎 八島 浪川 石原 山本真 現役池内
特別参加村上女史（現池内夫人） 井本

伊丹 奥山 塩路 安井 柏敏

５月１１～１２日に、蒜山の與利一さんの別荘で、36 年入部組の還暦祝い登山を催していただきました。20 名の大部隊で素晴らしい與利一さんの別荘も満杯状態でした。

３時ごろに全員が集合、與利一さんの司会で、廣瀬さんのお祝いの挨拶、牧野さんの乾杯、井本君の答礼で宴会がスタート。ビール、ワイン、ウィスキー、日本酒、焼酎の飲み放題で一次会が盛り上がり、５時頃からは庭先で盛大なバーベキュー大会。鈴木君が仕入れてくれた鶴橋の焼肉、八島君が持ち込んでくれた日本海のイカ、サザエ、ふぐを、景気よくうまいうまいと平らげ、仕上げは奥山君特製の焼きそばで仕上げ。夜遅くまで談論風発、笑いの絶えない一夜でした。

翌１２日は６時には全員揃って朝食。掃除組み二人を残して、蒜山登山。８時３０分頃に、かたくりの花が咲く 1200mの頂上に全員が立ちました。安井君もですよ。ブラック岩以来の快挙との事です。頂上で、還暦組に赤いチャンチャンコならぬ、甲南山岳会のロゴ入りのベストを記念に頂戴し、早速、記念写真を撮っていただきました。本当に有難うございました。ただ、菅君、竹原君、神前君達と共に戴けなかったことが残念でした。

下山後は、来年 37 年入部組の還暦祝いの開催を約して、翌日大山を目指す人達とわかれて帰路につきました。素晴らしい別荘を提供していただきました與利一さん、色々とお世話頂きました塩崎君をはじめ、先輩、後輩の皆様、本当に有難うございました。改めて御礼申し上げます。

還暦記念登山に参加して　廣瀬健三

まだまだ若いと思っていた 皆さんが還暦とは３６年卒組みの小生達がオジンになる筈です。山良し酒良し歓談良し楽しい３日間でした 。昨日は 森本／塩崎兄に付き合ってもらい念願の大山登山を果たし大満足でした。境港での魚美味かった 塩崎兄、サンキュウ。ヨリイチ／シオザキハウス 夫々に特長あり良かったです 多謝！！

それにしても山本君の大山頂上からの滑降は 驚きです。 頂上から下り乍ら、よくこんなヤバイ尾根を滑降するなあなと感心しました。

還暦記念登山　余話その４　鵜木　洋

「参加したくても参加できない３名」

今年の還暦を迎えた会員は、大学入学時には 14 名という最初で最後であろう多数の入部者がありました。それ以来四十数年、皆頭に白いものが混じり、良い親爺になっています。が、その中に亡くなった３名がいます。還暦までも生きながらえることの出来なかった人たちの無念さは察するに余りあるものがあります。その３名の思い出を綴ってみました。

菅　君

彼が一年生の夏山合宿後半で、南アルプス全山縦走の時、北岳の登り口、漁俣小屋横のテントへ京都商業の生徒 14～5 名が戻ってこない、明日捜索に参加してもらえないかと教師より申し出があり、翌日ユウサンと３名で三峰川上流で元気な全員を見つけましたが、引率の教師、嬉しさと疲労で動けなくなってしまったのです。自分たち３名で稜線まで道無き道を担ぎあげました。彼の眼鏡の下に汗を流してがんばった姿がありました。夏休みも終わりごろ、校長先生より礼状が学校に届いていました。

竹原君

一年生の秋山合宿は常念越えで穂高に入ることになりました。常念乗越よりの下りで捻挫した彼をユウサン、菅と３人で横尾まで担ぎお

ろしました。翌日は徳沢までも担いだのですが、人の背に乗った彼のすまなそうな顔。小さくなっていた彼にやれ絶食せよ、トイレを済ませ軽くするように、下剤を飲ませろと冗談が飛び出す始末。可愛そうでした。

神前君

それは彼が最上級生の４年生の時、春山合宿は劔の早月尾根と小窓尾根で展開されました。バンバ島の小屋をベースにすでに下級生は上のテントに上ってしまい残ったのは彼と２人のみ。リーダー鈴木は「残った荷上げ、ヨロシクお願いします」ということで天気の良い日はＣ.１テントへ数回やりました。上級生になったら楽になるかと思っていたのに荷が重いと２人でぼやきながら、日焼けした顔で急坂を登ったのです。これが自分にとっても６年生最後の現役合宿になりました。

残った同期の人たちも彼らの分まで長生きしてがんばってほしいものです。

ヤミ米のかつぎ屋志願の鵜木

還暦おめでとうございます　塩崎将美

蒜山登山の翌日、廣瀬、森本、塩崎で大山に登りました。快晴で前日登った蒜山や弓ガ浜、島根半島までクッキリ見え快適でした。廣瀬さんは初めての大山に満足されていました。村上さんから２日も続けて登れるわけ無いやろ、何処を観光してるんやと疑いの電話が登山中に掛かって来ました。

雨ニモマケズ大日岳　　５月２日～３日

浪川　大森　山本恵

この連休、浪川さん・大森さん・山本で大日岳に行ってきました。

５月２日夜神戸発、３日馬場島２㎞手前の小又橋(6：30)。異常に雪が少なく林道経由でコット谷出合(7：40)まで。コット谷は緩く広々したスキーに最適のコースである。しかし、例年だとこの辺り雪原のはずがほとんど雪がなく、河原を１時間ほど歩いてやっとスキーを履く。コルの直下は急傾斜となりツボ足で登る。コル(10：30)からもブッシュが多く快適とはいえない。浪川さん・大森さんは途中でスキーをデポしてしまう。しかし、快晴の中、高度を上げるにつれ、毛勝三山、赤谷山、剣岳、奥に白馬岳、富山平野に能登半島、麓の新緑と、景色はすばらしい。早乙女岳(13：40)まで登ると正面に大日岳が堂々とたたずむ。大日岳手前、2160m 台地(14：30)の北斜面に雪洞を掘る。入口からは剣岳東大谷が目前。暖かく広々、ローソク一本でキラキラと、最高の宿。同宿者によってはロマンチックかも？

３日朝から雨。新品ゴアテックスの浪川さんと山頂からスキーをしたい私で大日岳往復(6：30～7：40～8：05)。雪洞でお茶をした後、下山開始(8：30)。スキーは楽チン快適、ツボ足のお二人も速い。コット谷コル下からはお二人もスキーで･･･！最後はごろ石で歩きにくい河原をコット谷出合(11:15)へ。久しぶりに馬場島見学の後、温泉に行き、その日の夜に神戸着。雨ニモマケズ、雪ノスクナサニモメゲズ、久しぶりの５月の山を楽しみました。

北山公園へボルダリング　　５月１３日

西濱

久しぶりに北山公園へボルダリング。学生時分は約５m以上のボルダーにはビレー用のボルトが在ったのに、全てタタキ折られていました。理由は、「ボルダーとはボルトを使わないもの」だそうです。あぁー、嫌になってきますわぁ。

六甲　西山谷　　６月１日

廣瀬　武田　福田　浪川　大森
八木　山本恵

１日の西山谷ハイキング、総勢７名。多数の参加有難うございました。いろいろなお話しをお伺いしながら、半日、軽くハイキングも良いものですね。特に、昼食時はのんびりくつろぎながら、楽しく過ごす事が出来ました。また「こんな山へ行きたいな」というリクエストがあれば、お知らせください。時々、こんな感じの山行も企画し、掲示板に載せたいと思います。ご都合の良い方は、ご参加ください。

西　山　谷　　福田

快適な一日でした。今までは、一人歩きで、もし落ちたらと、こわごわ行っていましたが、昨日は安心の沢登でした。ボチャッと水に入っても却って気持ちが良いくらいの夏日でした。この余裕が最後の愛情の滝の大笑いになりましたね。山上での涼風はコンビニのおにぎりの味を、格上げしてくれました。小生には、この位の沢登が丁度合ってます。皆さんご苦労さんと有難うさんでした。

愛 知 川　神埼川本流　　６月８日

森本　塩崎　浪川　大森　山本恵

初泳ぎ　金曜日の芦屋の例会で明日は天気が良いでの言葉に何処かへ行こうと言う事になり、各自家に帰り嫁さん／家族の了解を取り付け？夜中に電話のやり取り、掲示板に計画を書く間も無く、昨日朝５時に神戸を出発、愛知川の神埼川本流に行って来ました。メンバーは森本、塩崎、浪川、大森、山本恵昭の５名。名神八日市から国道 421 号線永源寺ダムを過ぎ杠葉尾から神崎川沿いの林道へ。８時から遡行開始。今年初の沢登にヒャー冷たいと言いながらジャブジャブ。小滝、斜滝、瀞、淵、釜、泳ぐ者、ヘツル者、巻く者とめいめい思い思いに明るい谷を楽しみました。天狗滝では泳いで取り付き山本/浪川がシャワークライミングで左岸を登りきりました。私は滝までの流れが強く泳ぎ着いて滝に打たれての取り付きが上がれず、力尽き流され戻りヘトヘト。高巻きもフラフラ、寒さに震え出しました。見かねた皆さんが火を焚いてくれ長袖を着込み大休止。山本君は竿を出し小魚を釣り上げ焚き火で焼いて皆で一口ずつ賞味。帰りは同じ沢を白滝谷出会まで泳ぎ下り登山道から林道へ２時半頃車に帰り着きました。下る途中、天狗滝では滝の上から釜めがけて３名が大ジャンプ。水が嫌いな癖に何故か沢登大好きの大森君、皆が全身ビショビショの中それまで上半身が濡れていない彼も長瀞ではついに高巻きを諦め流木を浮き代わりに流れ下る楽しい一こまも。疲れましたが楽しい充実した一日でした。

道場烏帽子岩　　６月９日

西濱

８年ぶりかに道場烏帽子岩へ行きました。５．１０ｂ一発で行けました。たかが１０ｂされど１０ｂです。使用ロープは１１年前のものでした。怖い怖い。

姫路峰山　小田原川遡行　　６月１５日～１６日

廣瀬 森本 武田 塩崎 浪川 山本恵

15 日 10 時前に 3 台の車で小田原川本谷の林道入り口に集合。帰りの為に遡行終了点に車を 1 台上げて本谷の遡行開始。今日は濡れることも無いだろうとナメて掛かるととんでもない、泳ぎあり、シャワークライミングあり、ザイルの必要ありの楽しい遡行でした。黒岩滝で廣瀬さんと合流、山本君が担ぎ上げ作ってくれたソウメンで昼食。核心部は約 2 時間で抜けました。車で下山、林道の行き止まりの所でキャンプ。前日から釣りに入っていた武田さんの釣果はアマゴ１匹、全員に最低１匹ずつを期待していたメンバーのブーイングに武田、山本の両名が登山道を駆け上がり黒岩滝でアブラハヤを 30 匹ほど釣り上げ焚き火で炙りビールで乾杯、雄さん、脂ののったアマゴ上手かったです、ご馳走様でした。次は１人１匹ずつお願いします。

夜は寄せ鍋で一杯、ビールを飲みすぎた１人が転んで手と鼻をすりむくハップニングもありました。〇〇さん、山ではお酒は程々に。

16 日はオジヤの朝食後、掛ヶ谷へ、林道終了点から遡行開始。こちらの谷は本谷よりすこし暗い谷でしたが滝あり滑ありのなかなかの渓

でした。こちらのほうが手ごわく手も足も出ない滝が２本。高巻き。こちらも約２時間で核心部を突破、大きな緋鯉の泳ぐ池で廣瀬さんと合流、登山道を下り車へ、楽しい２日間の沢登を終えました。年寄り組は温泉にゆっくり浸かり汗を流し、たこ焼きでビールを一杯、大満足で一路神戸へ。

保　墨　岩　　６月１６日

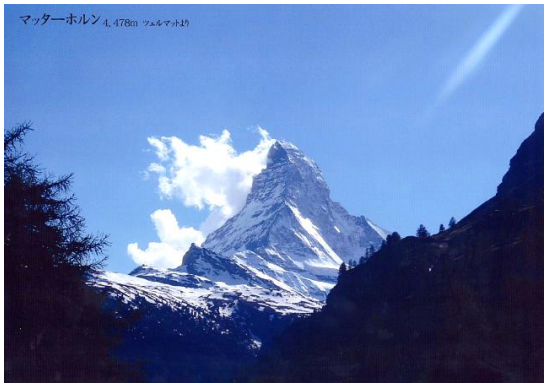
西濱　白川

白川君と保墨岩へいきました。私の１回生時、甲南高校だった彼は大学山岳部に出入りしていました。当時なかなかのイケイケ志向で（クソ）生意気だったのですが、昨日のクライミングをみてみると、可愛らしくなっていました。これからは、彼と特訓を誓いました。

マッターホルン　　６月

宮本

最近不摂生な生活が続いておりますため、歩いて登るまともな山登りは、自分の体重のためにポーターを雇う必要を感じますので、できるだけ楽をして、高いところまで行き、美しい景色が楽しめ、良い写真が撮れる旅を心がけております。今回のスイスは、丁度良い(安い)ツアーがあったので参加し、写真を撮ることに専念してきました。



最初にシャモニー(1,035m)よりロープウエイで一気に 3,842m のエギューユ・デュ・ミディまで登りました。ロープウエイを降りると足元がふらつき歳を感じましたが、周りの壮大な景色を見ると、そんなことは何処かへ、当然モンブランを筆頭に、グランド・ジョラスを含めスイス側連山のすばらしさ、足元のボゾン氷河をはじめさまざまな氷河・岩峰など時のたつのを忘れシャッターを押しつづけました。幸い天候に恵まれ、マッターホルンの遠景まで望めました。　　（６月１９日書込）

なめたらいかんぜよ”芦屋川”　　７月６日

塩崎　浪川　大森

芦屋川がこんなに素晴らしい谷であることは全然知りませんでした。滝有り、釜有り、泳ぎ有り、シャワークライミング有り、ザイルのお世話になる事４回。水も綺麗でした。浪川君の家のすぐ上で入渓、芦有道路の料金所下の河原まで４時間、２時間もあれば抜けれるとの思いは大間違いでした。

芦屋川本谷の写真　越田和男

塩崎君の芦屋本谷の写真数葉、まさに浪川邸の裏庭にこんなすばらしい渓谷があるんですね。小生幼少の頃、部分的には水晶取りと川ハゼ釣りで旧発電所のあたりを探検して、恐ろしい谷だったとの記憶あり。芦屋川沿いに自動車道路が出来て以来、随分の年月あまり人が入っていない穴場だと思います。横浜住まいの元芦屋住人にとって羨ましき限り。高谷昌良と言う人の書いた「芦屋の山」（山と渓谷社 1989 年）という本に「たかが芦屋されど芦屋」という一

章があります。まさにそんな感じですな。滝登りはともかくとして、一度是非訪ねて見たいものです。

神埼川本流遡行　　７月２０日

森本　浪川

前回 6/8 の神埼川遡行がヒロ沢出合迄だったので今回大瀞を目指した。

7/20 早朝大津で森本さんと落ち合い永源寺を抜け神埼川に入るとなんと武田さんが路上生活しているのと遭遇する。流石甲南一の釣り師。白滝沢降り口に車を置き神埼川に入る。前回来た時の３倍ぐらい水量に２人ビビリ早速ライフジャケットを着る。9：00 白滝沢出合出発天狗の滝まで水量多い割にはライフジャケットのお陰でスムーズに行ける。

天狗の滝は水量の凄さに圧倒されすごすごと高巻きをする。ここから先大瀞まで水量多いが水温が前回より高く気分的に楽に遡行する。しかし大瀞に着き唖然呆然！！瀞の一番奥の小滝水量が多くとても突破出来そうもない。森本氏に「お前やったら行けるで」と言われ、誘った手前いかなしょうない（しもた）。必死に絶壁へりにしがみつき瀞を奥に進む、しかし小滝は登れそうもなく、手前の岩壁にかろうじて手がかりを見つけはいあがる。森本氏にザイルを投げ通過する。ココが今回２日間で１番のハイライトでした。1 時間程でタケ谷出合 12:00～根の平峠～中峠～羽鳥峰（はとみね）この間猛烈な笹薮こぎ。～白滝沢～本谷出合 16：00～宴会場 16:40 着。

森本様　長時間お付き合い頂きまして有難うございました。楽しい遡行でした。

楽しんで来ました”赤坂谷”　　７月２１日

田邊　潤(S34) 廣瀬健三(S36) 森本全彦(S39)
武田雄三(S39) 塩崎将美(S41) 浪川純吉(S42)
井上知三(S48) 山本真博(S48) 松下哲夫(S52)
大森雅宏(S53) 山本恵昭(S56) 田中一也(S63)
恵昭君の娘さん裕実子ちゃん(小学校５年生)

鈴鹿愛知川の赤坂谷に行ってきました。

前日、森本/浪川は朝から神崎川本流に林道終点から入渓、増水した天狗滝を突破、途中の瀞は勿論大瀞もザイルを付けて泳ぎきり(12:00)、尾根まで登り白滝谷沿いの登山道を下山(16:30) ビバークサイトへ合流、8 時間のアルバイト。ご苦労様でした。

他のメンバーは３時半ごろから集まりだし、タープを張って、その下で例によって宴会開始。差し入れのブランデー、スコッチ、日本酒、ビールのチャンポン。特筆は武田さんが我々の為に釣り上げた岩魚、ヤマメ、骨酒の美味かったこと、雄さん有り難う御座いました。私など何時まで飲み何時に寝たかも定かで無い始末でした。

22 日、年寄は４時頃から起きだし朝食、用事があると帰神する武田さんとわかれ7時30分入渓、赤坂谷を遡行、10 時 30 分遡行終了、そのまま谷を流れ下り、神埼川との合流点に１時 40 分無事流れ着きました。

遡行の様子は誰かが書いてくれると思いますが、泳ぎあり、シャワークライミングあり、ナメの連続をピチャピチャ、下りは滝壷めがけて大ジャンプ、素晴らしい２日間でした。

写真はアルバムにＵＰしました。カメラ(Canon PowerShot S30)を買い換えたにもかかわらず今まで通り肝心の滝の登りや、泳ぎ、ジャンプの写真が暗すぎて物になりませんでした。レンズが曇るのでしょうか？オートで撮影してます、フラッシュをオートにしているのが不味いのでしょうか？誰かカメラの達人、教えてください。　　塩崎

ヒャー面白かった　田邊　潤

鈴鹿赤坂谷メッチャ面白かった。

我々年寄りには丁度限度の行程。難易度は易で私にはやや不満。もう少しスリリングな部分があっても良いかなーというところ。水はきれいし、川は荒れていないし、ほどほどの入渓者で気に入りました。ヘルメット、シュリンゲ、ライフジャケット等揃えようと考えています。同行の皆さんには大変お世話になりました。ありがとう。　　ガチャ

赤　坂　谷　廣瀬健三

沢登りを楽しみましたと云いたきも始めてのWATERクライミング。嗚呼情けなや 全くてこずりました。先輩に冷かされていたようで、そのとおり特に下りの懸垂下降の際旧式の肩がけ方式で始めはすいすいと下ったもののシャワーを浴びだすとザイルが滑らずもたついて横転。モガキモガキ苦しんで 浪川兄にＳＯＳヤット脱出。飛び込み ラッコ泳ぎ等存分に楽しみました。打ち上げの蕎麦ビール美味かった。ガチャサン、大変御馳走に成りました。又難なく登られたのは正直ビックリしましたよ 。

釜より深い親のプレッシャー　山本恵昭

「パパばっかり遊びに行ってずるい！」

まるで、嫁さんの心の内をぶちまけたような小5 の末娘の一言に、「ハイハイ連れて行きまんがな」と車に乗せたものの、ちょっと心配。まあチビ一人くらい担いでも何とかなると自分に言い聞かせ、ぶかぶかのヘルメットとライフジャケットに身を包ませていざ出発。深い釜や岩場が出てくると親のプレッシャーは大きくなるばかり。そんな心配をよそに、隣を泳ぐ娘はニコニコ顔。休憩中も流れに身をまかせて遊んでいる。下りなんか、自分から滝壷ジャンプ！こいつは一体どんな人生歩むやら？でも久々につないだ娘の手の柔らかさがなんとも嬉しかったです。

最近ダウンしっぱなしの父親の威厳を、ちょっとは回復したかと思いきや、帰りの車ではもう生意気娘：嫁さん２号に戻ってしまいました。

皆様、いろいろな所で手を差伸べていただき有難うございました。

飛　騨　　位　山　　７月２７日～２８日

雨宮　二谷　塩崎　山本真　森本

７月２７日・２８日の２日に掛けて平均年齢６１歳（６５歳～５６歳）５人がハイキング登山を楽しんで来ました。２７日最初の目的地飛騨川上岳（かおれだけ）に向かったが道路崩壊で通行不能の看板。急遽位山に変更。位山スキー場脇の林道をとことん詰めて 1430mで車放棄、これより頂上目指す。頂上1625m迄５０分の行程。ちょうど良い運動。登山道には巨岩が幾つもあって、それぞれ鏡岩・畳岩・等と名前が付けられていた。頂上には天の岩戸と言う巨岩があった。その晩河合村 YuMe ハウスで泊まり、アメリカの鯰、河ふぐのゲテモノ賞味する。

２８日白山スーパー林道で帰阪の途に付き途中三方岩駐車場より三方岩岳を目指す。三つのとんがり帽子をもった綺麗な山である。1450m～頂上1736mまで３０分程の登りであった。途中ガチャに教えられた蛇谷に降りて、親谷の湯につかりながら姥ヶ滝を眺め、この谷の遡行計画を話し合う。（帰阪後調べてみると蛇谷支流の谷は遡行にもってこいと解る）最後の仕上げとして白峰にある日本一のトチの老木（樹齢１３００年）を見に行く。一見の価値あり。山あり、食あり、勉学あり、刺激の多い山行でありました。

ヒンズーラジ・ルパルピーク　　７月

米山

昨日帰国しました、おかげさまで無事にヒンズーラジ地区１４０キロ踏破、ナンガパルバットの南西フェースと向かい合った独立峰ルパ

ルピーク 6,150 メートルの登頂に成功しました。これで念願の 66 歳で 6,000 メートル２座まったく酸素なしで登ることが出来ました。

前者のトレッキングは最高で花の季節にちょうど遭って誠に美しく又今年最初でおそらく最後の外国人、現地人も一組羊飼いのパーティーと会っただけという幸運でさらに氷河を三つ超える経験もしました。

後者の登頂に際してはハイポーター２名ポーター１名を連れＡＣ一つだしザイルとアイススクリューを一つ使いました。いろいろやっているせいか高所順応もばっちりで問題まったくなし、最後に羊飼いの薦めるヨーグルトを飲んで下痢をして帰国したのが唯一大変でした。

詳細改めてレポートしますがまずは報告まで。　**山嶽寮５７号（前号）に記事があります**

地中海をヨットで　　７月～８月

柏敏　小西（関学ＯＢ）

残暑お見舞い申し上げます。7 月末より 8 月 23 日までローマからシテリア島までイタリア南西部の島々や港を転々として約 1,000Km のヨットクルージングを楽しんでいます。今日は左手にベスビオス火山、右手にカプリ島を見ながら、唄で有名なソレント港に入りました。海はコバルトブルーで限りなく透明、港々には超ビキニ姿が一杯で目に眩しいです。ソレント港にて　柏

本号 － 紀行 － に記事があります

甲南ビヤパーテイ（東京・両国）　　８月３日

國府　越田　大関　平井　伊藤（五介）東野　他

今夕は両国・国技館前のビヤホール、での”ビヤパーテイ”でした。国府、越田、大関、平井、伊藤（五介）東野、氏など８～９人の山岳会のメンバーの顔が揃いました。席上、甲南山岳会の集まりが、久しく途絶えているので、幹事の大関さんに「東京山岳会の集まり」を企画して欲しい、ついては、「山岡、山口（雅也）、福田（泰次）伊藤（文三）、茂木氏」等の先輩にも出席してもらえる様に、昼食でとの申し出でに、伊藤（五介）氏より会場の斡旋の申し出が有り、今秋には実現しそうな状況です。本日の報告まで。　グリン

東京ビヤパーティ追伸　越田和男

いつもながら８０歳強の福井グリンさんの元気印ぶりにはビックリでした。２次会には大関と小生がグリンさん旧知の両国の焼鳥屋でご馳走になりました。焼鳥屋のご一家とは海外ツアーでの知り合いとか。いい雰囲気でした。伊藤五介さんとはもっぱら Jazz、Hawaiian および Country の情報交換。森本モリスさん経由で The History of Country Music なるＣＤをダビングしたテープをいただき、この週末楽しませてもらいました。五介さんどうも有難うございました。

鳳凰三山縦走　　８月５日～７日

雨宮　森本　塩崎　山本真

8/5 今日の宿泊先 甘利山グリーンロッジに、素泊り¥1100 の超格安。甘利山 1731mの頂上迄散策。高山植物が咲き乱れ綺麗。8/6 青木鉱泉に移動。ドントコ沢経由で鳳凰小屋へ。途中の五色が滝は圧巻。昼過ぎ小屋に着き空身で地蔵岳往復。奇岩オベリスク、賽の川原を見る。8/7 観音岳、薬師岳を登り中道経由で 2800mからいっきに 1100m青木鉱泉迄。鳳凰の稜線から見る白峰三山、仙丈、甲斐駒、富士山、八ヶ岳、遠くに乗鞍、木曽駒 360°の展望はすばらしいの一言。現役の時に歩いた光岳～鋸岳縦走に想いはせる。高度計を利用したが案外正確な位置がつかめるものだ。・・・天気に恵まれ良き山行。

（参考タイム 青木鉱泉～鳳凰小屋 5：30　鳳凰小屋～地蔵岳 1：00　鳳凰小屋～観音岳 1：30　観音岳～薬師岳 0：15　薬師岳～青木鉱泉 5：00）

鳳凰二山　塩崎将美

タイトルの鳳凰二山は間違いではありません。鳳凰小屋にやっとの思いでたどり着いた我々の前にパイプで引いた冷たい水に冷やしてある缶ビール。600 円、値段を聞く前に注文。空身で地蔵岳に向う森本さんに代表で登ることをお願いし後は気持ち良く晴れ上がった空の下で気持ち良い風に当たりながらペットボトルに詰め担ぎ上げたウイスキーで水割。翌日は地蔵岳をパス、巻き道を観音岳へ、そんな訳で私にとっては三山が二山になってしまいました。しかし去年から山を復活した私にとって初めての本格的な尾根歩き。2800ｍの稜線からの眺めは森本さんも書かれていますが、前後のキツイ登りや下りを忘れさせる程の素晴らしいものでした。二山になってしまいましたが大満足の山行でした。おかげで心配した膝も腰も問題無く、此れからどんどん登るぞとの思いでです。

段　ケ　峰　　8月１１日

塩崎

日曜日に段ケ峰（1,103m）に登ってきました。登り 3 時間ほどの山ですが雨上がりの高原を楽しんで来ました。頂上からの眺めは山また山、どれが何と言う山か分かりませんがそこそこ標高のある山がけっこう有りました。此れから近場のこの様な山も楽しみたいと思っています。

御　嶽　山　　8月１２日～14 日

山本恵昭一家

12 日王滝村の銀河村キャンプ場泊。白樺林に囲まれ落ち着いた素朴な雰囲気。夜、夕立が来たが、3 時ごろには満天の星空で、起きてきた娘二人とシシ座流星群の流れ星を沢山観察。

13 日ホットケーキを焼いてのんびり朝食。田の原着 7：40。急な登りは嫁さんと子供達に水やレーションを押し付けて、何とか剣ヶ峰 11：00。ガスの晴れ間に二の池が美しい。下りは膝がくがくストックだけが頼り、下りたらバーベキューを合言葉に、田の原 14：00。王滝村 JA でイノブタ肉を買出し、王滝の湯へ。山の中の静かな檜風呂でくつろぐ。夕食は豪華にバーベキュー。これがあるから、子供達も山に付き合ってくれているのかも？

14 日昼前までだらだら過ごし、赤沢自然休養林へ。意外と混雑していたが、丸太切りやアクセサリー作り、森林鉄道、針葉樹林の散歩、滑床で水遊び。夕方までたっぷり遊んで、神戸へ。やっぱり膝痛し！

剣　岳　本峰南壁　　８月１４日～１８日

西濱

14 日　芦屋 6:00－室堂 16:00－雷鳥沢 17:00

15 日　雷鳥沢 6:00－真砂沢 11:00　ガスと雨の入山

16 日　真砂 5:30 - 7:30 本峰北壁取付付近 8:30－9:30 本峰 10:30 - 12:00 南壁Ａ１ - 15:30 本峰－16:30 平蔵コル－18:00 真砂

ガスの為本峰北壁取付きわからず断念、本峰に向かう。ガスの切れ間が出てきたので急いで、南壁Ａ１取付きへ向かうも一般登山道は長蛇の列。Ａ１のルート上にも先行４から５パーティーの長蛇の列。

１Ｐ：屁！問題無し。２Ｐ：雨！問題無し。

３Ｐ以降：リッジの為ソロイストは不向き。ノーザイルで行く。３級のルートは手応え無し、でも大変楽しかった。

17 日　真砂 8:45 - 15:00 黒部ダム－信濃大町

初めて見た、丸山東壁、大タテガビン、黒四、すごいぞ！

大普賢岳　　８月１４日

山本真

14 日（水）、５時過ぎ川西発。和佐又ヒュッテ 8 時 10 分出発。1 ピッチ目は緩やかの登り。次より鉄梯子の急坂数箇所。10 時 25 分山頂。ガスで眺望効かず、雨が降り出し直ぐ下山。雨は直ぐ止むが小屋に入ると大雨（小屋着 11 時 55 分）。凄い岩場有り。

田　城　原　　８月１７日

田邊　砂川夫妻

夏休み最後の 8 月 17 日に、お隣の砂川先輩夫婦と三峰川上流へピクニックに行って来ました。本当は、三峰川林道の車止めから源流を

しばらく遡って川原の木陰でコンビニ弁当でも食べながらのんびりしようと、いう考えでしたが、地図を見たのが間違いのもとで、「田城原」という名前に惹かれてハードドライブをしてきました。田城原と言う名前は、何となくロマンティックに響きませんか。前から一度機会があれば行ってみたいとは考えていたので、せっかくだから一寸よって行ってみようと思ったのが間違いのもとでした。

長谷村市野瀬地区から、分杭峠ー大鹿村に至るいわゆる東国古道を離れ三峰川本流沿いに左へ入りますとすぐに平家の落人部落で名高い「浦」への分岐点にかかります。何となく周囲の様子がおかしいのです。道がこの山の中には似つかわしく無く拡幅整備されているのです。「税金の無駄遣い」などと無駄口を叩きながらしばらく登るうち、朽ちかけた「田城原ー左」の案内板がでてきました。車の轍跡があるので大丈夫だろうと見当をつけて登りました。入口から7㎞で約1時間かかりました。田城原は原と言う程の平地は無く、全体が森の中で少し平らなところがあるかな、というところ。明るいと言うよりは暗く、キャンプ地も 10 から15年は使われてない、という感じでした。夜の暗闇の中から大蛇か怪獣が出てきそうな印象を受けました。

下りは、上流側にある小瀬戸温泉に出たいと思ったのですが、走りたくなるような道は無く、結局一番轍の明瞭な道を選んだら、入口よりはるか下流の浦への分かれ道に近い所へ出てしまいました。この下りがまあ大変な道で、四駆でないとお勧めできません。また本流沿いを登り直し、途中の川原で弁当を食べました。久し振りの雨がぱらつきはじめましたので、食事も早々に上流へ向かいましたが小瀬戸温泉を通り過ぎないままに車止めに会ってしまいました。

帰りに市野瀬(バス停伊那里)の「生涯学習センター入野谷」の中にある温泉に行きましたところ、三峰川上流に「戸草ダム」ができること、それで7年前に小瀬戸温泉は撤去され、その鉱泉で湧かしている湯舟がこの温泉の中にあることが判りました。道理で道も良くなって簡単に車止めまで行けたはずです。実際にしばしば高遠に行っていながら、15年来の変貌を知らずにいました。田中知事が再選されれば、この戸草ダムの運命も決まるのでは? と考えると大変興味深いです。

「浦」部落で思い出す事　越田和男

田辺ガチャさんのドライブ記事に三峰川上流の古い集落「浦」というのが出て来て 20 年前のことを懐かしく思い出しました。

20年前1982年の秋、やはりガチャさん達と当時既に廃村状態になっていた「浦」に明大山岳部の長老 OB 交野武一氏を何の前触れもなく訪ねたことあり。交野氏は既に七十代後半だったと思うが、石置き屋根の古い農家に東京から単身移り住み、自給自足の生活をしておられた。

突然訪問した我々を歓待され、炉辺でコーヒーを入れて頂いた。田口二郎夫妻らが少し前に立ち寄って行かれたとのことであった。囲炉裏の部屋から千丈がバッチリだったと記憶する。我々のこの訪問の一件は東京で明大山岳部の人達に伝わり、甲南の連中が来てくれたといって大変喜んでおられたとのことだった。甲南のグループの雰囲気がとてもよかったと、後に小生あてに葉書を頂いた。

かなしい知らせはその数年後のこと。交野さん宅の火災焼失と交野さんの訃報が報ぜられた。新聞には植村直己氏の育ての親とあった。当時の甲南勢でもこの日のメンバーの一人河崎厚二先輩が既に亡い。

西穂～奥穂縦走　　8月24日～26日

森本　塩崎　山本真

飛騨側新穂高よりロープウエーにて一気に約１５分で2150m西穂高口駅に。西穂山荘まで約１時間、便利になったものだ。西穂山荘～独標～西穂高～間の岳～天狗の頭～畳岩の頭～コブ尾根の頭～ジャンダルム～ロバの耳～馬の背～奥穂～穂高山荘･･･10 時間のアルバイトと踏んで 4:15 の早立ちにて出発、中間点天狗の頭に 8:20 天狗のコルより畳岩の登りで奥穂からの単独行の方に初めて会う。後ろを振り返った誰かが、天狗の頭に二人の男女ペアーが登ってる

で、岳沢の天狗沢から登って来たんやろと、何気なしに話し合う。ピークを踏む度にジャンダルムの異様な姿が目に付き出し 30 年ほど前の厳冬期に末端より登った塩崎、浪川両君の体力に感心する。最後のヤバイ馬の背を乗越し奥穂に着いた時、今までの緊張感無くなり一時に疲れが押し寄せる。出だし少しガスっていたが、ほとんど好天の中の歩きであった。三俣、鷲羽、水晶、燕、常念、霞沢、焼け、乗鞍、白山、笠、等すべてが見渡せる絶好のパノラマであった。穂高山荘に着いてみると間ノ岳で滑落事故あったと聞くが、どうも岳沢を登ってきた男女の一人らしい。今回山本の入念な計画に乗せられたが、他の一般縦走路より危険はつきまとうが、体力勝負と思う。しかし体力のみの人では、危ない。岩登りの基礎をしていないと駄目。三日間の慌しい縦走であったが、天候に恵まれ、充足感を持ち下山した。

栃尾の川原の露天風呂につかり身体を癒す。塩崎、山本両名奥穂～槍を目指して次なる時へ。水渡、竹中両君二人といっしょに行っては。

（参考タイム

8/24　新穂高 14:15～ロープウエー～西穂高口駅 14:35～西穂高山荘 15:45

8/25　西穂高山荘 4:15～西穂高 6:25～天狗の頭～奥穂 12:10～穂高山荘 13:20

8/26　穂高山荘 6:00～白出沢～白出出会い 9:00～新穂高温泉 10:00）

大　山　　甲（きのえ）　川（がわ）　　８月３１日

塩崎　（娘さんの所属団体に同行）

土曜日、娘が所属する岡山労山のパーティに特別参加、大山の甲川を遡行してきました。下の廊下、中の廊下、上の廊下、釜、、瀞、廊下、滝の連続で泳ぎ岩を攀じ登りアブミを使用しかなりハードな遡行でした。時にはショルダーでトップを押し上げ、トップは泳ぎながらアブミをセット、勿論トップは空身で泳ぎリュックを後で引き上げる。私などセカンドでも空身でようやく泳ぎ登れる所もありました。此れでも水量は少ないほうと言われ唖然、水量があるときはアブミを掛ける残置ハーケンが水の中の時もあるとか。こんなに泳ぎの多いそして人工で滝を登る遡行は去年から始めた遡行の中でも随一。水温も低くかなり着込んで行ったのですが寒さに震えました。慣れ親しんだ大山にこんな素晴らしい谷があることを発見し感激しました。何時か甲南のメンバーで再挑戦したいものです。

比　良　獅子ヶ谷楊梅滝　　９月７日

森本　塩崎　浪川　大森

浪川さん言い出しの、比良北小松、楊梅の滝・滝登りに参加しました。六甲の塩崎さんのお宅を 6 時過ぎ発、浪川さん宅経由して西大津で森本さんと落ち合い琵琶湖岸の北小松へ。クライミングウォールのある比良元気村を過ぎて車を降りる。滝の下まで遊歩道の整備あり、取り付き点へ。水量が多い。小雨の中登攀具を付け浪川さんトップで、さあ開始、と思ったら雨が大粒に。しばらく待機して、シャワークライミングの開始。岩の質はしっかりしているが、ぬるぬるしていて何か不安。水量多く残置ボルト・ハーケン見つけづらい。10 メートルほど斜上しボルトにランニングをとる。その上 15 メートルほどはぬるぬる壁と水しぶきのなかを、あぶみの架けかえで乗り越え。流れから抜けてもしばらくボルト・ハーケンに頼って核心部を抜ける。上部のビレイも含めて 50 メートルザイルがほとんどいっぱいの距離。内緒の話ですが、パーティ 4 人にあぶみが 2 個しかなく、1 個はトップが残置してくれたが、セカンド以下はシュリンゲ使用のインスタントあぶみ。少々

使い勝手が悪い。二番手、かんさんも滝の中へ果敢に挑戦、途中体重を懸けたハーケンが抜け落ちバランスを崩すが気を取り直して上部へ抜ける。以下塩崎さん、大森の順。ルートが出来ていればあぶみの懸けかえで、袖口・首筋から入る水と顔にかかるしぶきのほかはあまり気にならなかったが（高度感もそこそこあるが水のほうが大問題）、ぬるぬると水量の多さにトップの苦労が偲ばれた。2 ピッチ目、滝の落ち口までの１０メートルは、水の流れるぬるぬるのスラブでボルトも見あたらず、側壁に近い土と岩のコンタクトラインをルートにとって終了。懸垂下降で下りてもイイナと取り付きでは思っていたが、ぬるぬる壁に冷えた体で 40 メートル垂直落下するといけませんので、巻き道を辿って安全に下山。実働 3 時間半くらい。ちょっと勝手の違ったぬるぬる壁でしたが今回も楽しく息を弾ませてきました。

奥 秩 父　瑞牆山（みずがき）・金峰山（きんぷ）　　９月１４日～１６日

山本真　森本

三日間とも生憎の空模様、雨には遭わなかったがガスの中の歩きとなった。どちらも日帰りコースで登れる山の為か人は多そうである。百名山の影響かもしれない。二峰とも頂上に大きな奇岩をもった面白い山である。遠くから目印として見える。南ア鳳凰のオベリスクのほうが、面白い気がするが。十月紅葉、六月のシャクナゲの時が綺麗で沢山の人訪れるとの事。

金峰山は山梨の人はキンプ、長野の人はキンポウと呼んでいるらしく、小屋は長野にあるからか、キンポウ山小屋とよんでいる。年寄りには、手ごろな山であった。

雪　彦　山　地蔵岳正面壁　　９月２８日

西濱　米谷（佛教大ＯＢ）

お昼の１２時に仕事を終えたので、雪彦山地蔵岳正面壁を登ってきました。１３時にパートナーの米谷君（佛教大卒）を大阪で拾って出発。現地１６時着。取り付き１６時３０分。人工のルートを登りたかったけど時間が無いので右肩のフリーのルートを登る。２ピッチ半で完登。１７時３０分地蔵岳山頂着。あぁ一楽しかった。

アメリカ　コロラド周辺　　９月

福田

先月末アメリカ、コロラド周辺を回りました. デンバーの北 600km のラピッドシティをベースに、ラッシュモア山、デビスルスタワー、バッドランズ、デンバー北東のエステスパークをベースにロッキーの散策をしました。ラシュモアはワシントン、リンカーン、ルーズベルト、ジェファーソンの４大、大統領を山の岸壁に彫刻したところです。１０月半ばブッシュ大統領が平和演説した所です。デビルスタワーはマグマがチューブの中のチョコレートのように押し出されて、冷えて固まって塔の様になったもので、周辺より約 300m盛り上がっています。ロッククライミングのメッカで、年間 5000 組以上のパーティが訪れ、ルートは 200 以上。ビジターセンターには詳細なルート図や説明本が販売され、受付カウンターには登攀予定者の申込の列が出来ていました。掲載写真にはチムニーを開脚で登る登攀者が見えます。アメリカ人がこんなに岩登りが好きだとは思いませんでした。ロッキーは黄葉を見るのが目的で、時期を合わせるのが微妙でしたが、今回は巧く合いました。１日目は車で 3700m の峠を超えましたが、３日目は雪で 3300mまでしか行けませんでした。その日は午後から大雪でアット言う間に真っ白になり、車をだましだまし走らせ町まで着くと、今度は大雨でアット云う間に道路が冠水しました。水柱を上げながら這々の体でデンバーにたどり着

けました。内陸気候はハードですね。それでも、ロッキーを代表するアスペン（ヤナギ科の白樺に良く似た樹木）の黄葉は早い雪に映り、輝いていました。予想通りの美しさに来た甲斐がありました。不思議な事に、アメリカ、カナダではカエデ、ポプラも黄葉で、しだまでが黄葉、日本のモミジのような紅葉は殆どありません

柿其（かきぞれ）川本流中流部（箱淵～北沢上部）遡行

１０月１２日　塩崎　浪川　森本

若手OBとの交流接点を求めて、オジン塩崎、浪川、若手大森、山本(恵)等が立案した遡行計画「柿其川本流下流」の前哨戦として１日早く３人で出かける。ガチャさんの下見よろしく、恋路峠休憩所は深夜着いてみてビックリ、立派で綺麗な一戸建ての建物であった。我等３人の後から名古屋パーティ２人が来る。彼等は中央アルプスに登る時良く利用する由。テントで寝ることを考えれば天国である。ガチャさんに感謝。早い朝食を取って時間待ち、無風晴天の秋日和、飛騨の朝は寒く柿其本流にお日さんが当たるのを待って、８時頃出発。林道ゲートは奥の堰堤工事の為開いており、そのまま車を箱淵迄乗入れる。(普通ゲートから歩いて 30 分)やっと川に日差しが訪れ入渓の準備。寒さ対策で金持ちから貧乏人まで差はあるが、工夫のお披露目。ウエットスーツに身をかため右岸林道から左岸林道への横断橋より下る。９時出発。やはり水は冷たい。外気温からして水温 10 度ぐらいか。さっそく膝まで浸かったりへつりとなる。やがて溺石淵のゴルジュ帯に。水量が少なく一部泳ぐ所もあったがへつりながらの渡渉で乗り切る。この間が変化にとんだ難所といえる。名古屋ACC記録では水量多く高巻になっていたが、確かに水量によっては乗り切ることできないかも。

今回北沢上部までで、雷滝で高巻しただけであったが、水量が少なかった結果であろう。紅葉には少し早かったが、林道沿いにしては非常に綺麗で美しい沢であった。荒らされていない沢といえよう。昨年の御岳鈴ガ沢より始めた沢登りを振り返ると装備、衣服面で雲泥の差である。危険伴うが適度の緊張感に酔いしれる魅力が沢登りか。　（森本記）

（参考記録　名古屋ACC）

9：00 箱淵上流部～12：10 忠兵衛淵～12：50 北沢上部林道～林道～14：00 出発点

さあ装備を固め水に飛び込むぞ

私の装備は足元はネオプレーンの靴下にフェルト底の鮎釣り用の靴、下半身は速乾性のパンツ、モンベルのジオライン（速乾性の下着）ミドルウエイト（中厚）のタイツ、カヌー用ウエットスーツ、上半身は同じくジオラインのラウンドネックの長袖をライトウエイト（薄手）ミドルウエイトを重ねて着ています。この上に30年前のゴルフ用ウインドブレイカーを着ライフジャケットを着けます。これで一日目は泳ぎまくってもまったく寒さを感じませんでした。二日目は人数が増えて途中で身体を動かさない待ちがあった為途中で震えが来ました。

（塩崎記）

木　曽　柿其（かきぞれ）渓谷本流遡行　　１０月１３日

駒王での秋の集会を機会に、南木曽　柿其渓谷を遡行しました。参加は田邊　鈴木　森本　武田　鵜木　塩崎　安井　柏敏　浪川　石原　大森　川野　山本恵（散策コースも含んだメンバー。一部秋の集会に関するものもあります）

秋の集会お世話になりました　鈴木頼正

甲南山岳会秋の集会、久しぶりで山仲間との旧友を温め、楽しい一日でした、武田会長初め皆々さんに厚く御礼申し上げます。

又木曾の柿其渓谷で始めての沢登り、皆様にはたいへんお世話を掛けました有難うございました。気持ちがすっきりして楽しいかったです。今度はもう少しやさしい所につれてください。田辺さんお世話様でした。

楽しかった駒王　unoki. morimoto

１２日は柿其渓谷上流遡行、夜はキムチ鍋。１３日は柿其渓谷本流遡行、夜は３２名ご参加の大親睦会と楽しいひと時をもち遅くまでワイワイの談笑。本当に若き日に戻った駒王でした。準備していただきました皆様ありがとうございました。　鵜木　森本

お世話になりました。楽しかった。　福田信三

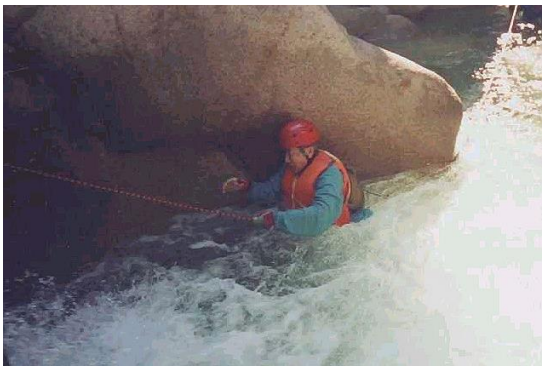
秋の集会、神戸を出発して、戻るまで楽しく過ごさせていただきました。幹事の皆様ご苦労様でした。特に大森さんには山岳寮の制作ありがとうございました。秋の集会は、特に関東勢の皆さんとお会いできるのが、大きな楽しみです。来年はいよいよ、大関さんの土俵入りが見られると感じました。最後に、車に乗せていただいた牧野さん、同乗者の與利一さん、伊丹さん、石原さん、お世話になりありがとうございました。福田

有難うございました。　柏　敏明

柿其渓谷、駒王と色々とお世話になり、有難うございました。それにしても、びっくりしたのは、遡行隊の物々しいいでたちでした。まるでフロッグメン。これでは、ちょこっと行って、ちょっこと遡行することは、とても、出来ません。来年の７月、８月に、昔の格好で是非連れて行ってください。

お世話になりました　田邊　潤

柿其へご同行下さった方々、木曽駒集会をお世話くださつた皆さん本当にいろいろ有り難うございました。楽しかった３日間でした。



沢登りで小生がフロッグマンのような出立ちをしているのは、柏さん、それは年だからですよ。ちょこっと行って、ちょこっと遡行できたのは若い時代のこと。年をとると、冷えないように、寒さで震えないように、後で後遺症がでないように、落ちないように、怪我しないように、同行者に迷惑をかけないように、などなど

全て年令のなせる業です。

それでも行きたい。だから行きたい、という面もあるかもしれない。道具を見たり、紀行文をよんだり、買ったりで仲間とのコミュニケーションが少しでもはかれるものね。

そやからあんた、いっぺん昔の格好で行ってみぃーな。なんであんたがヨットなんかに乗っているのか、というのと全く同じとちゃうか？

ガチャ

比　良　貫井谷遡行　　１０月２６日

森本　浪川　大森

駒王の前の柿其川、寒かったですが面白かったですね。ウエットスーツは威力絶大とのことで、「これがあったら厳冬期初遡行がなんぼでもできるデ」とは着用した浪川さんの言でした。

さて、その浪川さんから金曜夜中に電話があって「比良の貫井谷知ってるか？」

20 年ほど前に女の子を含むグループで登ったことをお話すると、いささか興ざめのご様子でしたが、「そやけどやっぱり比良で一番難しい谷やろ」と、結局土曜に大津で森本さんと合流して小雨の中登ってきました。浪川さんは雪の季節になっても登られるご様子ですが、私は今シーズンこれで区切りにさせてもらいます。

４０数年振りに尾瀬　　１０月

越田夫妻

４０数年振りに尾瀬に家内と行って来ました。ハイシーズンを避けた甲斐あり静かな初冬の風情を楽しみました。ほとんどの小屋が閉めたあとで、第２長蔵小屋というのが開いてましたので１泊しましたが、定員１００名のところを客わずか４名で、小屋じまいの従業員のほうが倍くらい居ました。小屋泊まりもこんな風だと快適です。夜半から降りだした雪は翌日も降り続き、大雪となりました。初日は晩秋の風情、翌日は思いがけない降りしきる雪中行軍となりました。下駄履き状態の木道に数十センチの積雪があるとやっかいで、踏みはずしてもんどりうって転倒するなど、ちょっとしごかれました。鳩待峠に駐車した車は、たまたまこの夏不精して、スノータイヤを履いたままでしたので助かりました。麓の温泉まで逃げ帰りほっとした次第です。

晩秋の甲武信ヶ岳　　１１月４日～６日

山本真　森本

奥秩父甲武信ヶ岳に行く。九月瑞牆・金峰にっての二度目の奥秩父である。中央道駒ケ根辺りを走っている時ミゾレ交じりの雨で心配したが、諏訪に入ると一変し青空となる。甲武信ヶ岳への稜線からの眺め抜群であった。南ア駒・北岳、霊峰富士は、既に冬の姿を見せている。秩父連峰は谷川辺りで雪を落として来るせいか金峰山に申し訳程度の雪しかない。４日泊まった十文字小屋(2035m)は今時めずらしいランプ生活、外気温－８℃で水が凍るとかで水筒抱いて眠る。この寒さで雪はないが、甲武信ヶ岳の頂き１５分程でお別れを強いられた。千曲川源流の湧き水を飲んでの下山、本当においしい水でした。二回の秩父訪問でありましたが、何かが違うと。千曲川源流歩道の唐松落ち葉を踏みしめる足、何かが違うと問うている。下山後越田さんより聞きし白木屋に泊。新しく出来た新館に泊まりる。まだコッシン泊まってないでと悦にひたる。越田さんいい旅館でした。ご紹介ありがとうがざいました。

東京甲南山岳会　　１１月９日

山口雅也（13 文）	伊藤文三（15 文）
福井　實（17 理）	茂木光隆（18 理）
伊藤五介（26 文）	米山悦朗（29 年）
砂川彰雄（32 経）	越田和男（36 理）
大関和夫（37 経）	岡田英暉（38 営）
水渡清夫（40 営）	柏　敏明〈41 経〉

先に伊藤五介さん、関西の柏　敏明さんから紹介がありました様に、先週末１１月９日昼、ＪＲ品川駅東口のそば会席「とふろ」に集合。最年長の、山岡静三郎先輩（昭和１１年卒）は残念乍らお見えになりませんでしたが、次の１２名の出席を得、更に幹事の設営も相俟って楽しく、美味しく、懐かしく一時を過しました。関東在住の甲南山岳会のメンバーは３０名以上と聞いておりますが、来年の春（一寸早いか？）には若い元気なメンバーがもっと沢山顔を揃え

て頂きたいと思います。幹事の皆さん色々と有難う御座いました。グリン

東京甲南山岳会　伊藤五介

大関さん９日はお世話様でした。皆さんそれなりにお元気でなによりです。それにしてもグリーンさんははつらつとしてあやかりたいものです。

ガーヤンさんにも小生の知らない亡き第一ノンキの話などお聞きし感無量でした。若手?の皆さんもありがとう。

お世話になりました。　柏　敏明

東京出張に引っ掛けて、９日の東京甲南山岳会会合に出席させて頂ききました。旧制の方と新制の方が丁度半々の１２名の方が出席されていました。大関先輩の名設営のお陰で、おいしいそば料理と飲み放題のお酒、又、大町の山岳博物館の話等、楽しいお話を一杯聞かせて頂いて、ほろ酔い気分で新幹線にのりました。

只、小生が出席者の最年少と云うのが少しさみしかったです。若いＯＢの方々も是非出席してください。因みに、当日は、小生の誕生日にあたり、満６０歳の還暦を出席の皆様に祝っていただきました。東京甲南山岳会の皆様、色々とお世話になり有難うございました。

キノコとカニの夕べ　扇の山　　11 月 23 日～24 日

武田　森本　塩崎　浪川　山本真
大森　山本恵

キノコカニ鍋キャンプ、ご参加有難うございました。特に森本様、遠方からのご参加有難うございました。異常な積雪で心配していた扇の山ですが、地元の方と皆様の共同除雪作業の結果、結構上まで車で上がる事ができました。足首から膝の雪のなか、山頂まで行かれた森本さん・山本真さん、キノコ採りにおつきあいいただいた武田さん・塩崎さん・浪川さん・大森さん、お疲れ様でした。今の時期には珍しく快晴のなか、思わぬクリタケの大漁、雪のなかになんとか残っていたナメコとムキタケと、森の恵みを鍋と味噌汁にして美味しくいただきました。焼きガニ、カニ味噌、カニ鍋を堪能しました。翌日の競市では、またまた沢山のカニを仕入れ、お土産もしっかりと。加藤文太郎記念図書館を訪ねた後、帰路へ。楽しい２日間でした。春には山菜ツアーをと言うリクエストも･･･。考えてみたいと思います。

丹 沢・初 冬　　１１月３０日

米山　大関　飯田　越田

予報はずれの小春日和の先週土曜日、関東の常連４名で丹沢は水無川上流に遊んだ。この辺り久しぶりだが以前よりも雰囲気良くなっている。土曜日にしては静かな山道を、元気オジサン米山氏のみ書作新道を稜線まで往復、越田はF5 まででダウン。稜線近くには鹿がウヨウヨだったそう。昼時には日溜りの河原で大関力作の鴨鍋と茸めしを楽しんだ。今年はこれでお仕舞いかな。

中 国・黄 山　　１１月

越田

上海に駐在中の息子夫婦を訪ねがてら中国を旅した。どうせ行くなら少しぐらい山らしいところにも行きたいと黄山を選び、山麓（屯渓）と山上のホテルにそれぞれ一泊した。標高 1800 m程度で、岩登りは禁止されており、従って登山の対象ではないが、山水画の原形のような奇岩・希松はスケールが大きく、岩壁に作られた桟道では一寸足がすくむほどで、圧倒的だった。朝夕にガスがかかったりするのでますます山水画そのものの雄大な景観になる。山上へはロープウェイがあるが、散在するホテルへは石段を

登ったり下りして徒歩でしか行けない。輸送はもっぱら苦力によるらしい。三ツ星クラスのホテルで感心したのは、清潔で佇まいもよく居心地良かったのと、食事が何と地元産の山菜野菜中心のフルコースを出してくれること。しかもちゃんとしたクロス付きのテーブルで。日本からわざわざ黄山に出かけるのはともかくとして、山好きのひとなら中国旅行のついでに立ち寄られるとよろしいのではと思うのです。山上は広く、ハイキングコースがいくつもとれるので最低２泊したいところです。

１２月例会は忘年会　　１２月６日

１２月例会は忘年会です。小原、鈴木、牧野、武田、村上、塩崎、石原各氏の参加予定です。場所は豊国、１９時開始。楽しみにしております。　（森本さんご参加の書込みも別にありました）

楽しい忘年会　鈴木頼正

昨日は芦屋豊国での楽しい忘年会　与利一さんはじめ皆さんに大変御世話になりました。JR は事故の為、芦屋から茨木まで満員の普通でしたが無事帰りました。甲南山岳会の皆さん、よいお年をお迎えください。来年もよろしく。

中央アルプスの黒覆尾根　　１２月２８日～３０日

西濱　米谷（佛教大学ＯＢ）他友人３名

中央アルプスの黒覆尾根へ行ってきました。予定ルートは黒覆山－主稜線－池山尾根。結果は、予定未消化。1 日目（12/28）：取り付から丸一日かけてブッシュ漕ぎして登ったら林道に出会う。黒覆山直下幕営。２日目：概ね膝ラッセルを丸一日かけて田切岳下の核心部直下にて幕営。3 日目：プラブーツにクラック発生！空荷にて田切岳アタック＆同ルート下降に予定を変更。しかし、核心部を越えたところで時間切れ！あぁ一楽しかった。

忘 年 会　１２月３０日

美田　武田　塩崎　大森　山本恵
新ＯＢ池内

今年はちょっと少なめ、６名のご参加でした。今年のスキーや沢登りや登山のこと、山岳会行事のこと、学生時代のことなどを酒のサカナに、途中川野君の電話参加もあったりして盛り上がりました。

取立山またまた延期で瀞川山　１月５日

大森　山本恵

今日、大森さんと取立山に行く予定でしたが、高速大渋滞のニュースと大雪予報の為、安全第一、またまた延期しました。その代わりに、村岡町の瀞川山に行って来ました。昨年は南側からハチ北スキー場経由で行きましたが、今回は兎和野高原経由で北側から行って来ました。

野外教育センターから少し行った林道登り口に車を止め、スキーにシールをつけて出発（10:10）。ここでは猪猟の人たちがいて、話を聞かせてもらう。晴れ間がのぞく中、ジグザグに林道を登り、オリエンテーリングのポストがあるところからハイキング道でショートカット。再び林道に出て、ひたすら登ると傾斜の落ちたまっすぐな林道に。直線が終わる頃、左の杉林を登ると瀞川山山頂に到着（12:15）。この頃には雪がひどくなって冬山らしい雰囲気。思ったよりすべってくれない雪に苦労しながら、林道をたどり車へ戻る（14:00）。車を出す頃には猛吹雪。

今シーズン初すべりは、歩行トレーニングのようになってしまいましたが、久しぶりの白い世界がきれいでした。

白山絶景、取立山スキーツアー　　１月１２日

大森　山本恵

取立山に行って来ました。前夜１５７号線沿い東山いこいの森入り口で車中泊。

国道からすぐにシールで出発（7：10）。林道を所々ショートカットしながらキャンプ場を経て終点駐車場へ。天気は良いし、広々して良い感じの所。ここからの急登はジグザグ登山道にしたがって高度を稼ぐ。上部のなだらかな尾根をたどると、取立山山頂（10：10〜11：00）。名前の通り、真っ白な白山が目前にそびえ絶景。同じ所を下るのも物足りないので、綺麗な雪面の続く一本北の尾根を下ることにする。山頂から東面の広い斜面をすべり、取立平避難小屋経由で、1264m ピークへ登る。そこから西へ伸びる尾根へ。尾根上に道の切り開きが有り、新雪滑降を堪能。道にしたがって、南斜面をジグザグに下ると谷に出た。標高を下げると急激に雪が重くなる。スノーブリッジを慎重に渡って、昼食（11：50〜12：30）。谷沿いを快適に下るとすぐに大滝の落ち口。左岸の急斜面を横滑りで下り、登山道に上り返す。大滝は20mほどの立派な滝だった。ここからしばらくは、安定はしているが湿った深雪急斜面のトラバースが続き、なかなかシビアだった。傾斜が落ちてからは、道を離れ、ミズナラや杉林の中を適当に滑って、下の林道へ出た。後は林道楽チン滑降で、国道まで（14：00）。なかなか変化に富んだ充実したスキーツアーでした。

妙高スキーハイク　　1月11日〜１３日

田邊　雨宮　森本　浪川　山本真

3 連休に妙高の「植木アルペンスキースクール」のスキーハイクに参加して来ました。2 日半の全日程参加は、小生の技術・体力では少しきつすぎました。今日も筋肉痛が残ったままです。来年は参加を考慮せねば、などと考えています。一緒にハイクに付合ってくれた山本さん、そしてアメさん、カンさん、ドンキチさん大変お世話になりました。

鋸岳行こうとしました　　1月１８日〜

西濱　他友人２名

鋸岳へ挑戦しに行ってきました。熊穴沢から角兵衛沢へ抜けようとしました。すったもんだがあって、戸台川を歩き始めるのが夜の１時。稜線に出たのが朝９時。結局、大ギャップの懸垂下降ににザイルが足らず敗退。ザイルは２本必要です。戸台川取り付きの車に戻ったのが午後７時。あれが一般縦走路なのかと驚くところでした。

ＮＺトレッキング　　２月１日書込み

越田

一昨日２週間のニュージーランドの旅から帰って来ました。ハイライトはグリーンストン・ルートバーン・トラックの５泊６日の山旅でした。

我々日本人６名にオーストラリヤ人７名、ＮＺ人３名計１６名の客に現地の３人の屈強な若者がガイドに付くという誠に贅沢な旅です。

山岳、渓谷、湖沼の景観、清潔で快適な山小屋、ガイドのHospitalityなど想像以上でした。

当方メンバーは雨さん、バブさん、仙吉、鵜木、小生のみ家内連れの計６名でした。

本号 － 紀行 － に記事があります

比　良　釈迦岳　　1月２５日

森本

比良山イン谷口〜大津ワンゲル新道〜釈迦岳〜山上駅歩いてきました。つぼ足で行った為雪深くラッセルさせられました。他の登山者はワカンやスノウシューで歩いていた。無雪期なら３時間のところ倍の６時間かかりました。武奈ガ岳まで行く予定がだめでした。来週再挑戦で武奈まで行けるか。誰か武奈の頂上から山スキー挑戦しませんか。

久し振りに集まりました　　2月１日

神前君の奥さん　鵜木　井本夫妻
伊丹　奥山　塩路　堀田　藤原　安井
柏

梅田のホテル阪神の中華料理店で、神前君の奥さんを励まそうと３６会を開きました。鵜木さんのＮＺ土産話や何十年振りかで出席をした、藤原君の闘病話等で、神前君の奥さんも大笑い。大分、元気を取り戻されて、皆もほっとしました。山とは縁遠くなっている連中ですが、現役時代の雰囲気は変わっていません。次回も山に

登る話ではなく、鴨を食いに行こうと張り切っています。

静寂の上高地　　２月５日～６日

鈴木頼（グループツアー）

静寂の上高地を散策しました。2 月 5 日（水）白骨温泉　かつらの湯　丸永旅館に泊まり、翌朝 8 時アイゼンを装着して釜トンネルに入り、そのまま大正池に着き、スノーシューに履き替え、田代池から自然探勝路を経て、河童橋に辿り着きました。焼岳に時折薄日が差し、梓川と岳沢がはっきりと見えました。2～3 グループがいました。雪の量は昨年より多いそうです。帰り乗鞍高原ゆけむり館で入浴して帰りました。乗鞍はスキー客も少ない様でした。夏の銀座と違い冬は白い桃源郷です。是非お出かけください。　　鈴木頼正

雪見会　　飯田　進

来年２月１５・１６日泊で雪見会やります。
場所　栂池高原ロッジ前田舘
（一泊二食酒付き7,500円）
目的　１親不知で鮟鱇鍋をつついて一杯やる。
２露天風呂で後立の景観を堪能した後天麩羅蕎麦で一杯やる。
３ゲレンデにでてスキーをやる。
４スノーシューズか山スキーを履いて天狗原辺りまで散策にでる。
５宿屋で一日管を巻く。
その他なんなりと楽しめます。ご参加お待ちしております。　（１２月１２日書込）
（２月１４日（金）の夜から１７日（月）の朝までに参加した人は 雨宮 米山 田辺 越田 平井 大関 飯田 武田の皆さんでした）

氷 ノ 山　わさび谷山スキー　　３月２日

大森　山本恵　山本友人１名

小雨の神戸を 5:30 に出て、山陽道中国縦貫道を使うと若桜氷ノ山スキー場に８時着。リフト２本乗り継いで尾根取り付きへ(8：50)。リフト降り場にはすでに 10 数人が出発準備中。前日の雨で凍った斜面をキックステップ、途中からスキーを履いて三の丸展望台へ(9：50)。視界良好な中、小ピークを越えて、最後一頑張りで氷ノ山山頂小屋へ（10：45～11：30)。シールをつけたまま、３番の看板があるわさび谷下降点へ戻る（12：00)。ここから西へブナの間をぬって急斜面を下る。先日の雨で締まった上に昨夜の新雪が程よく乗っていて雪質良好、天気も晴れてきた。ブナの枝には雪がついて白く輝き美しい。谷に下りると傾斜も幾分落ちて、滑りやすい。ミズナラやトチの大木が良い雰囲気。途中、右手から昨日の雨で雪崩れたと思われる大きなデブリ。でも今日は安定している。

さらに下ると川の流れが現れ、スノーブリッジを渡ったりしながら、適当にコースを選んで進む。快晴の中、春の陽気。杉林が現れるとしばらくしてゲレンデに辿り着き、駐車場へ（13：30)。帰りにゆはら温泉ふれあいの湯（￥400）に入って気分は最高。

雨宮山荘　　３月１４日～１５日

天気よければ南アルプスばっちり見えます。温泉と酒だけの人も歓迎。
スキー、山スキー、軽登山は各自自由。
３月１４日１８時頃発「出発時間相談ＯＫ」
（３月３日書込）
（参加は　田邊　雨宮　武田　塩崎　三倉の皆さんでした）

野伏岳山スキーand 雨宮山荘　３月１４日～１５日

大森　山本恵

何度も計画だおれだった岐阜県野伏岳に大森さんと行って来ました。また、帰りには突然でしたが、雨宮さんの山荘へお邪魔して、皆様と

楽しく過ごさせていただきました。

１４日(金)夜９：30 神戸発。１５日(土)1：30 石徹白白山中居神社着。車中泊。朝寝坊して８：00 発。スキーでひたすら林道を登ると、突然和田山牧場に着いた。広々してなかなか良い所。雪原を横切ってダイレクト尾根の取り付きに行く(10：00)。脛までのラッセルで急斜面をトラバース気味に登り尾根上に(10：30)。途中急傾斜をジグザグに苦労して越え、東面ルンゼ源頭につく。この辺り、クラストした上に数センチ新雪が乗っていて、油断すると新雪ごとずり落ちていく。尾根をたどると、ガスで視界の無い山頂着(12：50～13：20)。山頂からシールをはずして滑降。雪もそれなりに落ち着いているようなので、私は東面ルンゼを、大森さんはダイレクト尾根を忠実に下る。東面ルンゼは 30 度ほどのブッシュの無い斜面が牧場近くまで続き、標高差 500mを一気に下る事ができる。上部は適度なクラストで滑りやすかったが、下部はいびつにクラストしており潜ったり、引っ掛ったりして気を使う。下の平坦部まで 15 分ほど、一瞬の、しかし価値ある快楽でした。大森さんと合流し、ガスも晴れ、均整の取れた野伏山頂を見ながら牧場を横切り、林道をひたすら下って車まで(15：00)。白鳥ＩＣ近くの白鳥温泉で体をほぐし、急遽、塩崎さんの携帯に連絡をとって、高速を飛ばし、雨宮さんの山荘を訪問させてもらった。16 日朝ゲレンデに行かれる皆さんとお別れをして、昼過ぎ神戸へ。肉体的には疲れましたが、楽しい山行でした。

昼闇山・焼山はスキーパラダイス

３月２３日～２４日

渓流釣り班　武田

山スキー班　大森　山本恵

２日間とも快晴の中、山スキーを堪能してきました。昼闇山・金山のたおやかな姿と海谷の鋭い峰々、なんとも日本離れした不思議な風景の広がり。こんなに自由に斜面を選んで雪の中を徘徊できるなんて、今まで経験した事がありませんでした。頚城は最高！

３月２３日渓流釣りに行かれる武田さんに見送られて、大森さんと焼山温泉発（7：00)。アケビ平から適当に斜面を選んで登り、予定していたルートから外れてしまったが、結局、昼闇谷をつめて北尾根を回りこみ鉢山のコルへ（12：30)。

緩やかな雪原の向こうに烏帽子岳、阿弥陀岳の絶景が望める。のんびりし過ぎたので鉢山山頂はカット。二重山稜の変な稜線を進み、急斜面を登って短いやせ尾根をつぼ足で越え、再びスキーで登ると昼闇山（15：30)。少し下って上りなおし 1787mピークの東端南斜面に雪洞を掘る（16：15)。焼山が正面にそびえる最高のホテル昼闇！中はロウソクでキラキラ、快適！

２４日 7：00 雪洞発。シールをつけたまま滑ったり登ったり。坊々抱岩下のダケカンバにザックを置き（8：30)、アタック装備で緩やかな谷をつめる。稜線 2150m（10：00～30）でスキーをデポしアイゼンに履き替え、山頂への急斜面をひたすら登る。焼山山頂（11：30）からは 360 度の展望。金山・雨飾のむこうには鹿島槍、五竜、白馬から親不知までの今井ルート？（*）がはっきりと。振り返れば、昨年の三田原山から火打山のルートは箱庭みたい。景色を堪能し、スキーデポ地へ下る（12：00～20)。ここからはスキーで下るのみ。重い雪の中、なんとか曲がりながら最後は直滑降でザックデポ地（12：40)。やっぱりスキーでの下りは速い。そこから、北面台地を高度をできるだけ下げないように斜滑降。途中のハーフパイプのような谷は雪庇のような所を落ちるように下り、対面の急斜面を斜滑降。樹の根元から兎が走って逃げていく。1550m地点で最後の谷を越える（13：30)

と後は緩やかな斜面を下るだけ。広い斜面を二人占め、スキーパラダイス。振り返るとドーンと焼山が聳えている。台地末端はトレースに導かれて、左端からアマナ平へ。腐った雪の中、歩いたり滑ったりを繰り返し、最後にジグザグ林道を下って河原に出ると（15：00）、武田さんが車をまわして待っていて下さった。武田さんのお薦めで山の見える焼山温泉で汗を流し、天気が崩れそうなのでもう一日の予定を変更して、ヤマメをお土産に神戸へ。とても変化に富んだ充実した山行でした。

（＊）今井ルート

山本君の報告中、「白馬から親不知までの今井ルート」とあるのは、そのムカシ、今井君（山本君と同級　56 年経済卒）が、春山で針の木（だったと思います）から白馬の合宿を終えて、エッセンも残ってるしせっかくここまで来たからと、引き続き個人山行に切り替えて１年下の大勝君と二人で、白馬から雪倉をこえてせっせとラッセルに励み、日本海まで歩き通した「故事」によります。一荒れ来ると二人だけのラッセルはオオゴトで、毎日毎朝ラジオを聞きながら空を仰いで「行こか戻ろか」と悩んだそうです。写真１枚に収まらない稜線の景色を眺めて「長いなあ」と感じ入りました。

今井君は当時パワー絶大のラッセルマシンでしたが、今は年末年始をヨーロッパで過ごすスキーヤーに変身しています。

ヒマラヤの写真　　３月２７日書込み

塩路　晃二郎

本業を続けながら 29 年間に渡って世界 192 カ国を訪問し満願成就された南里先生の偉業には拍手喝采です。しかもその体験を歴史的背景とともに 460 頁の紀行文に纏め上げたその文才にも敬服しました。

南里先生とは比較にはなりませんが小生も世界遺産巡りを思い立ち現在ユネスコに登録されている 690 箇所のうち昨年末まで約 20 年間でやっと９1 箇所を訪問する事ができました。

これからも時間と体力と財力が許す限り、そして介護保険の世話になるまでの限られた期間にできるだけ世界遺産を訪問してみたいと思っておりますがどうなることやら。

今年は１月に諸先輩のカラコルム、パミール、チベット遠征に刺激されネパールの世界遺産・カトマンズの谷（バクタブル・パタン）を訪問してきました。

そのついでにドウリケル、ノーダラ、サランコットの丘から念願のヒマラヤ連峰を眺めその雄大さに大感激してきました。その写真の一部を送付します。アンナプルナ、エベレスト周辺のトレッキングマップも入手してきましたので関心をお持ちの方はご連絡下さい。

ポカラの国際山岳博物館は日本山岳会始め世界各国からの寄付によって今年５月２７日（エベレスト登頂記念日）にオープンするそうです。日本から山岳愛好家の来訪を歓迎しますとのことでした。

甲南山岳部に入部し初めて行った日本アルプスの雄大さに感激し山に魅せられて、その後も機会をとらえカナディアンロッキーやヨーロッパアルプス（モンブラン、ユングフラウヨッホ、マッターホルン）に登山電車やロープウエイを駆使して登りましたがヒマラヤのスケールは別格でした。

又現地で会った日本からのヒマラヤ旅行者に高齢者が意外と多いのに驚きました。最近の高齢者は昔に比べ元気な人が多く、我々も昨年は還暦登山を企画してもらい同期で蒜山に登山しましたが体力の衰えは仕方ないにしても、気持だけは何時までも若々しくありたいと思いました。

２００２年度　甲南高校山岳部　年間活動報告

神 戸 謙 司　（甲南高校山岳部顧問）

甲南高校山岳部部員：顧問
主将　：　山内　寛之　（高１Ｅ）
主務　：　神澤　太一　（高１Ｄ）
記録　：　北川　裕也　（高１Ａ）
顧問　：　南里　章二　　神戸　謙司

山行一覧
６月　北摂の弥十郎ガ岳
８月　夏合宿　八ヶ岳定着～黒百合平
11 月　六甲の瑞宝寺谷～六甲山
１月　京都山科～大文字山
２月　京都水井山・横高山～比叡山
４月　春合宿　氷ノ山山塊の鉢伏山

◎　北摂の弥十郎ガ岳　6 月 24 日　小雨

山内・神澤・北川・神戸

8:40 三田-9:36 後川上- 11:07 弥十郎ｶﾞ岳山頂　雨が降り眺望は悪い-11:32 山頂 発-13:42 出合橋バス停- 伏渓山荘で風呂-16:21 発-小柿-17:26 三田

全体的に急だったのに加えて雨だったので、普段よりも疲れた。個人的には下山後の風呂はとてもよかったと思った。　　（神澤　記）

◎　夏合宿　八ヶ岳定着～黒百合平

神澤・北川・山内・神戸

８月７日　曇り

新大阪 8:30-JR 名古屋-10:53 塩尻-11:45 茅野（昼食）- 12:10 茅野 発(バス)-13:03 美濃戸口-16:40 赤岳鉱泉 着 -21:30 就寝

入山ということで荷物も多く、それを背負っての３時間の行動は非常にきつかった。休憩が１度ですんでいることが不思議でしょうがない。また、これで膝痛を起こしていた者もいたので、こういう時はあらかじめ対策を施しておくことも１つの手だと思った。

テントに関して、一見平面と言ってもいいほどの傾斜でもいざ寝てみると結構な傾斜だったのでそこらへんにも気を点けるといいと思ったことと、テント内では装備品を常に片づけておかないと後で困ることを痛感した。専用バッテリーを使う機械類を持ってくる者は、予備を持ってくるか、もしくは電力の配分を考えて使うべきだと思った。

（神澤　記）

８月８日　　晴れ

5:40 起床-6:16 食事終了 7:28 出発-9:14 赤岳-9:57-11:18 阿弥陀岳-12:46 行者小屋-13::23 キャンプ地-21:30 消灯・就寝

非常に天気が良く、山の頂上から見た周りの景色も最高であった。赤岳の頂上からは富士山を見ることもできた。失敗は、せっかく持っていったデジカメを初日で電池を切らしてしまったことである。予備の電池は持っていかなくてはならない。

（山内　記）

８月９日　　曇り

5：50 起床-6：30 食事終了-7：10 出発-8：35 硫黄岳　8：57-10：00 横岳 10：10-11：07 赤岳展望-12：37 行者小屋-12：58 キャンプ地-14：00 食事準備-16：00 食事終了-17：10 赤岳鉱泉の風呂 18：10-20：30 就寝

雨具に着替えられたのが良かった。軍手着けて良かった。感激！！！　（山内　記）

硫黄岳の山頂が激寒かったッ。　（北川　記）

８月１０日　　曇り

5：40 起床-6：20 朝食終り-7：43 赤岳鉱泉出発-9：03 赤岩ノ頭-9：20 硫黄岳-9：43 硫黄岳出発-10：18 夏沢峠-11：20 根石岳登頂-12：02 天狗岳登頂-13：40 黒百合平キャンプ地到着-14：10 夕食-16：00 夕食終り-20：30 消灯・就寝

今日もまた少し寝坊をしてしまった。この日は一日中風が強く、少し寒かった。天狗岳の頂上では、神澤がおばさんたちに「こんな大きい子見たことないわ！」などといわれ、大人気であった。キャンプ地の手前にあった岩場では、前の日のようにケガをしないよう気をつけながら歩いたのだが、それも空しく風に押され、ケガをしてしまった。やはり足の力が足りなかったのだろうか？これからはふだんの練習でもっと足を鍛えていこうと思う。　（山内　記）

８月１１日　晴れ

5：33 起床-6：22 朝食終了-7：37 出発-8：20 唐沢鉱泉と渋の湯の分岐 8：43 出発-9：49 渋の湯到-11：20 バス渋の湯出発-12：15JR 茅野到着（自由時間）-13：00JR 茅野出発-13：40JR 塩尻到着（自由時間）-14：44JR 塩尻-18：52JR 大阪

荷物は出しやすくしておく。レーションの飴が少し多いカモ。個人装備にサンダルを入れたら便利。Smap!の炭酸がキツかった（北川）。山内は飲みきれず最終手段で捨てた。解散後、うろつく場合はザックをどっかに置いておいた方がイイ。そのおかげで、ヨドバシで警備のおっちゃんにスゲェと言われ、親子がビビッて道を空けた。

（神澤、山内談）

◎瑞宝寺谷～六甲山　１１月９日　雪のち曇

山内・神澤・神戸

8:30 阪急芦屋川-9:50 有馬-10:00 瑞宝寺谷取付-12:50 一軒茶屋 14:00-14:30 東おたふく山-15:50 阪急芦屋川

六甲登山の下見を兼ねて、毎年１１月に六甲に登ってきた。今年は４年目であり、ここ数年は六甲の谷筋より六甲山、下山に東おたふく山から風吹き岩のコースをたどっている。早朝、芦屋川から六甲を越えるバスに乗る。冷え込んだ朝であり、車窓から六甲を望めば、鈍色の雪雲がかかっている。案の定、山の上は激しく雪が降っていた。バスはブレーキテストを行い、下界の有馬へと向かう。小雨の中、瑞宝寺谷取り付きにある寺社、名前は瑞宝寺であったか、の紅葉は見事であった。

山内の出題によるなぞなぞを考えつつ、谷筋に沿って登って行く。枯れ果てた藪を抜け、堰堤の工事現場にたどり着いた。またもや、飯場のテントをかりてちょっとの間、休憩をする。さらに谷筋を詰め、杉林を抜けるころより、いよいよ雪が降り始めた。登れそうなところをひたすら登りきる。雪の積もったブッシュ漕ぎは手袋、ズボンを

びしょびしょにしてくれた。やたらと手が冷たく、空を見上げる。神澤の持っていたカイロに、一同おおいに感謝する。六甲の北側の斜面はさぶい。しばしぬくもり、ぬくもった心で、神澤ありがとう。

六甲縦貫道路に出ると、雪はやみ、木漏れ日さえ差している。すぐに一軒茶屋に飛び込む。みんなで、カレーとコーヒーを頼み、ついでに持ってきていた弁当もそこで食べさせてもらった。1 時間以上も休ませてもらっていただろうか。歩きなれたおたふく山、ロックガーデンをひたすら下って、芦屋川に着く。良く整備されており問題なし。山内・神澤の成長のみられた楽しい登山であった。

（神戸　記）

今回の山行はあまり寒くないだろうと思い、防寒具などにはそれほど気を使っていなかった。しかし、六甲山には予想以上に雪が降り積もっており、かなり寒い思いをすることになってしまった。しかも途中で道に迷ってしまい、雪をかき分けて何とか知っていると所に出たときにはもう手が凍るほど冷たくなっていた。しかしそれは神澤が持っていたカイロのおかげで助かった。

これからはこういうことが起こることも考えて装備はしっかりしていこうと思う。（山内　記）

◎京都山科～大文字山　1 月 12 日　晴れ

山内・神澤・北川・神戸

8：32JR 大阪-9：05 山科-１0：05 池谷地蔵分岐-１0：31 尾根出合-１1：05 大文字山-１2：00 銀閣寺-１3：20 京都大学で昼食-１5：10 阪急梅田

今回の山行は特にアクシデントもなく、スムーズに行えたと思う。反省は後半あたりからメモがあまり取れなかった。

※神澤が新たに″作業員″というニックネームを取得しました。

ヽ(゜∀゜)メ(゜∀゜)メ(゜∀゜)ノ（北川　記）

◎京都水井山・横高山～比叡山２月１５日

天気：晴れ

山内・神澤・北川・神戸

8:41Ｒ大阪-9:40ＪＲ京都駅前バスターミナル(京都バス)-10:37 野村別れ 10:47-11:35 仰木峠　非常に眺めが良かった 11:55-12:22 水井山-12:45 横高山-13:28 釈迦堂 13:38-14:20 山頂　昼食 14:52-15:27 ケーブル駅 15:35-15:53 水飲対陣跡-16:00 鳥居/ここからが悲劇の幕開け/迷った/引き返し/隣の道を出発/なおも迷っている/町が見えていて道も有るので半ば強引に進む-17:20 どことも分からぬ下界（武田薬品の栽培場の近く）-17:57 バス停修学院発-18:50 京都駅前バスターミナル-20:03 大阪

今回の山行で特筆すべき点は何といっても道に迷ったことだろう。確実に言いきれることは各自が結構人任せだったことが問題だということだ。先生一人に任せずに自分らでも見ていればこの場合少しはどうにかなったんと違うかなと思う。あと、今回は誰もちゃんとした地図を誰も持って来てなかったのでいかなる場合でも最悪の事態を想定して持ってきとくべきだと思った。因みに父親曰くあの迷った道は登りは分かりやすいが下りは混乱する類の道だったらしい。話が変わるが、やっと降りれたとき、その登り口には本物の猟銃を持った猟師らしき人達がたむろしてた。一つ間違えれば猪や何やらと間違われて撃たれてたかもしれなかった。あの時は冗談で言っていたがそういうのも調べてから行かないと今度こそ撃たれるかもしれない。ので、その点にも今度から気をつけるべきだと思った。（神澤　記）

◎春山合宿　鉢伏山

山内・神澤・北川・神戸

４月３日　　曇り

9:10　芦屋駅-はまかぜ１号-12:05 八鹿-12:15　昼食-13:15　全丹バス秋岡行-14:50 秋岡着　自然の家の方が迎えてくれる-15:00 自然の家-15:40 ショートスキー練習。アイゼン合わせをする-18:10 終了-18:25 宿舎帰着-19:00 夕食（ごはん・豆腐ハンバーグ・おからだんご・味噌汁）-22:30　消灯・就寝

今年の残雪は例年どおりに残っていた。標高約 700 メートルにある美方高原自然の家周辺にあってはきれいに除雪されているものの、キャンプ場などたっぷりと雪があり、そこでショートスキー練習とアイゼン合わせを行った。夢中になっているうちに夕食の時間となる。空を見上げると、筋状の雲が出ているものの晴れており、ひょっとすると明日までいけるかと思われたのだが…。

４月４日　　天気：雨

6:20　起床するも雨、また眠る-7:10 朝食、待機-10:00 小雨となったので、高丸山まで行く-11:00 霧が谷筋よりもくもくと上がってくる-雨具を着て出発-11:10 自然の家のキャンプ場炊事場で弁当-12:15 尾根上 900 ㍍付近の一本松に達する-12:40 小代のコル南の 1,048 付近稜線上。霧雨視界なし-13:30 鉢伏山を目指し、高丸山その先へと進むが、ルート判断しにくく撤収する-14:50 自然の家着、装備の手入れ-17:00 入浴-18:30 夕食（ごはん・鮭のホイル焼き・揚げだし豆腐・味噌汁）-22:30　消灯・就寝

朝起きると、雨であり、また眠る。１０時まで様子をみるも雨の上がる気配はない。明日も同じような天気が予想されたため、雨具を着て行ける所まで行くこととする。事務所でストックを借りて出発する。屋根のある炊事場で弁当を食べていくことにする。残雪をラッセルしながら行く。スノーシューを借りておけば良かった。氷ノ山と鉢伏山に連なる稜線に出るも霧雨で視界はまったくなし。持参のオレンジを皆で食べ、どうするか思案する。とりあえずいけるところまでということで高丸山へ登る。高丸山を下るとスキー場へでる。リフト降り場で休憩しながら、霧の晴れ間、ルート確認のチャンスを伺うも、まったく見えず、下山することにする。

４月５日　　天気：雨

6:50 起床-7:00 朝食。雨と霧で何も見えない-8:00 部屋の片付け掃除を済ませる-10:10 玄関前に集合。宿舎を出発する-10:29 秋岡-10:39 八鹿行きバス-11:55 八鹿-12:05 新大阪行き（北近畿）に乗車-14:45 宝塚、北川は宝塚より帰宅する。-14:55 尼崎-15:20 芦屋

本日は予備日に充てていたが、あいにくの霧雨であり、鉢伏山計画は中止とした。天気がよければ、ショートスキーの練習をしたかったところである。宿舎の片付けをし、少し早いが帰路につくことにした。そのため、予定していた姫路経由の列車には乗らず、福知山経由の列車に変更をした。宝塚で北川は家路につく。尼崎で神戸線に乗り換え、芦屋に到着する。　　（神戸　記）

編集後記

3 年前、慰霊祭のレリーフで当時現役だった池内君から「ＯＢもゲレンデに出かけませんー？」の言葉で、おじさん達の岩登りが始まりました。その頃ちょうどホームページが開設され、掲示板の書込みとメールで連絡を取り合って、週末・連休に山へ出かけるメンバーが増えました。

縦走にピークハント、ハイキングや沢登り、きのこ狩りに山スキーと幅広く山にお出かけの様子を本号の“－ホームページから－「掲示板書込みダイジェスト」”にまとめる作業をしながら、お元気だったら横山さんは参加されただろうかとか、香月さんはどんな風にご覧になったかなどと思います。

まだ学生の頃、香月さんに「このあたりに住んでいて六甲に登らないなんて、そりゃあなた、ウソですよ」といわれたことがあります。寂しくなったこの春から、「そりゃあなた、ウソですよ」がときどき頭の中に出てきます。

「そりゃあなた」は私達の年代にまで丁寧な言葉をお使いくださった香月さんの独特の口調で、柔らかく耳によみがえります。「ウソですよ」のほうは「事実と違う」というよりも「あるべき姿ではない」というくらいの意味合いでしょうか。

いろいろな出来事の中で香月さんが示された「あるべき姿」から、私達の世代ではだんだん希薄になる、ちょっと大げさにいえば「倫理観」に思いをめぐらせます。香月さんを偲ぶ会での「甲南山岳部で大いに人生を磨かれました」という國府さんのお言葉に、私もそうありたいなと思います。

今年も「山嶽寮」はお寄せいただいた原稿と皆さんのご協力で発行となりました。
次号もよろしくお願いいたします。

原稿宛先　山嶽寮編集担当　　大森雅宏
電話／ファクシミリ　　Ｅメール

山　嶽　寮　第 58 号
発行　2003 年（平成 15 年）10 月
発行　甲南山岳会
編集　山本真博　　印刷　カツヤマ印刷